# はじめに

この講座で扱う分野は、**《漢字》《慣用句》《四字熟語》《敬語》《口語文法（現代文法）》《文学史（近代以降）》《接続語空欄補充》**です。これらは、**現代日本語の基礎教養**に関わる分野ですが、通常の予備校の授業などで独立に扱われることはまれです。そこにあえて焦点をあてて、講座を設けました。

これら現代日本語の基礎教養は、中学までに学習する事項も多く含みますが、意外に忘れられています。「なんとなく」で済ませているものをこの講座を通じて自覚的に学び、体系的な知識にしていきましょう。**大学受験**でも有益な知的ベースになるのはもちろん、**社会人として**生きていく、しかも知性ある生き方をする上でも役立つものです。

なお、知識事項の復習と日々の反復学習のために左記のものを用意しました。

## おすすめの用語解説集

『読み解くための現代文単語』（シグマベスト・文英堂　小柴大輔　編著）

●漢字…………六〇〇（問題形式・チェック欄付き）
●慣用句………五三八（一覧・チェック欄付き）
●四字熟語……四六〇（一覧・チェック欄付き）

## おすすめの参考書

『小柴大輔の一冊読むだけで現代文の読み方&解き方が面白いほど身につく本』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）

# 目 次

**第一講 語彙と敬語**
1 漢字の基礎教養――間違いやすい漢字 …… p. 3
2 漢字 日々の練習問題六〇〇題 …… p. 10
3 慣用句の基礎教養――間違いやすい慣用句 …… p. 41
4 四字熟語の基礎教養――間違いやすい四字熟語 …… p. 46
5 敬語の基礎教養 …… p. 48
敬語の復習問題 …… p. 52

**第二講 文学史と口語文法**
1 近代文学史の基礎教養 …… p. 53
近代文学史の復習問題 …… p. 64
2 口語文法（現代文法）の基礎教養 …… p. 67
口語文法（現代文法）の復習問題 …… p. 75

**第三講 接続語** …… p. 80
接続語の復習問題 …… p. 90

**付録** 慣用句集 …… p. 96
四字熟語集 …… p. 117

# 第一講 語彙と敬語

## 1 漢字の基礎教養

**【間違いやすい漢字】**

★点と線……「曖昧と吟味」「衝突と均衡」「専と博」「恵と穂」

★同音異義語……「対象・対称・対照」

★勘違いの方が多い……「〇完璧 ×完壁 〇双璧 ×双壁」「〇価値観 ×価値感」

「曖昧」はなぜ不明瞭で漠然という意味なのか

日（太陽）に雲がまといついて
薄暗くなるという意味
「愛」にはまといつくの意味がある

# 曖昧

日（太陽）が未だのぼらないから
薄暗いという意味

「吟味」＝味わう・よく調べる

「含」と同様、口にふくむ
という意味

# 吟味

味をみる・調べる・物事の中身や
趣をよく考えること→「意味」

「衝突」＝ぶつかる

「行」＝道をいく
「重」＝童＝ドンという音をあらわす

# 衝突

「穴」からいきなり「犬」が
飛び出す様子

「均衡」＝バランス

「土」をならす、平たんにするという意味
二つの政策を並べて比較するという意味

# 均衡

てんびん・はかりの意味
度量衡の「衡」
牛の角にさしわたした木

「専」「専用」「専攻」「専修」

点は付かない！

# 専

「もっぱら・それだけ」の意味
もともとは「糸まき」で、一つのものを中心にして、そこに巻きつくという意味

「博」「博士」「博学」「博識」／縛・薄

点が付く！

# 博

「十」＝四方にという意味
「田」に広く苗を植えるという意味

「恵」「恩恵」「知恵」

点は付かない！

# 恵

「専」と同じ「糸まき」がベース
一つのところに「心」をそそぐの意味

点は付かない！

# 穂

穀物の恵の意味

**【間違いやすい同音異義語】**

## 対象

……意識や研究の向かう先＝オブジェクト　例　対象物

## 対称

……図形的なつりあい＝シンメトリー　例　左右対称・相称・点対称・線対称

## 対照

……内容的な比較＝コントラスト　例　好対照・対照的な姉妹

【勘違いの方が多い漢字】

〇完璧……完全で欠点のない「玉」「宝石」 とくに君がもつ玉

×完壁……完全なカベ？

〇双璧……二つ並んだすばらしいもの・一対の玉

×双壁……二つのカベ？

〇価値観……何に価値を見出すのかというものの見方、観点です！

×価値感

# 2　漢字　日々の練習問題六〇〇題

以下は、サプリの【高1・高2現代文】【高3スタンダードレベル現代文】【高3トップ&ハイレベル現代文】の講座から抜粋した六〇〇題の漢字問題です（一部重複がありますが、繰り返し出る重要漢字とお考えください）。

中学総復習から大学入試レベルまでの総合的な漢字問題と言えます。しかも難易度を変えながら何度も反復練習して、漢字の基礎教養を積み重ねることができます。

まず、傍線に該当する漢字を各選択肢から選べるようになりましょう。次に、傍線箇所の漢字を書けるようになりましょう。さらに傍線を含むカタカナ部分の熟語を書けるようになりましょう。

チェック欄が三つ用意されています。できた問題は✓（チェック）していきましょう。

チェック☑をつける

**1**

- □□□ (ア) 王様の業績をライサンする　① 参　② 惨　③ 讃　④ 酸　⑤ 産　〈③礼讃〉
- □□□ (イ) 善悪のキロがわかれる　① 期　② 岐　③ 機　④ 帰　⑤ 軌　〈②岐路〉
- □□□ (ウ) 相手に合わせて力のカゲンをする　① 化　② 科　③ 加　④ 可　⑤ 架　〈③加減〉
- □□□ (エ) ジャッカンの用意を必要とする　① 若　② 弱　③ 惹　④ 寂　⑤ 尺　〈①若干〉
- □□□ (オ) 名声は無形のホウシュウである　① 醜　② 秀　③ 宗　④ 収　⑤ 酬　〈⑤報酬〉
- □□□ (カ) 部屋の境界はカヘン的である　① 家　② 可　③ 化　④ 下　⑤ 荷　〈②可変〉
- □□□ (キ) 日本建築の特徴を示すコウレイ　① 好　② 公　③ 効　④ 巧　⑤ 功　〈①好例〉
- □□□ (ク) 障子をはずすというソウテイで考える　① 体　② 態　③ 呈　④ 定　⑤ 底　〈④想定〉
- □□□ (ケ) ダトウといえる説明である　① 堕　② 打　③ 妥　④ 惰　⑤ 陀　〈③妥当〉
- □□□ (コ) ハンゼンとしない色の混じり合い　① 範　② 判　③ 汎　④ 反　⑤ 伴　〈②判然〉

**2**

- □□□ (ア) しっかりと内容をハアクする　① 覇　② 破　③ 派　④ 羽　⑤ 把　〈⑤把握〉
- □□□ (イ) 色彩が相互にシントウする　① 進　② 侵　③ 浸　④ 深　⑤ 心　〈③浸透〉
- □□□ (ウ) 事象がユウゴウする様子　① 融　② 誘　③ 遊　④ 友　⑤ 宥　〈①融合〉
- □□□ (エ) 動物のシュウセイを観察する　① 衆　② 執　③ 習　④ 週　⑤ 集　〈③習性〉
- □□□ (オ) 宇宙探査のキュウキョクの目標　① 窮　② 朽　③ 求　④ 究　⑤ 仇　〈④究極〉
- □□□ (カ) チエンなく高速伝達する　① 地　② 遅　③ 治　④ 知　⑤ 弛　〈②遅延〉
- □□□ (キ) 時代が移り文化がヘンヨウする　① 用　② 要　③ 揺　④ 容　⑤ 様　〈④変容〉
- □□□ (ク) 知識をしっかりとタイトクする　① 対　② 耐　③ 隊　④ 体　⑤ 帯　〈④体得〉
- □□□ (ケ) 時々刻々と時間がケイカする　① 径　② 契　③ 携　④ 景　⑤ 経　〈⑤経過〉
- □□□ (コ) 情報がチクセキされる　① 畜　② 蓄　③ 築　④ 筑　⑤ 逐　〈②蓄積〉

3

□□□（ア）ボウキャクのかなたへ追いやる　①脚　②客　③却　④卸　⑤喀　〈③忘却〉

□□□（イ）少しのコンセキも残さない　①跡　②籍　③席　④蹟　⑤績　〈①痕跡〉

□□□（ウ）根本的なサクゴである　①策　②削　③錯　④作　⑤窄　〈③錯誤〉

□□□（エ）テッテイ的に弱い存在　①轍　②撤　③鉄　④哲　⑤徹　〈⑤徹底〉

□□□（オ）速度にゲンワクされる　①幻　②現　③厳　④弦　⑤玄　〈①幻惑〉

□□□（カ）メンエキ力が向上する　①逸　②免　③綿　④面　⑤棉　〈②免疫力〉

□□□（キ）情報をシュシャ選択する　①捨　②舎　③赦　④謝　⑤遮　〈①取捨〉

□□□（ク）センパクな知識しかない　①拍　②白　③博　④薄　⑤迫　〈④浅薄〉

□□□（ケ）これは嵐のチョウコウだ　①高　②校　③効　④功　⑤候　〈⑤兆候〉

□□□（コ）師匠の作品をモホウする　①放　②倣　③法　④報　⑤奉　〈②模倣〉

4

□□□（ア）語句のハセイ語を調べる　①生　②正　③成　④性　⑤製　〈①派生語〉

□□□（イ）フヘン的な法則性がある　①編　②偏　③遍　④辺　⑤篇　〈③普遍〉

□□□（ウ）外国語を母語にホンヤクする　①本　②翻　③奔　④汎　⑤叛　〈②翻訳〉

□□□（エ）理想と現実のカイリが大きい　①離　②理　③里　④裡　⑤吏　〈①乖離〉

□□□（オ）あれこれリクツをこねる　①堀　②掘　③靴　④屈　⑤窟　〈④理屈〉

□□□（カ）彼の話にキョウメイする　①明　②名　③銘　④鳴　⑤命　〈④共鳴〉

□□□（キ）村のザイショ外れまで来る　①剤　②在　③材　④西　⑤財　〈②在所〉

□□□（ク）成し遂げた業績にカンシンする　①関　②歓　③感　④寒　⑤甘　〈③感心〉

□□□（ケ）結果はイゼンとして変わらない　①以　②依　③已　④居　⑤意　〈②依然〉

□□□（コ）生糸のためヨウサン室をつくる　①産　②参　③山　④蚕　⑤算　〈④養蚕室〉

## 5

□□□（ア）哲学的なシサクにふける
□□□（イ）あらゆる喜びのゲンセンとなる
□□□（ウ）目標にトウタツしうる
□□□（エ）言語と概念のタイケイ
□□□（オ）学問上重要なシテキである
□□□（カ）言語が文化のコンカンを形づくる
□□□（キ）セイミツな工作機械を導入する
□□□（ク）情報のテイキョウ者に会う
□□□（ケ）多彩な植物をサイバイする
□□□（コ）私にはトウテイ不可能だ

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| （ア） | 作 | 索 | 策 | 柵 | 錯 | 〈②思索〉 |
| （イ） | 現 | 元 | 原 | 源 | 厳 | 〈④源泉〉 |
| （ウ） | 到 | 頭 | 答 | 踏 | 倒 | 〈①到達〉 |
| （エ） | 型 | 形 | 系 | 計 | 傾 | 〈③体系〉 |
| （オ） | 的 | 適 | 滴 | 笛 | 摘 | 〈⑤指摘〉 |
| （カ） | 観 | 幹 | 間 | 官 | 館 | 〈②根幹〉 |
| （キ） | 精 | 正 | 聖 | 清 | 製 | 〈①精密〉 |
| （ク） | 協 | 共 | 京 | 供 | 教 | 〈④提供者〉 |
| （ケ） | 倍 | 陪 | 賠 | 媒 | 培 | 〈⑤栽培〉 |
| （コ） | 低 | 体 | 呈 | 底 | 抵 | 〈④到底〉 |

## 6

□□□（ア）人は歴史的セイヤクの下にある
□□□（イ）ゲンミツな学問的方法をとる
□□□（ウ）発表原稿のコウセイを練る
□□□（エ）動かぬ証拠をチクセキしていく
□□□（オ）社会の中にマイボツする
□□□（カ）世界カンを語り合う
□□□（キ）伝統文化をヘンアイする
□□□（ク）ケイリョウカップを使う
□□□（ケ）自我を殺しムシ的に見る
□□□（コ）未来へサンヨする

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| （ア） | 性 | 世 | 制 | 征 | 政 | 〈③制約〉 |
| （イ） | 原 | 現 | 元 | 厳 | 眩 | 〈④厳密〉 |
| （ウ） | 硬 | 構 | 公 | 功 | 講 | 〈②構成〉 |
| （エ） | 逐 | 築 | 畜 | 蓄 | 筑 | 〈④蓄積〉 |
| （オ） | 舞 | 毎 | 枚 | 味 | 埋 | 〈⑤埋没〉 |
| （カ） | 感 | 観 | 間 | 巻 | 館 | 〈②世界観〉 |
| （キ） | 変 | 編 | 片 | 偏 | 遍 | 〈④偏愛〉 |
| （ク） | 料 | 量 | 両 | 了 | 糧 | 〈②計量〉 |
| （ケ） | 志 | 私 | 史 | 視 | 試 | 〈②無私〉 |
| （コ） | 世 | 余 | 代 | 与 | 予 | 〈④参与〉 |

7

- □□□（ア）カクメイ的な変化が到来した　①明　②命　③銘　④迷　⑤冥　〈②革命〉
- □□□（イ）ザイライ線に乗り換える　①財　②剤　③斉　④西　⑤在　〈⑤在来〉
- □□□（ウ）すべての住民をドウインする　①員　②院　③因　④引　⑤姻　〈①動員〉
- □□□（エ）資料を簡単にヨウヤクする　①訳　②役　③躍　④厄　⑤約　〈⑤要約〉
- □□□（オ）自分の時間をギセイにする　①義　②儀　③議　④犠　⑤蟻　〈④犠牲〉
- □□□（カ）国民のショトクを上げる　①初　②諸　③所　④署　⑤庶　〈③所得〉
- □□□（キ）農産物のフカ価値を考える　①不　②負　③付　④符　⑤賦　〈③付加〉
- □□□（ク）ホウロウの旅に出発する　①浪　②老　③朗　④廊　⑤狼　〈①放浪〉
- □□□（ケ）参加を義務的にキョウヨウする　①用　②要　③庸　④拗　⑤様　〈②強要〉
- □□□（コ）失敗しザセツ感を味わう　①拙　②節　③切　④刹　⑤折　〈⑤挫折感〉

8

- □□□（ア）注意とケイコクを発する　①国　②酷　③告　④鵠　⑤哭　〈③警告〉
- □□□（イ）三途の川の此岸とヒガン　①秘　②彼　③飛　④誹　⑤火　〈②彼岸〉
- □□□（ウ）結論としてキチャクする　①帰　②機　③貴　④揮　⑤来　〈①帰着〉
- □□□（エ）無理をしたヘイガイが出る　①幣　②弊　③丙　④併　⑤塀　〈②弊害〉
- □□□（オ）偉大なゴウケツが居並ぶ　①剛　②轟　③業　④傲　⑤豪　〈⑤豪傑〉
- □□□（カ）ユウシキ人による提案を聞く　①雄　②有　③裕　④宥　⑤勇　〈②有識人〉
- □□□（キ）ヘイゼイの人との親交を語る　①生　②贅　③勢　④性　⑤世　〈①平生〉
- □□□（ク）シッペイ予防に心がける　①弊　②屏　③丙　④病　⑤平　〈④疾病〉
- □□□（ケ）学問上のシンエンな問い　①遠　②艶　③園　④縁　⑤宴　〈①深遠〉
- □□□（コ）自分を縛るケンソクがある　①側　②即　③塞　④束　⑤則　〈④検束〉

9

□□□（ア）一定の方法をスイショウする　①省　②章　③招　④奨　⑤償　〈④推奨〉

□□□（イ）機械の動きをセイギョする　①精　②性　③制　④正　⑤政　〈③制御〉

□□□（ウ）イチギ的な結論にたどりつく　①議　②儀　③義　④偽　⑤技　〈③一義〉

□□□（エ）工業製品のフカ価値　①加　②化　③過　④箇　⑤荷　〈①付加〉

□□□（オ）テンケイ例を挙げる　①形　②景　③傾　④型　⑤計　〈④典型例〉

□□□（カ）発想をジュウナンにする　①重　②従　③充　④柔　⑤住　〈④柔軟〉

□□□（キ）ゴラク番組を視聴する　①伍　②御　③碁　④醐　⑤娯　〈⑤娯楽〉

□□□（ク）キソンの価値観にとらわれる　①概　②既　③棄　④基　⑤帰　〈②既存〉

□□□（ケ）携帯端末がフキュウする　①朽　②及　③急　④求　⑤給　〈②普及〉

□□□（コ）要素にカンゲンする　①元　②現　③源　④原　⑤減　〈①還元〉

10

□□□（ア）この原理からあることがキケツする　①着　②帰　③来　④基　⑤期　〈②帰結〉

□□□（イ）大気が大きくジュンカンする　①順　②潤　③準　④巡　⑤循　〈⑤循環〉

□□□（ウ）歴史的なヘンセンをたどる　①線　②遷　③選　④戦　⑤潜　〈②変遷〉

□□□（エ）ソッキョウ演奏の腕前をみせる　①即　②速　③束　④促　⑤側　〈①即興〉

□□□（オ）議論がヒヤクしすぎだ　①訳　②役　③厄　④約　⑤躍　〈⑤飛躍〉

□□□（カ）政治的なジョウセイが変わる　①定　②情　③場　④常　⑤剰　〈②情勢〉

□□□（キ）大胆で発想がキバツだ　①貴　②気　③奇　④鬼　⑤紀　〈③奇抜〉

□□□（ク）犯行のドウキが明らかになる　①気　②期　③機　④生　⑤揮　〈③動機〉

□□□（ケ）大自然のキョウイを堪能する　①畏　②威　③緯　④易　⑤異　〈⑤驚異〉

□□□（コ）研究のセイカを発表する　①花　②果　③科　④架　⑤荷　〈②成果〉

11

□□□（ア）これは社会的歴史的なゲンショウだ　①象　②像　③症　④証　⑤床　〈①現象〉

□□□（イ）対立やムジュンを弁証法的に乗り越える　①純　②準　③盾　④巡　⑤殉　〈③矛盾〉

□□□（ウ）異なる意見の対立を弁証法的にシヨウする　①使　②仕　③試　④私　⑤止　〈⑤止揚〉

□□□（エ）自己卑下は、カンシンできないね　①寒　②歓　③感　④関　⑤観　〈③感心〉

□□□（オ）互いの意見を否定し合ってソウサイする　①債　②殺　③再　④蔡　⑤災　〈②相殺〉

□□□（カ）少しの配慮もなくイッコも与えない　①個　②子　③雇　④考　⑤顧　〈⑤一顧〉

□□□（キ）異質なもの同士のソウジョウ効果　①剰　②情　③場　④乗　⑤醸　〈④相乗〉

□□□（ク）しっくり合わずイワ感が残る　①違　②異　③緯　④畏　⑤意　〈①違和感〉

□□□（ケ）物事への取り組みがショウキョク的だ　①小　②症　③消　④少　⑤将　〈③消極〉

□□□（コ）表面しか見ないヒソウ的見解　①層　②愴　③装　④相　⑤壮　〈④皮相〉

12

□□□（ア）恐ろしいゲンチョウが聞こえる　①眩　②原　③幻　④玄　⑤呟　〈③幻聴〉

□□□（イ）ムユウ病者のように徘徊する　①誘　②夕　③有　④遊　⑤悠　〈④夢遊〉

□□□（ウ）五感のブンレツ状態を描く　①列　②烈　③裂　④劣　⑤埒　〈③分裂〉

□□□（エ）舞台を巧みにエンシュツする　①演　②園　③宴　④艶　⑤縁　〈①演出〉

□□□（オ）新作映画のカントクに起用する　①篤　②得　③読　④督　⑤匿　〈④監督〉

□□□（カ）外国小説がシュッパンされる　①伴　②汎　③班　④版　⑤帆　〈④出版〉

□□□（キ）湯カゲンをみて調節する　①加　②舌　③下　④火　⑤科　〈①湯加減〉

□□□（ク）見えるものをまずユウセンする　①裕　②憂　③宥　④優　⑤雄　〈④優先〉

□□□（ケ）日本社会のトクイなあり方を分析する　①以　②意　③異　④違　⑤威　〈③特異〉

□□□（コ）人生のコドクを耐えしのぶ　①個　②小　③狐　④児　⑤孤　〈⑤孤独〉

**13**

- □□□（ア）北国のフウセツに耐える　①説　②節　③刹　④雪　⑤切　〈④風雪〉
- □□□（イ）子供のカタミの品です　①見　②身　③実　④味　⑤未　〈①形見〉
- □□□（ウ）客をオウセツ間に通す　①往　②応　③奥　④墺　⑤押　〈②応接間〉
- □□□（エ）仏壇にセンコウをあげる　①講　②鉱　③幸　④香　⑤効　〈④線香〉
- □□□（オ）大きなハモンが広がる　①門　②紋　③文　④聞　⑤悶　〈②波紋〉
- □□□（カ）ヒツウな叫び声を上げる　①火　②被　③秘　④誹　⑤悲　〈⑤悲痛〉
- □□□（キ）体はジョウブな方だ　①婦　②負　③歩　④夫　⑤普　〈④丈夫〉
- □□□（ク）彼とはコンイな間柄です　①意　②位　③委　④居　⑤衣　〈①懇意〉
- □□□（ケ）イセイのいい返事が聞こえる　①意　②威　③射　④畏　⑤猪　〈②威勢〉
- □□□（コ）坂のコウバイがきつい　①廃　②這　③背　④配　⑤買　〈④勾配〉

**14**

- □□□（ア）職場のドウリョウと食事する　①亮　②僚　③寮　④療　⑤瞭　〈②同僚〉
- □□□（イ）人生のハンリョと出会う　①飯　②半　③伴　④汎　⑤判　〈③伴侶〉
- □□□（ウ）壊れた関係をシュウフクする　①修　②集　③繍　④収　⑤拾　〈①修復〉
- □□□（エ）ヒンパンに街で出会う　①品　②賓　③牝　④貧　⑤頻　〈⑤頻繁〉
- □□□（オ）誰にもジャマされない　①間　②摩　③魔　④痲　⑤麻　〈③邪魔〉
- □□□（カ）相手とシンワ的なきずなを作る　①神　②心　③真　④親　⑤深　〈④親和〉
- □□□（キ）森へシュリョウに出かける　①種　②主　③取　④守　⑤狩　〈⑤狩猟〉
- □□□（ク）種子を広範囲にサンプする　①参　②散　③産　④賛　⑤惨　〈②散布〉
- □□□（ケ）動物のサイショク行動を観察する　①祭　②際　③菜　④採　⑤栽　〈④採食〉
- □□□（コ）タンセイ込めて料理する　①丹　②端　③嘆　④単　⑤短　〈①丹精〉

15

□□□（ア）アラブの文化をキソウとする　①基　②機　③帰　④来　⑤着　〈①基層〉

□□□（イ）バレエの劇場コウエンが始まる　①講　②公　③巧　④広　⑤後　〈②公演〉

□□□（ウ）政府シュドウで組織される　①守　②首　③主　④手　⑤衆　〈③主導〉

□□□（エ）ある思想のテイショウ者に会う　①証　②唱　③賞　④称　⑤昭　〈②提唱者〉

□□□（オ）音楽団をヘンセイする　①編　②偏　③変　④遍　⑤片　〈①編成〉

□□□（カ）全身で喜びをキョウジュする　①教　②共　③享　④興　⑤経　〈③享受〉

□□□（キ）身体にナイゾウされた衝動　①臓　②蔵　③像　④象　⑤造　〈②内蔵〉

□□□（ク）思考やカンネンを表現する　①感　②勘　③官　④観　⑤歓　〈④観念〉

□□□（ケ）内なるものをガイザイ化する　①概　②慨　③害　④外　⑤蓋　〈④外在〉

□□□（コ）ジュンスイに好きな本を読む　①殉　②準　③潤　④順　⑤純　〈⑤純粋〉

16

□□□（ア）マンガを読みふける　①慢　②饅　③漫　④満　⑤萬　〈③漫画〉

□□□（イ）古き伝統にコシツする　①嫉　②質　③叱　④失　⑤執　〈⑤固執〉

□□□（ウ）ケンイある学者　①威　②意　③畏　④居　⑤維　〈①権威〉

□□□（エ）学者のオンネンにすぎない　①恩　②怨　③穏　④御　⑤遠　〈②怨念〉

□□□（オ）学識経験者のキョウヨウ　①用　②要　③庸　④様　⑤養　〈⑤教養〉

□□□（カ）ある学説をインヨウする　①洋　②用　③揺　④拗　⑤揚　〈②引用〉

□□□（キ）彼とはタイショウ的な考え　①称　②象　③照　④賞　⑤正　〈③対照〉

□□□（ク）ある前提をソテイした発想　①措　②祖　③租　④素　⑤楚　〈①措定〉

□□□（ケ）様々な価値観のフクゴウ体　①副　②復　③福　④複　⑤腹　〈④複合体〉

□□□（コ）学問的な言葉でキテイする　①基　②規　③帰　④機　⑤着　〈②規定〉

17

□□□（ア）スミからスミまで知っている　①済　②端　③末　④隅　⑤角　〈④隅〉

□□□（イ）身体と精神のワクグみ　①粋　②涌　③枠　④惑　⑤湧　〈③枠組み〉

□□□（ウ）知はバイカイによって成立する　①培　②媒　③賠　④陪　⑤倍　〈②媒介〉

□□□（エ）シキサイ豊かな表現　①菜　②彩　③催　④採　⑤蔡　〈②色彩〉

□□□（オ）新しい学問をコウソウする　①講　②効　③構　④考　⑤高　〈③構想〉

□□□（カ）仮説と真実とのガッチ　①致　②知　③値　④智　⑤弛　〈①合致〉

□□□（キ）知はすべてソウタイ的である　①帯　②体　③耐　④対　⑤態　〈④相対〉

□□□（ク）理論を実験でケンショウする　①顕　②験　③研　④険　⑤検　〈⑤検証〉

□□□（ケ）思考をテイシする　①挺　②艇　③停　④態　⑤亭　〈③停止〉

□□□（コ）人間の行動のキテイにあるもの　①底　②呈　③抵　④低　⑤体　〈①基底〉

18

□□□（ア）伝統的な文化やシュウゾクを研究する　①族　②属　③俗　④続　⑤賊　〈③習俗〉

□□□（イ）日本のコユウの音楽文化を創造する　①個　②固　③古　④児　⑤小　〈②固有〉

□□□（ウ）人工的な表現をチンチョウする　①珍　②陳　③賃　④鎮　⑤朕　〈①珍重〉

□□□（エ）中心ではなくシュウエンにある　①遠　②焉　③園　④縁　⑤宴　〈④周縁〉

□□□（オ）日本的な律動やオンカイを表現する　①界　②階　③改　④快　⑤解　〈②音階〉

□□□（カ）世界のゼンソウをそこに映す　①層　②装　③総　④想　⑤相　〈⑤全相〉

□□□（キ）心のカットウを伝える　①藤　②頭　③問　④当　⑤唐　〈①葛藤〉

□□□（ク）トウサク的な美意識の表現　①盗　②等　③倒　④投　⑤党　〈③倒錯〉

□□□（ケ）舞台の上で役にフンする　①分　②粉　③墳　④扮　⑤奮　〈④扮する〉

□□□（コ）大地や風のシンドウを感じる　①新　②振　③震　④深　⑤芯　〈③震動〉

19

| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 出来事をくまなくキロクする | 禄 | 碌 | 録 | 縁 | 緑 | 〈③記録〉 |
| □□□ | (イ) 理想的なネンダイキ作者 | 紀 | 記 | 期 | 樹 | 着 | 〈②年代記〉 |
| □□□ | (ウ) 歴史を正確にジョジュツする | 叙 | 序 | 徐 | 如 | 所 | 〈①叙述〉 |
| □□□ | (エ) 出来事がサイダイ漏らさず記される | 最 | 再 | 細 | 採 | 彩 | 〈③細大〉 |
| □□□ | (オ) 夜の冷気にヒョウケツする | 潔 | 傑 | 桔 | 決 | 結 | 〈⑤氷結〉 |
| □□□ | (カ) サマツな出来事は遠景に退く | 差 | 査 | 佐 | 些 | 詐 | 〈④些末〉 |
| □□□ | (キ) 歴史は個人的なカンカイではない | 快 | 懐 | 解 | 回 | 戒 | 〈②感懐〉 |
| □□□ | (ク) 重要な事実をユウベンに語る | 雄 | 勇 | 裕 | 優 | 誘 | 〈①雄弁〉 |
| □□□ | (ケ) 断片的でカンケツ的な思い出 | 潔 | 穴 | 血 | 結 | 欠 | 〈⑤間欠〉 |
| □□□ | (コ) 正しさが資料によってホショウされる | 証 | 償 | 障 | 哨 | 賞 | 〈①保証〉 |

20

| | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 心理的なテイコウなしに受け止める | 挺 | 抵 | 低 | 体 | 底 | 〈②抵抗〉 |
| □□□ | (イ) アットウ的に優越した力 | 踏 | 到 | 倒 | 等 | 討 | 〈③圧倒〉 |
| □□□ | (ウ) 西欧語のゲンゴに対応したことば | 源 | 原 | 元 | 現 | 厳 | 〈②原語〉 |
| □□□ | (エ) スジョウの知れない人物 | 姓 | 情 | 場 | 状 | 常 | 〈①素姓〉 |
| □□□ | (オ) 和漢コンコウ文で書かれた表現 | 公 | 考 | 稿 | 交 | 講 | 〈④混交文〉 |
| □□□ | (カ) ことばのヘンカクの歴史をたどる | 覚 | 画 | 核 | 革 | 角 | 〈④変革〉 |
| □□□ | (キ) 明治イシン以降の時代 | 緯 | 威 | 偉 | 移 | 維 | 〈⑤維新〉 |
| □□□ | (ク) 日本語の三つのタイケイを区別する | 体 | 帯 | 隊 | 大 | 耐 | 〈①体系〉 |
| □□□ | (ケ) これは中国トライのことばである | 都 | 途 | 徒 | 渡 | 登 | 〈④渡来〉 |
| □□□ | (コ) 考えてもムダなものもある | 堕 | 唾 | 駄 | 妥 | 蛇 | 〈③無駄〉 |

21

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | （ア）ザンニンな犯罪を起こす | 任 | 認 | 仁 | 忍 | 人 | 〈④残忍〉 |
| □□□ | （イ）シャコウ心を煽るゲーム | 公 | 幸 | 交 | 高 | 講 | 〈②射幸心〉 |
| □□□ | （ウ）ゲームギョウカイへの批判 | 会 | 階 | 快 | 界 | 戒 | 〈④業界〉 |
| □□□ | （エ）高度情報化のホウイ網の中 | 方 | 砲 | 胞 | 放 | 包 | 〈⑤包囲〉 |
| □□□ | （オ）戦後のイッカンした流れ | 完 | 貫 | 環 | 間 | 巻 | 〈②一貫〉 |
| □□□ | （カ）一般の生活にシントウした | 進 | 侵 | 浸 | 深 | 芯 | 〈③浸透〉 |
| □□□ | （キ）何者かにシイ的に加工された | 誌 | 思 | 史 | 志 | 恣 | 〈⑤恣意〉 |
| □□□ | （ク）出版社のヘンシュウ者 | 修 | 集 | 収 | 拾 | 衆 | 〈②編集者〉 |
| □□□ | （ケ）イヤオウなく直面する | 応 | 追 | 欧 | 負 | 王 | 〈①否応〉 |
| □□□ | （コ）ジョウキを逸した犯行 | 基 | 規 | 気 | 機 | 軌 | 〈⑤常軌〉 |

22

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | （ア）敵意やハイ信が潜んでいる | 配 | 廃 | 背 | 排 | 肺 | 〈③背信〉 |
| □□□ | （イ）奇病の特コウ薬がある | 効 | 幸 | 高 | 攻 | 功 | 〈①特効薬〉 |
| □□□ | （ウ）自らを押し殺す無シの人生 | 視 | 私 | 志 | 死 | 子 | 〈②無私〉 |
| □□□ | （エ）タイ惰な暮らしぶり | 態 | 体 | 怠 | 滞 | 退 | 〈③怠惰〉 |
| □□□ | （オ）固まらずにカク散する | 核 | 角 | 覚 | 拡 | 殻 | 〈④拡散〉 |
| □□□ | （カ）葬列や葬儀のギ礼 | 儀 | 義 | 偽 | 議 | 戯 | 〈①儀礼〉 |
| □□□ | （キ）亡き祖母へのツイ慕 | 対 | 追 | 墜 | 終 | 遂 | 〈②追慕〉 |
| □□□ | （ク）自責の念と罪ショウ感 | 症 | 傷 | 障 | 省 | 賞 | 〈③罪障感〉 |
| □□□ | （ケ）隠キョ部屋で暮らす | 虚 | 居 | 据 | 去 | 炬 | 〈②隠居〉 |
| □□□ | （コ）庭に面したエン側 | 遠 | 円 | 園 | 延 | 縁 | 〈⑤縁側〉 |

23

□□□ (ア) ある点で文明がタイ歩する　① 滞　② 隊　③ 逮　④ 退　⑤ 怠　〈④退歩〉

□□□ (イ) さまざまな図像がテン開される　① 展　② 典　③ 店　④ 天　⑤ 転　〈①展開〉

□□□ (ウ) 羊を犠セイにして神に捧げる　① 姓　② 性　③ 聖　④ 生　⑤ 牲　〈⑤犠牲〉

□□□ (エ) 宗教的な感情が希ハクになる　① 箔　② 白　③ 薄　④ 博　⑤ 迫　〈③希薄〉

□□□ (オ) 個人がコウ想し発表する　① 講　② 校　③ 稿　④ 構　⑤ 考　〈④構想〉

□□□ (カ) 人間のダ落が始まる　① 駄　② 堕　③ 惰　④ 唾　⑤ 蛇　〈②堕落〉

□□□ (キ) 聖堂のズイ所に見受けられる　① 髄　② 隋　③ 随　④ 瑞　⑤ 遂　〈③随所〉

□□□ (ク) 意識の下層に沈センする　① 栓　② 潜　③ 船　④ 遷　⑤ 線　〈②沈潜〉

□□□ (ケ) 絵画の具ショウ性を失う　① 象　② 像　③ 生　④ 相　⑤ 賞　〈①具象〉

□□□ (コ) 牧チクが盛んな高原　① 逐　② 蓄　③ 築　④ 筑　⑤ 畜　〈⑤牧畜〉

24

□□□ (ア) 永遠であれとのキ念をこめる　① 基　② 機　③ 記　④ 気　⑤ 祈　〈⑤祈念〉

□□□ (イ) 記念ヒ的な造形物をつくる　① 灯　② 費　③ 妃　④ 碑　⑤ 燈　〈④記念碑〉

□□□ (ウ) 力で自然をセイ服する　① 制　② 精　③ 征　④ 聖　⑤ 世　〈③征服〉

□□□ (エ) 木造建築がクちる　① 口　② 苦　③ 久　④ 駆　⑤ 朽　〈⑤朽ちる〉

□□□ (オ) あるものをバイ介してつながる　① 陪　② 培　③ 倍　④ 媒　⑤ 煤　〈④媒介〉

□□□ (カ) 庭に盆サイを並べる　① 採　② 菜　③ 栽　④ 祭　⑤ 裁　〈③盆栽〉

□□□ (キ) 左右相ショウの幾何学図形　① 将　② 性　③ 笑　④ 象　⑤ 称　〈⑤相称〉

□□□ (ク) 大理石の彫コクを配置する　① 告　② 酷　③ 刻　④ 剋　⑤ 克　〈③彫刻〉

□□□ (ケ) 俳カイの発句を俳句という　① 階　② 戒　③ 諧　④ 魁　⑤ 皆　〈③俳諧〉

□□□ (コ) 自己の意思を没キャクする　① 脚　② 客　③ 踋　④ 隔　⑤ 却　〈⑤没却〉

25

□□□（ア）眠くて半スイの状態にいた　①酔　②睡　③粋　④吸　⑤吹　〈②半睡〉

□□□（イ）それとはまったく没コウ渉である　①講　②交　③公　④抗　⑤硬　〈②没交渉〉

□□□（ウ）興フン状態からやっと覚める　①墳　②焚　③奮　④噴　⑤憤　〈③興奮〉

□□□（エ）わりと冷タンな表情で眺める　①短　②単　③嘆　④淡　⑤丹　〈④冷淡〉

□□□（オ）肩から腕のキン肉がもりあがる　①筋　②均　③緊　④禁　⑤巾　〈①筋肉〉

□□□（カ）昆虫の美しいヒョウ本をつくる　①表　②標　③票　④評　⑤俵　〈②標本〉

□□□（キ）発熱中の入浴をゲン禁する　①厳　②現　③元　④減　⑤源　〈①厳禁〉

□□□（ク）馬鹿げた振る舞いをチョウ笑する　①超　②兆　③調　④徴　⑤嘲　〈⑤嘲笑〉

□□□（ケ）警察ショへ出頭するよう要請する　①所　②処　③緒　④諸　⑤署　〈⑤警察署〉

□□□（コ）自マンしたい気持ちを抑える　①漫　②満　③万　④萬　⑤慢　〈⑤自慢〉

26

□□□（ア）うっとりと自分にトウ酔する　①頭　②投　③党　④陶　⑤淘　〈④陶酔〉

□□□（イ）ほしいままボウ虐の限りを尽くす　①某　②棒　③望　④暴　⑤防　〈④暴虐〉

□□□（ウ）巧みなトリックにゲン惑される　①幻　②原　③元　④現　⑤眩　〈①幻惑〉

□□□（エ）人の目をアザムくまやかし　①偽　②欺　③詐　④嘘　⑤虚　〈②欺く〉

□□□（オ）映像づくりにフ心する　①歩　②負　③腐　④賦　⑤訃　〈③腐心〉

□□□（カ）両者の間には深いダン絶がある　①断　②段　③壇　④弾　⑤談　〈①断絶〉

□□□（キ）楽譜の上に休止フを記す　①譜　②符　③歩　④布　⑤府　〈②休止符〉

□□□（ク）報奨を期待しない無ショウの行為　①賞　②章　③償　④障　⑤証　〈③無償〉

□□□（ケ）一点ものではないフク製芸術　①複　②復　③福　④副　⑤幅　〈①複製〉

□□□（コ）軽やかなカイ謔の精神がある　①階　②快　③諧　④怪　⑤魁　〈③諧謔〉

27

□□□ (ア) 会社の同リョウと挨拶を交わす　① 領　② 糧　③ 僚　④ 遼　⑤ 寮　〈③同僚〉

□□□ (イ) 空バクとした広がりをもつ　① 幕　② 獏　③ 爆　④ 曝　⑤ 漠　〈⑤空漠〉

□□□ (ウ) 琵琶のバン奏が鳴っている　① 伴　② 版　③ 盤　④ 番　⑤ 判　〈①伴奏〉

□□□ (エ) 空ソな自由に転落する　① 楚　② 祖　③ 疎　④ 素　⑤ 租　〈③空疎〉

□□□ (オ) その神社は森カンとしていた　① 完　② 観　③ 感　④ 菅　⑤ 閑　〈⑤森閑〉

□□□ (カ) 実用本イの刀の切れ味を試す　① 位　② 威　③ 偉　④ 居　⑤ 意　〈①本位〉

□□□ (キ) すでにソウ場が決まっている　① 層　② 装　③ 相　④ 総　⑤ 草　〈③相場〉

□□□ (ク) 厄カイな問題がもちあがる　① 悔　② 界　③ 改　④ 怪　⑤ 介　〈⑤厄介〉

□□□ (ケ) 時宗の最セイ期をむかえる　① 盛　② 精　③ 聖　④ 征　⑤ 世　〈①最盛期〉

□□□ (コ) 素材の確かさを保ショウする　① 償　② 障　③ 証　④ 省　⑤ 賞　〈③保証〉

28

□□□ (ア) カク悟の上の決断である　① 核　② 格　③ 画　④ 覚　⑤ 角　〈④覚悟〉

□□□ (イ) 思い出話に感ショウ的になる　① 賞　② 傷　③ 渉　④ 照　⑤ 衝　〈②感傷〉

□□□ (ウ) 地球ギを机の上に運ぶ　① 戯　② 義　③ 蟻　④ 儀　⑤ 技　〈④地球儀〉

□□□ (エ) 心に余ユウをもって臨む　① 雄　② 裕　③ 優　④ 有　⑤ 宥　〈②余裕〉

□□□ (オ) 誠にキョウ縮しております　① 協　② 教　③ 享　④ 恐　⑤ 興　〈④恐縮〉

□□□ (カ) 酢飯のほどよいサン味を確かめる　① 参　② 惨　③ 餐　④ 酸　⑤ 三　〈④酸味〉

□□□ (キ) 人生初の大きな冒ケンに出かける　① 剣　② 険　③ 健　④ 見　⑤ 顕　〈②冒険〉

□□□ (ク) 広大な領地を征フクする　① 福　② 復　③ 服　④ 腹　⑤ 副　〈③征服〉

□□□ (ケ) 軍備の拡張競ソウに明け暮れる　① 相　② 送　③ 走　④ 争　⑤ 壮　〈④競争〉

□□□ (コ) 形が整わないで不サイ工である　① 菜　② 細　③ 才　④ 裁　⑤ 栽　〈②不細工〉

29

□□□ (ア) 欲望が社会の隅々までシン透する　① 侵　② 深　③ 進　④ 浸　⑤ 津　〈④浸透〉

□□□ (イ) 過去の事例から推ソクする　① 側　② 即　③ 測　④ 促　⑤ 捉　〈③推測〉

□□□ (ウ) 二世帯が同キョする住宅　① 据　② 居　③ 拠　④ 裾　⑤ 去　〈②同居〉

□□□ (エ) 重大な問題点が露テイする　① 呈　② 態　③ 底　④ 体　⑤ 停　〈①露呈〉

□□□ (オ) 古典的な理想を破カイし尽くす　① 戒　② 誡　③ 懐　④ 怪　⑤ 壊　〈⑤破壊〉

□□□ (カ) カ剰な言説が飛び交う　① 過　② 化　③ 荷　④ 加　⑤ 可　〈①過剰〉

□□□ (キ) 調べる上で恰コウの素材がある　① 公　② 好　③ 効　④ 功　⑤ 考　〈②恰好〉

□□□ (ク) 社会変化をもたらした動インがある　① 引　② 員　③ 因　④ 韻　⑤ 隠　〈③動因〉

□□□ (ケ) 大学で論理学と修ジ学を学ぶ　① 字　② 時　③ 事　④ 辞　⑤ 而　〈④修辞学〉

□□□ (コ) 表現を最大限にコ張する　① 粉　② 固　③ 鼓　④ 呼　⑤ 誇　〈⑤誇張〉

30

□□□ (ア) 絶タイ的に正しい学説などない　① 対　② 体　③ 帯　④ 滞　⑤ 耐　〈①絶対〉

□□□ (イ) 人類に普ヘン的に当てはまる真理だ　① 偏　② 遍　③ 変　④ 篇　⑤ 片　〈②普遍〉

□□□ (ウ) 王様は退クツな日々をもてあます　① 窟　② 掘　③ 堀　④ 屈　⑤ 靴　〈④退屈〉

□□□ (エ) これこそ世界標ジュンの市場原理だ　① 順　② 純　③ 潤　④ 巡　⑤ 準　〈⑤標準〉

□□□ (オ) 時間のケイ過を計ってみよう　① 経　② 形　③ 傾　④ 系　⑤ 契　〈①経過〉

□□□ (カ) 前例のない芸術作品をソウ造する　① 装　② 想　③ 相　④ 総　⑤ 創　〈⑤創造〉

□□□ (キ) 現実と違う物語を仮ソウしてみよう　① 相　② 層　③ 創　④ 想　⑤ 送　〈④仮想〉

□□□ (ク) 意識は強い志コウ性をもつ　① 公　② 向　③ 高　④ 抗　⑤ 考　〈②志向〉

□□□ (ケ) これは貴チョウな蝶の標本です　① 徴　② 兆　③ 重　④ 長　⑤ 超　〈③貴重〉

□□□ (コ) 頭の中でクリアに表ショウしてみる　① 賞　② 章　③ 省　④ 象　⑤ 翔　〈④表象〉

31

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 芸術家がもてる技コウの限りを尽くす | 講 | 効 | 巧 | 功 | 考 | 〈③技巧〉 |
| □□□ | (イ) 使える素材をク使して仕上げる | 駆 | 苦 | 供 | 久 | 九 | 〈①駆使〉 |
| □□□ | (ウ) バク然としていた目標が鮮明になる | 幕 | 獏 | 爆 | 莫 | 漠 | 〈⑤漠然〉 |
| □□□ | (エ) 工作機械が抜群のイ力を発揮する | 意 | 威 | 偉 | 異 | 射 | 〈②威力〉 |
| □□□ | (オ) 究キョクの味を求めて全国を行脚する | 局 | 曲 | 極 | 旭 | 棘 | 〈③究極〉 |
| □□□ | (カ) 一瞬の心の高ヨウ感を得ました | 要 | 揚 | 陽 | 洋 | 揺 | 〈②高揚感〉 |
| □□□ | (キ) 作家としてのカク悟と責任を問う | 覚 | 核 | 確 | 角 | 格 | 〈①覚悟〉 |
| □□□ | (ク) 工芸作家としてトウ器を出展した | 唐 | 塔 | 党 | 陶 | 淘 | 〈④陶器〉 |
| □□□ | (ケ) 戦においては敵をだますのがカン要だ | 観 | 勘 | 感 | 漢 | 肝 | 〈⑤肝要〉 |
| □□□ | (コ) 目標なくダ落した生活を反省する | 唾 | 駄 | 堕 | 惰 | 妥 | 〈③堕落〉 |

32

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) スター選手の美技にトウ酔する | 投 | 陶 | 盗 | 蕩 | 糖 | 〈②陶酔〉 |
| □□□ | (イ) 法令をジュン守する企業文化 | 純 | 準 | 淳 | 殉 | 遵 | 〈⑤遵守〉 |
| □□□ | (ウ) 彼が当社の筆トウ株主です。 | 頭 | 党 | 等 | 当 | 塔 | 〈①筆頭〉 |
| □□□ | (エ) ユウ雅な立ち居振る舞いを見せる | 雄 | 勇 | 優 | 遊 | 悠 | 〈③優雅〉 |
| □□□ | (オ) 年間王者の地位をカク得する | 覚 | 確 | 画 | 獲 | 穫 | 〈④獲得〉 |
| □□□ | (カ) 世間をにぎわす事件のカ中にある | 火 | 渦 | 家 | 過 | 荷 | 〈②渦中〉 |
| □□□ | (キ) 余ジョウな人員を別な部署へ回す | 常 | 情 | 場 | 乗 | 剰 | 〈⑤余剰〉 |
| □□□ | (ク) 攻撃サッカーをタイ現したチーム | 帯 | 隊 | 体 | 対 | 態 | 〈③体現〉 |
| □□□ | (ケ) 大会の開催日がチ延された | 弛 | 治 | 遅 | 置 | 致 | 〈③遅延〉 |
| □□□ | (コ) 個人技と組織との奇セキ的融合 | 績 | 跡 | 積 | 籍 | 赤 | 〈②奇跡〉 |

33

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 万国アニメ博覧会が開サイされた | 祭 | 歳 | 宰 | 催 | 斎 | 〈④開催〉 |
| □□□ | (イ) スカイツリーの高さに圧トウされた | 頭 | 塔 | 踏 | 倒 | 到 | 〈④圧倒〉 |
| □□□ | (ウ) 美しい透かしのモ様が浮かび上がった | 模 | 裳 | 茂 | 問 | 藻 | 〈①模様〉 |
| □□□ | (エ) 今度のコスチュームはザン新だね | 暫 | 斬 | 漸 | 惨 | 残 | 〈②斬新〉 |
| □□□ | (オ) 大きなものに包セツされる感覚 | 接 | 節 | 刹 | 設 | 摂 | 〈⑤包摂〉 |
| □□□ | (カ) 異質なものをハイ除しない社会 | 廃 | 排 | 背 | 灰 | 敗 | 〈②排除〉 |
| □□□ | (キ) 敵をチョウ発するのはつつしもう | 兆 | 超 | 挑 | 懲 | 跳 | 〈③挑発〉 |
| □□□ | (ク) 中ケイ地を挟んで空輸する | 径 | 経 | 継 | 系 | 携 | 〈③中継地〉 |
| □□□ | (ケ) モデルさんらしいオーラを発サンする | 参 | 産 | 讃 | 散 | 賛 | 〈④発散〉 |
| □□□ | (コ) 大理石を素材にした壮麗な彫コク | 剋 | 刻 | 克 | 穀 | 告 | 〈②彫刻〉 |

34

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 外国から見るとキ異な習慣もある | 期 | 機 | 軌 | 貴 | 奇 | 〈⑤奇異〉 |
| □□□ | (イ) 西欧文化圏のセイ御力の効いた言葉だ | 征 | 精 | 制 | 盛 | 勢 | 〈③制御力〉 |
| □□□ | (ウ) 次の試験の出題ハン囲をしぼる | 班 | 範 | 版 | 汎 | 藩 | 〈②範囲〉 |
| □□□ | (エ) 幸運なグウ然に助けられたよ | 遇 | 寓 | 偶 | 隅 | 宮 | 〈③偶然〉 |
| □□□ | (オ) 他者へのハイ慮を欠かさないように | 廃 | 排 | 配 | 拝 | 輩 | 〈③配慮〉 |
| □□□ | (カ) 故郷の村へのキ属意識が強い | 基 | 気 | 貴 | 着 | 帰 | 〈⑤帰属〉 |
| □□□ | (キ) バランスのとれた平コウ状態 | 公 | 効 | 考 | 抗 | 衡 | 〈⑤平衡〉 |
| □□□ | (ク) 外の文物を国内に大量イ入する | 威 | 居 | 偉 | 移 | 易 | 〈④移入〉 |
| □□□ | (ケ) 漢方の理論にイ拠した処方をする | 医 | 依 | 射 | 威 | 伊 | 〈②依拠〉 |
| □□□ | (コ) さしせまった重大な危ケンを回避する | 顕 | 険 | 剣 | 顕 | 検 | 〈②危険〉 |

35

□□□（ア）幾多の苦ノウの日々を乗り越える　①能　②脳　③膿　④濃　⑤悩　〈⑤苦悩〉

□□□（イ）山門に袈裟掛けのソウ侶が入っていく　①葬　②壮　③僧　④装　⑤想　〈③僧侶〉

□□□（ウ）せっかくの意見が大勢にマイ没する　①枚　②埋　③味　④舞　⑤米　〈②埋没〉

□□□（エ）平オン無事な日々をのんきに暮らす　①穏　②怨　③御　④温　⑤恩　〈①平穏〉

□□□（オ）他者を救う前に自己を救サイする　①災　②柴　③済　④催　⑤斎　〈③救済〉

□□□（カ）私にはお布施をいただく資カクはない　①覚　②穫　③各　④格　⑤閣　〈④資格〉

□□□（キ）心中の思いを述カイした書物　①戒　②回　③解　④懐　⑤怪　〈④述懐〉

□□□（ク）飾りやいつわりのないシン率な答え　①信　②深　③真　④心　⑤芯　〈③真率〉

□□□（ケ）おのれを恥じる自己ショウ察　①省　②焼　③証　④小　⑤笑　〈①省察〉

□□□（コ）せつせつと心の叫びを告ハクする　①吐　②白　③薄　④博　⑤拍　〈②告白〉

36

□□□（ア）庭の一グウに地蔵尊を祭る　①宮　②寓　③遇　④偶　⑤隅　〈⑤一隅〉

□□□（イ）荘厳な台座にチン座まします大仏　①朕　②鎮　③枕　④沈　⑤珍　〈②鎮座〉

□□□（ウ）草花が庭に旺盛にハン茂する　①汎　②畔　③繁　④磐　⑤煩　〈③繁茂〉

□□□（エ）周囲からの賛タンに値する行為だ　①嘆　②淡　③胆　④綻　⑤担　〈①賛嘆〉

□□□（オ）毎週日曜に教会へ礼ハイしにいく　①輩　②俳　③拝　④排　⑤灰　〈③礼拝〉

□□□（カ）はじめてことばをカク得する　①確　②革　③穫　④獲　⑤拡　〈④獲得〉

□□□（キ）その発想は極めて独ガ論的だ　①賀　②我　③蛾　④雅　⑤牙　〈②独我論〉

□□□（ク）カン察から自然の探求が始まる　①観　②勘　③感　④寛　⑤官　〈①観察〉

□□□（ケ）愛情自体の発ゲンとはいかない　①言　②現　③元　④源　⑤眩　〈②発現〉

□□□（コ）心と身体をソク縛している　①則　②即　③側　④束　⑤捉　〈④束縛〉

37

□□□（ア）自分たちと異質なものをハイ除する　①廃　②灰　③背　④敗　⑤排　〈⑤排除〉

□□□（イ）異サイを放つこの花の色をめでる　①催　②宰　③祭　④彩　⑤才　〈④異彩〉

□□□（ウ）永遠不変の写実の原ソクに従う　①則　②即　③側　④束　⑤測　〈①原則〉

□□□（エ）俳句に潜むシ激的表現が心に響く　①梓　②志　③刺　④指　⑤試　〈③刺激〉

□□□（オ）写生句の筆トウと語られている　①頭　②等　③踏　④党　⑤到　〈①筆頭〉

□□□（カ）その当時の心キョウはいかほどか想像する　①興　②境　③教　④鏡　⑤況　〈②心境〉

□□□（キ）言葉では形ヨウしがたいほどの美しさ　①要　②様　③容　④用　⑤洋　〈③形容〉

□□□（ク）発想の仕方がザン新である　①暫　②斬　③残　④惨　⑤算　〈②斬新〉

□□□（ケ）過去の実績や知名度にイ存している　①依　②伊　③易　④居　⑤衣　〈①依存〉

□□□（コ）一般的理解とは違う逆セツ的真理がある　①接　②節　③刹　④設　⑤説　〈⑤逆説〉

38

□□□（ア）研究活動を本カク的に開始する　①角　②各　③核　④格　⑤画　〈④本格〉

□□□（イ）大きな転換への契キとなった　①基　②機　③軌　④帰　⑤期　〈②契機〉

□□□（ウ）大脳の複雑な神経細ボウを調べる　①胞　②砲　③包　④封　⑤抱　〈①細胞〉

□□□（エ）将来の重大な発見を示サする　①差　②査　③詐　④唆　⑤作　〈④示唆〉

□□□（オ）電子工学の先タンを行く仕事だ　①胆　②端　③担　④淡　⑤短　〈②先端〉

□□□（カ）単独で完ケツした機能をもつ　①潔　②結　③決　④傑　⑤欠　〈②完結〉

□□□（キ）公共的な奉シ活動に参加する　①仕　②志　③使　④試　⑤梓　〈①奉仕〉

□□□（ク）高額な報シュウを返礼として受ける　①衆　②集　③収　④酬　⑤拾　〈④報酬〉

□□□（ケ）近代的な貨ヘイ経済の導入以前　①弊　②幣　③蔽　④併　⑤塀　〈②貨幣〉

□□□（コ）大胆な安全保障政策を提ショウする　①証　②称　③賞　④生　⑤唱　〈⑤提唱〉

39

□□□ (ア) 自然に囲まれたソウ庵に暮らす　① 僧　② 壮　③ 葬　④ 相　⑤ 草　〈⑤草庵〉

□□□ (イ) 詳細なキ録が残されている　① 基　② 期　③ 記　④ 貴　⑤ 軌　〈③記録〉

□□□ (ウ) 華厳経の経テンを弟子に伝える　① 典　② 展　③ 天　④ 点　⑤ 店　〈①経典〉

□□□ (エ) 帰宅したら手洗いする習カンです　① 観　② 貫　③ 慣　④ 寛　⑤ 肝　〈③習慣〉

□□□ (オ) 美しいジョウ景を心に刻む　① 上　② 情　③ 場　④ 城　⑤ 常　〈②情景〉

□□□ (カ) ズイ分と難しい表現を好む　① 隋　② 随　③ 髄　④ 瑞　⑤ 遂　〈②随分〉

□□□ (キ) 集合場所への行き方をアン内する　① 案　② 安　③ 行　④ 暗　⑤ 庵　〈①案内〉

□□□ (ク) 久しぶりのアイ拶を交わす　① 愛　② 合　③ 相　④ 逢　⑤ 挨　〈⑤挨拶〉

□□□ (ケ) 境界なく相互にシン透する　① 侵　② 浸　③ 深　④ 津　⑤ 請　〈②浸透〉

□□□ (コ) 深刻なケツ意の表明をする　① 潔　② 結　③ 決　④ 血　⑤ 傑　〈③決意〉

40

□□□ (ア) 自然の不思議への探求はカン察から始まる　① 感　② 勘　③ 観　④ 寛　⑤ 歓　〈③観察〉

□□□ (イ) 人それぞれにカイ釈は異なりうる　① 会　② 解　③ 開　④ 戒　⑤ 怪　〈②解釈〉

□□□ (ウ) 努力の結ショウとして今回の成功がある　① 生　② 賞　③ 勝　④ 晶　⑤ 翔　〈④結晶〉

□□□ (エ) 需要とキョウ給の経済バランスを考える　① 供　② 共　③ 享　④ 興　⑤ 経　〈①供給〉

□□□ (オ) この理論物理の学説はフ遍性をもつ　① 賦　② 負　③ 譜　④ 普　⑤ 富　〈④普遍〉

□□□ (カ) 一人の物思いではモウ想ともなりうる　① 蒙　② 妄　③ 盲　④ 亡　⑤ 猛　〈②妄想〉

□□□ (キ) 従来の会社運営の方針を放キする　① 忌　② 軌　③ 棄　④ 飢　⑤ 危　〈③放棄〉

□□□ (ク) 余計な雑念を排ジョして冷静になる　① 所　② 徐　③ 叙　④ 除　⑤ 助　〈④排除〉

□□□ (ケ) 秘密のつもりでもシュウ知の事実だ　① 拾　② 羞　③ 収　④ 周　⑤ 執　〈④周知〉

□□□ (コ) 自然現ショウを厳密に記述する　① 像　② 賞　③ 症　④ 象　⑤ 性　〈④現象〉

41

□□□（ア）人間付き合いをダ算的に考える　①打　②駄　③堕　④惰　⑤妥　〈①打算〉

□□□（イ）世話になった方へギ理を立てる　①議　②義　③蟻　④偽　⑤戯　〈②義理〉

□□□（ウ）付加価値で国際競ソウ力をつける　①装　②走　③争　④相　⑤壮　〈③競争力〉

□□□（エ）自らのセイ癖に自覚的になる　①姓　②生　③精　④制　⑤性　〈⑤性癖〉

□□□（オ）騎馬戦で勇カンに攻め上る　①感　②敢　③観　④寛　⑤漢　〈②勇敢〉

□□□（カ）人生にはユウ戯の時間が必要だ　①雄　②勇　③遊　④裕　⑤悠　〈③遊戯〉

□□□（キ）人と人、人と物とのイン縁を思う　①印　②因　③隠　④引　⑤韻　〈②因縁〉

□□□（ク）未知なる秘境へと冒ケンに出発する　①剣　②件　③検　④険　⑤見　〈④冒険〉

□□□（ケ）不思議で魅惑的な境チへと人を誘う　①弛　②知　③地　④置　⑤智　〈③境地〉

□□□（コ）作品の出来栄えに強く感タンする　①嘆　②淡　③胆　④担　⑤端　〈①感嘆〉

42

□□□（ア）エン心力がはたらいて安定する　①円　②縁　③園　④延　⑤遠　〈⑤遠心力〉

□□□（イ）理不ジンな要求には屈しない　①人　②陣　③仁　④尽　⑤神　〈④理不尽〉

□□□（ウ）迷子の緊チョウ感を思い出す　①張　②跳　③調　④挑　⑤超　〈①緊張感〉

□□□（エ）対象を明リョウに認識する　①遼　②療　③寮　④僚　⑤瞭　〈⑤明瞭〉

□□□（オ）両者は容イには識別できない　①易　②居　③異　④衣　⑤意　〈①容易〉

□□□（カ）迷子は内面、心のキ機である　①気　②危　③飢　④期　⑤鬼　〈②危機〉

□□□（キ）この出会いは生ガイ忘れない　①害　②慨　③涯　④概　⑤崖　〈③生涯〉

□□□（ク）期タイは失望の母だという　①対　②待　③態　④耐　⑤滞　〈②期待〉

□□□（ケ）フク合的な機能を果たす事務機器　①腹　②復　③福　④複　⑤服　〈④複合〉

□□□（コ）電車の中でソウ像をめぐらす　①相　②想　③創　④奏　⑤壮　〈②想像〉

43

□□□（ア）互いに間カクをあける　① 角　② 覚　③ 隔　④ 画　⑤ 各　〈③間隔〉

□□□（イ）海岸で魚介類をサイ集する　① 再　② 宰　③ 祭　④ 催　⑤ 採　〈⑤採集〉

□□□（ウ）小麦の収カク量を誇る　① 穫　② 覚　③ 確　④ 閣　⑤ 核　〈①収穫量〉

□□□（エ）見えることが世界をコウ築する　① 構　② 効　③ 考　④ 高　⑤ 硬　〈①構築〉

□□□（オ）誤解も覚ゴのうえで行う　① 伍　② 誤　③ 娯　④ 悟　⑤ 御　〈④覚悟〉

□□□（カ）それとなく正解をシ唆する　① 指　② 志　③ 示　④ 詩　⑤ 視　〈③示唆〉

□□□（キ）検査結果をキ録にとどめる　① 記　② 着　③ 機　④ 紀　⑤ 基　〈①記録〉

□□□（ク）仮説を実験で検ショウする　① 証　② 賞　③ 性　④ 省　⑤ 将　〈①検証〉

□□□（ケ）岩場や岩礁のキ則性を知る　① 期　② 軌　③ 規　④ 揮　⑤ 気　〈③規則〉

□□□（コ）分析をキョ絶してしまう　① 虚　② 拒　③ 炬　④ 去　⑤ 居　〈②拒絶〉

44

□□□（ア）状況が事故をユウ発している　① 雄　② 遊　③ 優　④ 誘　⑤ 悠　〈④誘発〉

□□□（イ）家族の在り方を分セツ化して語る　① 接　② 節　③ 刹　④ 設　⑤ 切　〈②分節〉

□□□（ウ）社会に大変なジ態が起きている　① 自　② 時　③ 事　④ 辞　⑤ 次　〈③事態〉

□□□（エ）のんきで牧カ性を感じる　① 家　② 化　③ 荷　④ 香　⑤ 歌　〈⑤牧歌〉

□□□（オ）極めてセツ実な問題である　① 摂　② 節　③ 切　④ 拙　⑤ 折　〈③切実〉

□□□（カ）報告書に虚ギが見つかる　① 戯　② 偽　③ 儀　④ 義　⑤ 議　〈②虚偽〉

□□□（キ）これらは一体で不カ分である　① 科　② 加　③ 可　④ 過　⑤ 果　〈③不可分〉

□□□（ク）先入見やヨ断は禁物である　① 予　② 余　③ 代　④ 与　⑤ 預　〈①予断〉

□□□（ケ）単純にはカン元できない複雑さ　① 環　② 甘　③ 還　④ 換　⑤ 喚　〈③還元〉

□□□（コ）風雨による岩のシン食が進む　① 深　② 浸　③ 津　④ 新　⑤ 進　〈②浸食〉

45

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 言葉のテイ義を正確にする | 底 | 体 | 提 | 訂 | 定 | 〈⑤定義〉 |
| □□□ | (イ) ひとりじめのセン有状態になる | 選 | 占 | 浅 | 宣 | 践 | 〈②占有〉 |
| □□□ | (ウ) 物理学の研究対ショウとする | 証 | 称 | 象 | 照 | 償 | 〈③対象〉 |
| □□□ | (エ) 左右対ショウな図形を置く | 象 | 昭 | 照 | 称 | 床 | 〈④対称〉 |
| □□□ | (オ) これまでチン黙を強いられる | 沈 | 鎮 | 枕 | 陳 | 珍 | 〈①沈黙〉 |
| □□□ | (カ) 不ダンに雨が降り続く | 談 | 段 | 断 | 弾 | 暖 | 〈③不断〉 |
| □□□ | (キ) 絶対視せずソウ対化する | 相 | 壮 | 双 | 奏 | 想 | 〈①相対〉 |
| □□□ | (ク) 社会の変カクに乗り出す | 閣 | 核 | 確 | 画 | 革 | 〈⑤変革〉 |
| □□□ | (ケ) 向こうの提案を拒ヒする | 非 | 被 | 否 | 誹 | 批 | 〈③拒否〉 |
| □□□ | (コ) 能力の水ジュンを高める | 純 | 準 | 順 | 巡 | 准 | 〈②水準〉 |

46

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 知的な財サンを後代に残す | 参 | 産 | 餐 | 賛 | 散 | 〈②財産〉 |
| □□□ | (イ) 難解でフク雑な問題に対処する | 複 | 復 | 福 | 副 | 腹 | 〈①複雑〉 |
| □□□ | (ウ) 詳細なキ録を文書化する | 紀 | 軌 | 既 | 器 | 記 | 〈⑤記録〉 |
| □□□ | (エ) 土壌の成分を解セキする | 析 | 績 | 積 | 籍 | 斥 | 〈①解析〉 |
| □□□ | (オ) 日本の伝統文化の典ケイ事例 | 形 | 傾 | 型 | 系 | 掲 | 〈③典型〉 |
| □□□ | (カ) 唯一絶タイの模範解答はない | 体 | 態 | 耐 | 帯 | 対 | 〈⑤絶対〉 |
| □□□ | (キ) 手元の辞書を参ショウする | 証 | 賞 | 症 | 照 | 象 | 〈④参照〉 |
| □□□ | (ク) 生物学の仮セツを実験で証明 | 折 | 設 | 説 | 拙 | 窃 | 〈③仮説〉 |
| □□□ | (ケ) 叡智をク使して難問にいどむ | 句 | 苦 | 供 | 久 | 駆 | 〈⑤駆使〉 |
| □□□ | (コ) 海図のないコウ海に旅立つ | 講 | 航 | 公 | 後 | 更 | 〈②航海〉 |

47

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 夏期休カの到来を待ちわびる | 科 | 暇 | 過 | 課 | 禍 | 〈②休暇〉 |
| □□□ | (イ) キ車の線路沿いを歩く | 気 | 軌 | 騎 | 汽 | 貴 | 〈④汽車〉 |
| □□□ | (ウ) 教員のイ安会に出席する | 易 | 居 | 慰 | 医 | 偉 | 〈③慰安会〉 |
| □□□ | (エ) 厄カイな問題を解決する | 怪 | 晦 | 回 | 戒 | 介 | 〈⑤厄介〉 |
| □□□ | (オ) 人心の荒ハイに抵抗する | 輩 | 灰 | 敗 | 排 | 廃 | 〈⑤荒廃〉 |
| □□□ | (カ) あの奥様は交サイが好きな方だ | 催 | 際 | 祭 | 栽 | 再 | 〈②交際〉 |
| □□□ | (キ) 気持ちのいいアイ拶を交わす | 逢 | 合 | 相 | 愛 | 挨 | 〈⑤挨拶〉 |
| □□□ | (ク) 帰り道のキョ離が遠くなる | 炬 | 拒 | 距 | 据 | 居 | 〈③距離〉 |
| □□□ | (ケ) いい加ゲンに扱われると腹が立つ | 源 | 減 | 元 | 厳 | 眩 | 〈②加減〉 |
| □□□ | (コ) 相手の態度に興フンしてしまう | 奮 | 憤 | 噴 | 紛 | 粉 | 〈①興奮〉 |

48

| | 問題 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 解答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| □□□ | (ア) 縦の伝ショウ形式を採用する | 承 | 証 | 省 | 招 | 翔 | 〈①伝承〉 |
| □□□ | (イ) 気ショウ予報の技術を学ぶ | 床 | 像 | 象 | 相 | 照 | 〈③気象〉 |
| □□□ | (ウ) 集団の厳格な規ハンを守る | 汎 | 畔 | 版 | 磐 | 範 | 〈⑤規範〉 |
| □□□ | (エ) 厳しい条件やセイ約の下にある | 声 | 制 | 精 | 聖 | 世 | 〈②制約〉 |
| □□□ | (オ) 樽詰めの刑などの罰ソクがある | 束 | 即 | 捉 | 則 | 側 | 〈④罰則〉 |
| □□□ | (カ) 道徳や倫理カンが問われる問題 | 感 | 勘 | 観 | 監 | 寛 | 〈③倫理観〉 |
| □□□ | (キ) チ死薬を投与してはならない | 弛 | 治 | 致 | 置 | 遅 | 〈③致死薬〉 |
| □□□ | (ク) 相手に経済的な制サイを加える | 栽 | 裁 | 催 | 災 | 債 | 〈②制裁〉 |
| □□□ | (ケ) 唯一神に対するセイ約を果たす | 誓 | 制 | 性 | 聖 | 姓 | 〈①誓約〉 |
| □□□ | (コ) 医学校や法学校をヘイ設する | 弊 | 幣 | 丙 | 併 | 塀 | 〈④併設〉 |

49

□□□（ア）作品の完成に全力をケイ注する　①形　②経　③掲　④契　⑤傾　〈⑤傾注〉

□□□（イ）展示用に作品のフク製を作成する　①副　②復　③複　④福　⑤腹　〈③複製〉

□□□（ウ）ヨーロッパ音楽の特イ性を挙げる　①偉　②異　③意　④威　⑤居　〈②特異〉

□□□（エ）メロディを五線フに書き留める　①譜　②布　③符　④普　⑤訃　〈①五線譜〉

□□□（オ）等間カクに距離をたもつ　①各　②隔　③画　④格　⑤拡　〈②等間隔〉

□□□（カ）公開の演ソウ会を催す　①相　②送　③壮　④奏　⑤想　〈④演奏会〉

□□□（キ）徒テイ制度で後継者を育てる　①挺　②体　③邸　④弟　⑤亭　〈④徒弟〉

□□□（ク）大作家のケッ作を上演する　①潔　②結　③決　④血　⑤傑　〈⑤傑作〉

□□□（ケ）新たに音楽院をソウ設する　①創　②想　③草　④総　⑤荘　〈①創設〉

□□□（コ）独特の歌ショウ法を訓練する　①昌　②唱　③省　④章　⑤証　〈②歌唱法〉

50

□□□（ア）かつてコウ式文書は漢文であった　①硬　②公　③考　④講　⑤高　〈②公式〉

□□□（イ）外務省の官リョウとして仕事する　①寮　②療　③僚　④遼　⑤瞭　〈③官僚〉

□□□（ウ）漢文を読むためのホ助具を用意する　①保　②補　③捕　④歩　⑤舗　〈②補助具〉

□□□（エ）日本語は女の文章を母タイに生まれた　①胎　②態　③耐　④退　⑤帯　〈①母胎〉

□□□（オ）異質なものを柔ナンに取り込む　①難　②何　③軟　④楠　⑤南　〈③柔軟〉

□□□（カ）外部に対してハイ他的な性格をもつ　①排　②廃　③敗　④拝　⑤背　〈①排他〉

□□□（キ）コウ上心をもって日々をすごす　①講　②高　③向　④効　⑤考　〈③向上心〉

□□□（ク）あるものを原型としてハ生する　①覇　②葉　③羽　④派　⑤波　〈④派生〉

□□□（ケ）外国からト来してきた文化もある　①渡　②途　③徒　④登　⑤兎　〈①渡来〉

□□□（コ）重大な越ケン行為と指摘する　①顕　②県　③圏　④険　⑤権　〈⑤越権〉

51

□□□（ア）この知カクされた世界を分かち合う　①覚　②確　③画　④角　⑤拡　〈①知覚〉

□□□（イ）相互にイ存する関係にある　①衣　②依　③意　④威　⑤易　〈②依存〉

□□□（ウ）絶海のコ島に漂着する　①個　②小　③孤　④湖　⑤子　〈③孤島〉

□□□（エ）自己と他者の二コウの相補的関係　①講　②項　③考　④効　⑤校　〈②二項〉

□□□（オ）犬との会話の場面をソウ像する　①相　②創　③草　④総　⑤想　〈⑤想像〉

□□□（カ）実際的で有益な知識をカク得する　①覚　②確　③獲　④穫　⑤核　〈③獲得〉

□□□（キ）平和の実現を強くキ求する　①気　②期　③機　④希　⑤企　〈④希求〉

□□□（ク）この書物の見解には共メイできる　①銘　②明　③鳴　④迷　⑤命　〈③共鳴〉

□□□（ケ）あなたと私でこの空間を共ユウする　①優　②有　③遊　④裕　⑤雄　〈②共有〉

□□□（コ）カタ時も君を忘れたことはない　①型　②片　③肩　④形　⑤潟　〈②片時〉

52

□□□（ア）研究成果をメイ題として表現する　①銘　②明　③名　④迷　⑤命　〈⑤命題〉

□□□（イ）両者の意見は矛ジュンして両立しない　①純　②準　③盾　④順　⑤巡　〈③矛盾〉

□□□（ウ）両国の平和条約がセイ立する　①制　②成　③生　④姓　⑤聖　〈②成立〉

□□□（エ）日米の文化間の差イを研究する　①易　②治　③違　④異　⑤夷　〈④差異〉

□□□（オ）外来文化との類ジ性を探る　①字　②次　③磁　④自　⑤似　〈⑤類似〉

□□□（カ）動物と人間を比カク研究する　①覚　②閣　③較　④郭　⑤嚇　〈③比較〉

□□□（キ）ヨウ易には分かりえない人間の心理　①要　②様　③容　④用　⑤揚　〈③容易〉

□□□（ク）商店の棚にカ工品が並んでいる　①化　②加　③過　④火　⑤科　〈②加工品〉

□□□（ケ）世代間に大きなダン絶がある　①断　②段　③弾　④団　⑤談　〈①断絶〉

□□□（コ）調査の結果を市民にカイ示する　①回　②誡　③会　④開　⑤解　〈④開示〉

**53**

□□□（ア）課題に一生懸メイ取り組む　①命　②明　③名　④銘　⑤瞑　〈①懸命〉

□□□（イ）企画会議でキ抜な提案をする　①機　②鬼　③紀　④器　⑤奇　〈⑤奇抜〉

□□□（ウ）事実が悲サンで物語にできない　①散　②惨　③参　④酸　⑤算　〈②悲惨〉

□□□（エ）内閣の決定により特シャとなる　①謝　②舎　③赦　④遮　⑤射　〈③特赦〉

□□□（オ）前大統領の回コ録を読む　①古　②来　③雇　④故　⑤顧　〈⑤回顧録〉

□□□（カ）幼少期の思い出を述カイする　①回　②懐　③解　④誡　⑤開　〈②述懐〉

□□□（キ）提案理由を簡ケツにまとめる　①潔　②結　③決　④欠　⑤傑　〈①簡潔〉

□□□（ク）最後に渾身の力を発キする　①気　②輝　③揮　④着　⑤機　〈③発揮〉

□□□（ケ）犯行の動キが明らかになる　①期　②気　③軌　④来　⑤機　〈⑤動機〉

□□□（コ）人類は長くキ餓に苦しんできた　①鬼　②既　③飢　④忌　⑤危　〈③飢餓〉

**54**

□□□（ア）旅の行程をキ行文にまとめる　①帰　②記　③紀　④既　⑤来　〈③紀行文〉

□□□（イ）文学や芸術作品を批ヒョウする　①評　②表　③票　④標　⑤俵　〈①批評〉

□□□（ウ）敵の地位や名を奪シュする　①主　②取　③守　④手　⑤首　〈②奪取〉

□□□（エ）犯罪の手口がコウ妙化する　①高　②効　③考　④巧　⑤功　〈④巧妙〉

□□□（オ）社会変革の過ト的な状況　①途　②登　③戸　④吐　⑤渡　〈⑤過渡〉

□□□（カ）未開の地へとボウ険に旅立つ　①望　②貿　③冒　④暴　⑤膨　〈③冒険〉

□□□（キ）自らの立場をテッ底する　①徹　②鉄　③哲　④撤　⑤轍　〈①徹底〉

□□□（ク）漂泊の旅、放ロウの旅に出る　①狼　②朗　③郎　④浪　⑤労　〈④放浪〉

□□□（ケ）ここを旅のシュウ焉の地とする　①収　②終　③拾　④執　⑤集　〈②終焉〉

□□□（コ）過激にならず中ヨウの道をゆく　①揚　②様　③洋　④用　⑤庸　〈⑤中庸〉

55

□□□（ア）市場に商品をキョウ給する　①競　②共　③興　④経　⑤供　〈⑤供給〉

□□□（イ）左右の微ミョウなバランスをとる　①妙　②名　③明　④冥　⑤命　〈①微妙〉

□□□（ウ）家族との絆をイ持し続ける　①維　②居　③遺　④緯　⑤意　〈①維持〉

□□□（エ）幼児虐タイが疑われる　①態　②体　③耐　④怠　⑤待　〈⑤虐待〉

□□□（オ）ＩＴ端末が社会に普キュウする　①急　②及　③給　④朽　⑤求　〈②普及〉

□□□（カ）企業のシュウ労規則に従う　①囚　②習　③就　④執　⑤修　〈③就労〉

□□□（キ）社会保障とフク祉政策を立案する　①福　②復　③副　④複　⑤幅　〈①福祉〉

□□□（ク）心身のコウ束から自由になる　①硬　②構　③甲　④抗　⑤拘　〈⑤拘束〉

□□□（ケ）影響力は広ハンにわたっている　①版　②畔　③範　④班　⑤判　〈③広範〉

□□□（コ）不確実な要素をハイ除する　①廃　②灰　③敗　④排　⑤配　〈④排除〉

56

□□□（ア）日常の暮らしからリ脱する　①里　②吏　③離　④裏　⑤裡　〈③離脱〉

□□□（イ）あの日々が追オクの彼方へ退く　①臆　②億　③奥　④憶　⑤屋　〈④追憶〉

□□□（ウ）肌の感覚でショク知する　①色　②稙　③殖　④植　⑤触　〈⑤触知〉

□□□（エ）目の前のものを圧トウする　①踏　②倒　③討　④淘　⑤到　〈②圧倒〉

□□□（オ）忽然（こつぜん）とボウ霊が立ち現れる　①暴　②某　③乏　④亡　⑤貌　〈④亡霊〉

□□□（カ）強レツな光に照らされる　①烈　②列　③裂　④劣　⑤埒　〈①強烈〉

□□□（キ）心を落ち着かせてセイ観する　①制　②清　③静　④晴　⑤醒　〈③静観〉

□□□（ク）対象を分析し、よく吟ミする　①味　②身　③美　④見　⑤看　〈①吟味〉

□□□（ケ）大部の著作をコウ刊するに至る　①興　②広　③公　④交　⑤講　〈③公刊〉

□□□（コ）自分たちとは違う習ゾクを知る　①族　②俗　③属　④賊　⑤続　〈②習俗〉

**57**

□□□（ア）勇ソウな行進曲を奏でる　①荘　②葬　③創　④総　⑤壮　〈⑤勇壮〉

□□□（イ）敵を容赦なく打トウする　①頭　②倒　③討　④踏　⑤闘　〈②打倒〉

□□□（ウ）政治的な目的を達セイする　①制　②征　③成　④政　⑤誓　〈③達成〉

□□□（エ）降フクせずに徹底抗戦する　①副　②伏　③腹　④覆　⑤福　〈②降伏〉

□□□（オ）相手よりユウ位な立場になる　①優　②有　③勇　④右　⑤雄　〈①優位〉

□□□（カ）悪習からの脱キャクを試みる　①脚　②却　③客　④隔　⑤格　〈②脱却〉

□□□（キ）海洋兵力のヒ我の格差を知る　①非　②被　③彼　④比　⑤飛　〈③彼我〉

□□□（ク）内なる力の発ゲンを見る　①原　②元　③言　④現　⑤眩　〈④発現〉

□□□（ケ）対話的な雰囲気をジョウ成する　①剰　②醸　③穣　④譲　⑤場　〈②醸成〉

□□□（コ）赤字で国家の財政が破タンする　①嘆　②淡　③綻　④短　⑤端　〈③破綻〉

**58**

□□□（ア）素読で漢文をボウ読みする　①某　②棒　③暴　④傍　⑤謀　〈②棒読み〉

□□□（イ）通ゾク的な道徳を遵守する　①属　②俗　③族　④賊　⑤続　〈②通俗〉

□□□（ウ）原文に正確なチュウ釈を施す　①忠　②駐　③仲　④注　⑤中　〈④注釈〉

□□□（エ）武人の軍コウを認められる　①興　②効　③功　④幸　⑤公　〈③軍功〉

□□□（オ）江戸のバク藩体制が確立する　①幕　②爆　③漠　④莫　⑤暴　〈①幕藩〉

□□□（カ）主君への忠ギを果たす　①戯　②儀　③議　④犠　⑤義　〈⑤忠義〉

□□□（キ）前後の脈ラクがない発言　①酪　②絡　③烙　④落　⑤楽　〈②脈絡〉

□□□（ク）日々武芸の鍛レンにはげむ　①連　②蓮　③錬　④廉　⑤煉　〈③鍛錬〉

□□□（ケ）官吏のトウ用試験に合格する　①当　②登　③盗　④答　⑤搭　〈②登用〉

□□□（コ）過去のリ歴を詳細に記す　①裡　②理　③利　④里　⑤履　〈⑤履歴〉

59

□□□（ア）ホウ建的な身分制度のなごり　①法　②封　③奉　④邦　⑤保　〈②封建〉
□□□（イ）伝統的な因習にソク縛される　①塞　②即　③捉　④則　⑤束　〈⑤束縛〉
□□□（ウ）イ骸を故郷の墓に葬る　①易　②居　③遺　④緯　⑤衣　〈③遺骸〉
□□□（エ）中世の古テン文献を収集する　①典　②展　③填　④点　⑤店　〈①古典〉
□□□（オ）都会の雑トウと喧騒を忘れる　①頭　②到　③盗　④倒　⑤踏　〈⑤雑踏〉
□□□（カ）故郷に無ショウの愛をそそぐ　①省　②賞　③償　④性　⑤焦　〈③無償〉
□□□（キ）優れたドウ察にもとづく分析　①洞　②同　③胴　④銅　⑤動　〈①洞察〉
□□□（ク）語る言葉にハク力がともなう　①拍　②白　③博　④迫　⑤伯　〈④迫力〉
□□□（ケ）作家のエイ敏な感性にふれる　①英　②栄　③衛　④鋭　⑤映　〈④鋭敏〉
□□□（コ）夕暮れ時に感ショウ的になる　①賞　②傷　③渉　④照　⑤衝　〈②感傷〉

60

□□□（ア）日常のヒ小なものに注目する　①日　②被　③卑　④灯　⑤秘　〈③卑小〉
□□□（イ）高邁で高エンな理想を掲げる　①円　②縁　③園　④延　⑤遠　〈⑤高遠〉
□□□（ウ）直接的でロ骨な表現を避ける　①魯　②炉　③露　④路　⑤呂　〈③露骨〉
□□□（エ）学会のシキ者たちの意見を聞く　①式　②識　③敷　④織　⑤色　〈②識者〉
□□□（オ）商品に重大な欠カンが見つかる　①陥　②勘　③寛　④間　⑤肝　〈①欠陥〉
□□□（カ）世の中の過ちをジョ去する　①叙　②徐　③除　④如　⑤所　〈③除去〉
□□□（キ）悪人のシュウ悪ぶりを表現する　①囚　②臭　③衆　④醜　⑤羞　〈④醜悪〉
□□□（ク）悪行のすべてをバク露する　①幕　②爆　③漠　④縛　⑤暴　〈⑤暴露〉
□□□（ケ）犯行は鋭リな刃物による　①利　②理　③裏　④梨　⑤裡　〈①鋭利〉
□□□（コ）濃コウな味わいの牛乳を売る　①興　②効　③厚　④硬　⑤高　〈③濃厚〉

## 3　慣用句の基礎教養

**【間違いやすい慣用句】**

「〇的を射る　×的を得る」「〇当を得る　×当を射る」「〇正鵠（せいこく）を射る」

「役不足と身に余る」「気がおけない」

「おざなり＝お座なりとなおざり＝等閑」

「ひねもす・よもすがら」「対岸の火事・他山の石」

「情けは人のためならず」

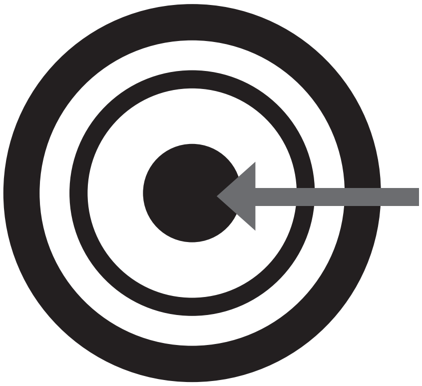
「かわいい子には旅をさせよ」

核心をつく → 的(まと)を射(い)る・正鵠(せいこく)を射(い)る／道理にかなう → 当(とう)を得(え)る

○的を射る　○正鵠を射る

×的を得る

×当を射る



★**役不足**……その人の大きな能力に比べて、役職が不当に低いこと
○「彼の力量からして課長代理では**役不足**だ」
×「課長職は私には**役不足**ですが、がんばります」
自分の力量がその役職に不足しているという意味ではないぞ！
**身に余る**（自分にはもったいない）との混同ですね。
★**気がおけない**……遠慮がいらない、気を遣（使）わない、気さくな関係
○「彼とは小学校以来一緒で気がおけない関係です」
×「彼には話しかけにくく気がおけない」
気を許せない、油断がならないという意味で使うのは間違い！

**★おざなり＝お座なり**……その場かぎり、その場しのぎの態度

**★なおざり＝等閑**……ものごとを軽視する態度・等閑（とうかん）に付す・等閑（とうかん）視する

**★ひねもす＝終日**……朝から晩まで・一日中・終日（しゅうじつ）

**★よもすがら＝終夜**……よどおし・一晩中・終夜（しゅうや）

**★対岸（たいがん）の火事（かじ）**……他人事・他人にとっては重大事でも自分には関係のないこと

**★他山（たざん）の石（いし）**……他人の言動を自分に役立たせること

**★情けは人のためならず**

〇他人に情けをかけておくと、めぐりめぐって自分にも返ってくる。情けは他人のためでなく自分のためだ。

×他人に情けをかけると、相手を甘やかしてダメな人間にしてしまう。情けは相手のためにならないから厳しくするべきだ。

**★かわいい子には旅をさせよ**

〇子どもは甘やかして育てるよりも、手もとから離して世間での辛い経験をさせたほうがよい。そのほうが立派な子に育つ。

×子どもがかわいいと思うなら、旅行費用を出してあげて、卒業旅行を楽しんでもらうべきだ。

# 4　四字熟語の基礎教養

**【間違いやすい四字熟語】**

「○右往左往　×右王左王」「五里霧中と無我夢中」

「○一汁一菜　△一汁三菜　×青汁白菜」

「○一心同体　×一身同体」

「絶体絶命」「危機一髪」「意味深長」「漱石枕流」

「画竜点睛と蛇足」

**○右往左往**（うおうさおう） ×右**王**左**王** ……うろたえて動き回ること

**○五里霧中**（ごりむちゅう） ×五里**夢**中 ……方針が立たない・先が見えないこと

**○無我夢中**（むがむちゅう） ×無我**無**中 ……我を忘れて何かに熱中すること

**○一汁一菜**（いちじゅういっさい） △一汁**三**菜 ×**青**汁**白**菜 ……粗末で質素な食事のこと

**○一心同体**（いっしんどうたい） ×一**身**同体 ……心も体も一つのように協力すること

**○絶体絶命**（ぜったいぜつめい） ×絶**対**絶命 ……追いつめられてピンチ／絶対王政

**○危機一髪**（ききいっぱつ） ×危機一**発** ……危うい所で助かること・間一髪

**○意味深長**（いみしんちょう） ×意味**慎重** ……奥深い特別な意味をもっていること

**★漱石枕流**（そうせきちんりゅう） ……①自然に生きる ②誤りを認めない頑固さ cf. 枕石漱流

**★画竜点睛**（がりょうてんせい） ……最後の仕上げ ※読み方に注意！／蛇足……余計なもの

## 5　敬語の基礎教養

**敬語**……尊敬語・謙譲語・丁寧語の区別があります。

**尊敬語**＝行為している人（動作主）を敬う表現。

（例）「見る→**ご覧になる**」「言う→**おっしゃる**」「聞く→**お聞きになる**」「食べる→**召しあがる**」
「いる→**いらっしゃる**」「行く→**いらっしゃる**」

**謙譲語**＝行為を受ける人（動作の受け手）を敬う表現。

（例）「見る→**拝見する**」「言う→**申す**」「聞く→**うかがう・拝聴する**」「食べる→**いただく**」
「いる→**おる**」「行く→**うかがう**」

**丁寧語**＝聞き手や読み手を敬う表現。「です・ます・ございます」のこと。

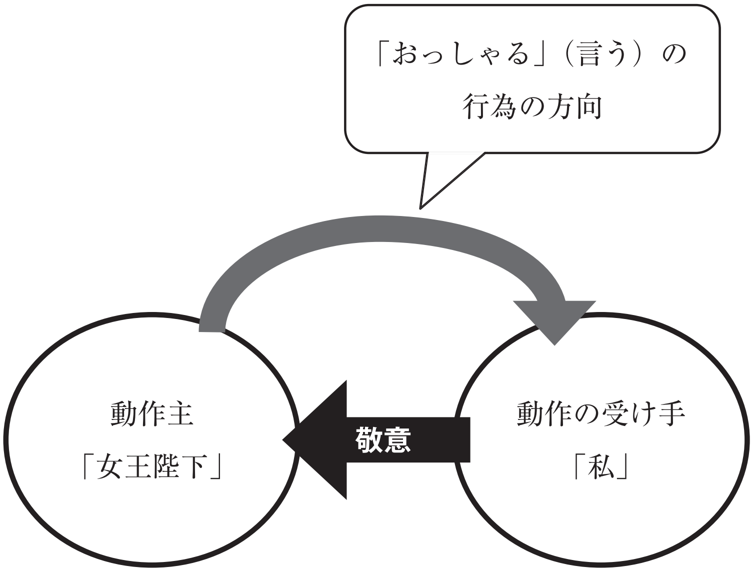
（例）「見る→**見ます**」「言う→**言います**」「聞く→**聞きます**」「食べる→**食べます**」
「いる→**います**」「行く→**行きます**」

および名詞のあたまに「お」や「ご」をつけたものも丁寧語です。

（例）お菓子・お風呂・お宅・お赤飯・ご飯・ご苦労様

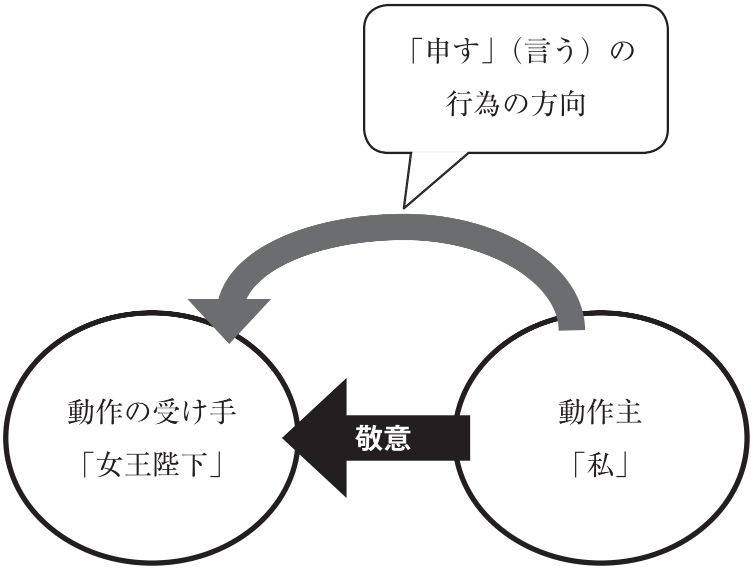
**図解**　**尊敬語**

（例）女王陛下が私に**おっしゃった**。



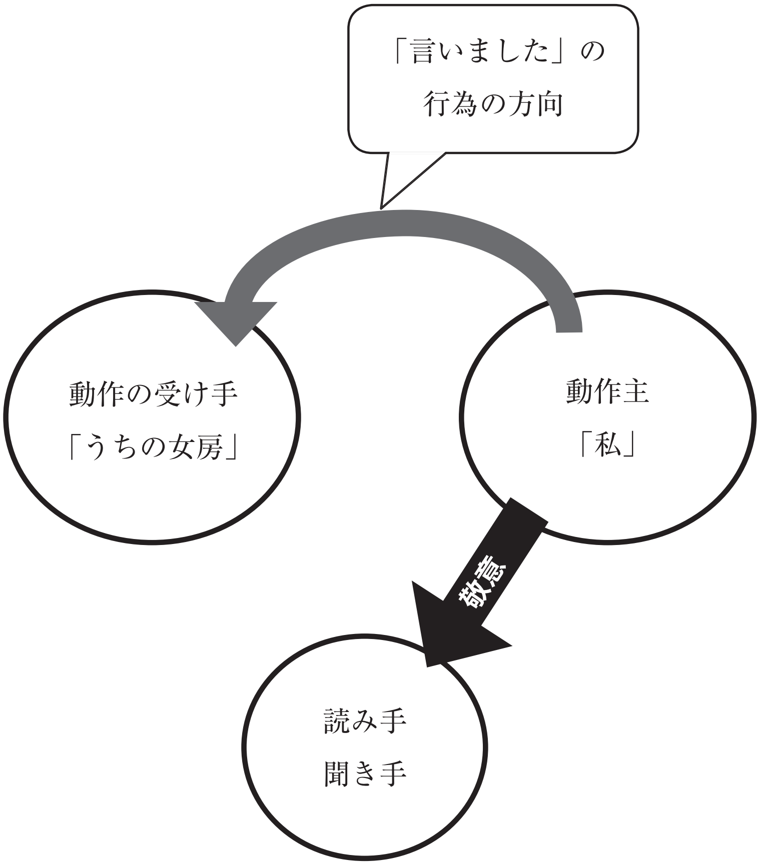
図解 **謙譲語**

（例）私は女王陛下に**申し上げた。**



**図解** **丁寧語**

（例）私はうちの女房に**言いました。**



# 敬語の復習問題

次の各文の――線部の敬語表現について、尊敬語にはA、謙譲語にはB、丁寧語にはCの記号を解答欄に書きなさい。

①　前の首相について私はよく存じあげています。（　　）
②　私から大臣に申しあげたいことがあります。（　　）
③　お客様のご要望をこちらでうけたまわりました。（　　）
④　ご機嫌いかがでございますか。（　　）
⑤　先生がおっしゃることはよくわかりました。（　　）
⑥　お茶碗は私が念入りに洗っておきました。（　　）
⑦　お客様は先ほどお帰りになりました。（　　）

# 第二講　文学史と口語文法

## 1　近代文学史の基礎教養

**言文一致運動―主に明治期―**……近代（明治以降）らしい最初の文学運動。「文学の目的は、人間性（ヒューマニティー）を写すこと！」したがって、普段使いの話し言葉の日本語で文学を書く。
勧善懲悪の否定と**写実主義**。

**坪内逍遥**……東京大卒。
主著・理論書→『小説神髄』　入試・小説→『当世書生気質』
戯曲『桐一葉』／翻訳→シェイクスピア／早稲田大学校歌『都の西北』にも参加。

**二葉亭四迷**……坪内逍遥博士の弟子・東京外語大ロシア語学科中退。
主著・小説→『浮雲』　入試・理論書→『小説総論』
翻訳→『片恋』ロシアの文豪ツルゲーネフの翻訳

山田美妙……第三の男

**前史　戯作文学**……**時代は明治でも、文化的には江戸のまま。**

仮名垣魯文……
『西洋道中膝栗毛』　十返舎一九の『東海道中膝栗毛』のパロディー
『安愚楽鍋』　文芸批評家の、元多摩美術大学学長奥野健男氏は酷評している

**近代俳句・ホトトギス派―主に明治期―**……近代俳句・近代短歌。俳句は滑稽、諧謔などの言葉の遊戯ではなく、写実・写生。

正岡子規……愛媛県松山市生まれ・野球好き。夏目漱石の同窓・『吾輩は猫である』は雑誌「ホトトギス」にて発表された。
三十五歳で死去。
『獺祭書屋俳話』『歌詠みに与ふる書』『病牀六尺』
「鶏頭の十四五本もありぬべし」

高浜虚子……正岡子規の弟子・松山市生まれ。
『虚子俳話』
「白牡丹といふといへども紅ほのか」

## 近代短歌―明治～大正期―……斎藤茂吉

斎藤茂吉……精神科医師＋歌人。母を詠んだ歌が多い。雑誌「アララギ」
『赤光』『あらたま』
「のど赤き玄鳥 ふたつ屋梁にゐて足乳ねの母は死に給ふなり」
「死に近き母に添寝のしんしんと遠田のかはづ天に聞ゆる」

石川啄木……二十七歳で死去。
『あこがれ』（第一詩集）『一握の砂』（第一歌集）
『悲しき玩具』（第二歌集・死後出版）
「不来方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし／十五の心」
「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」
「はたらけど／はたらけど猶わが生活楽にならざり／ぢつと手を見る」
『食ふべき詩』『時代閉塞の現状』…評論

**硯友社（けんゆうしゃ）―主に明治期―**……最初の文学結社。雑誌は『我楽多文庫（がらくたぶんこ）』。欧米化への反動、擬古典（ぎこてん）主義（江戸の井原西鶴（いはらさいかく）や近松門左衛門（ちかまつもんざえもん）を理想とする）

尾崎紅葉（おざきこうよう）……
『金色夜叉（こんじきやしゃ）』『多情多恨（たじょうたこん）』

山田美妙（やまだびみょう）……
『夏木立（なつこだち）』『胡蝶（こちょう）』

幸田露伴（こうだろはん）……厳密には硯友社同人ではないが、擬古典主義として、「紅露（こうろ）時代」を築いた。
『五重塔（ごじゅうのとう）』『風流仏（ふうりゅうぶつ）』
次女……幸田文（こうだあや）『おとうと』→自伝的小説。センター試験で登場。

**自然主義・私小説―主に明治期―**……人間のありのまま・社会のありのまま。

島崎藤村（しまざきとうそん）……英語教師→詩人→小説家→初代日本ペンクラブ会長。

『若菜集（わかなしゅう）』（デビュー作・詩集）『落梅集（らくばいしゅう）』（詩集）

『破戒（はかい）』（エミール・ゾラ『私（わたし）は弾劾（だんがい）する』の影響・社会派自然主義／家族の犠牲）

『夜明け前』（木曽路（きそじ）はすべて山の中である。……）

田山花袋（たやまかたい）……恥ずかしい私生活の暴露・私小説の代表。

『蒲団（ふとん）』『田舎教師（いなかきょうし）』

徳田秋声（とくだしゅうせい）

正宗白鳥（まさむねはくちょう）

**反自然主義・余裕派・高踏派―主に明治期―**……海外留学経験と広範な学識・文学の虚構性。

夏目漱石……東大英文科講師→朝日新聞専属小説家。イギリス留学

『吾輩は猫である』（デビュー作）

『三四郎』『それから』『門』…前期三部作

修善寺の大患（胃潰瘍と大量吐血）

文部省からの文学博士号辞退

『彼岸過迄』『行人』『こころ』…後期三部作

『明暗』（未完の遺作）

森鷗外……陸軍軍医総監＋小説家。ドイツ留学

『青年』『雁』『舞姫』…知識人、エリートの青春

『阿部一族』『山椒大夫』『高瀬舟』…歴史小説

**白樺（しらかば）派―主に大正期―**……学習院グループ（旧制学習院中等科）の同人誌『白樺』に集まったメンバー。人道主義・博愛・ヒューマニズム・理想主義。

志賀直哉（しがなおや）……ボディービルによる鋼の肉体の持ち主。短編小説の神様とも呼ばれる。短編『出来事（できごと）』はセンター試験でも出題された（サプリの動画授業にも入っています）。足尾銅山（あしおどうざん）の大株主である父と衝突し、その後、和解。
『暗夜行路（あんやこうろ）』『和解（わかい）』『城の崎（きのさき）にて』（鉄道事故と温泉療養）

有島武郎（ありしまたけお）……学習院で皇太子の学友に選ばれる。軽井沢の別荘で人妻と心中。
『或（あ）る女（おんな）』『カインの末裔（まつえい）』『生（う）まれ出（い）づる悩（なや）み』

武者小路実篤（むしゃのこうじさねあつ）……貴族（子爵）の家柄。
『友情』『真理（しんり）先生』『幸福者（こうふくもの）』『お目出（めで）たき人（ひと）』『その妹』

里見弴（さとみとん）……有島武郎の弟。『多情仏心（たじょうぶっしん）』

長与善郎（ながよよしろう）……『竹沢（たけざわ）先生と云（い）ふ人』『青銅（せいどう）の基督（きりすと）』

倉田百三（くらたひゃくぞう）……『出家とその弟子』『愛と認識との出発』

**新思潮派―主に大正期―**……東大グループの同人誌『新思潮』に集まったメンバー。夏目漱石の弟子筋とも言える。別名「赤門派」。ここで紹介するのは、第三次・第四次「新思潮」。

芥川龍之介……東大英文科卒・三十五歳で薬物自殺。
『鼻』『羅生門』『芋粥』などは今昔物語の翻案（アレンジ）
『河童』　寓話であり人間社会への風刺
『枯野抄』　松尾芭蕉の臨終場面
『歯車』

菊池寛……一高で芥川龍之介と同級生。文藝春秋社の創始者。菊池寛賞は、日本版ピュリッツァー賞。
芥川賞（純文学の新人賞）・直木賞（大衆文学賞）
『父帰る』『恩讐の彼方に』

久米正雄……東大英文科卒。
山本有三……東大独文科卒。

**耽美(たんび)派―主に大正期―**……芸術至上主義・唯美(ゆいび)主義…世間的常識や道徳よりも美を優先する。

永井荷風(ながいかふう)……江戸の若旦那。
『あめりか物語』『ふらんす物語』『濹東綺譚(ぼくとうきたん)』『腕(うで)くらべ』『すみだ川』

谷崎潤一郎(たにざきじゅんいちろう)……マゾヒズムの美学。
『春琴抄(しゅんきんしょう)』『刺青(しせい)』『痴人(ちじん)の愛(あい)』『細雪(ささめゆき)』
『陰翳礼讃(いんえいらいさん)』（評論）
源氏物語の現代語訳

**新感覚派―主に昭和期―**……戦時中、人間の心理表現に磨きをかける。

川端康成(かわばたやすなり)……日本人初のノーベル文学賞受賞者。
『伊豆(いず)の踊子(おどりこ)』（道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃……）
『雪国(ゆきぐに)』（国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。……）
『山(やま)の音(おと)』『千羽鶴(せんばづる)』『古都(こと)』『掌(たなごころ)の小説』（短編集）

横光利一(よこみつりいち)……
『日輪(にちりん)』『春は馬車に乗って』

**プロレタリア文学―主に昭和期―**……マルクス主義の文学運動。革命による労働者の解放を目指す戦う作家たち。雑誌『文芸戦線（ぶんげいせんせん）』『戦旗（せんき）』

小林多喜二（こばやしたきじ）……小樽（おたる）商科大卒→銀行員→作家→特高警察による拷問で死亡。
『蟹工船（かにこうせん）』　漁業労働者の悲惨さ
『党生活者（とうせいかつしゃ）』

葉山嘉樹（はやまよしき）……早大文学部中退。
『海に生（い）くる人々』　横浜（よこはま）の港湾労働者の悲惨さ
『セメント樽（だる）の中の手紙』

徳永直（とくながすなお）……少年時代から工員生活。
『太陽のない街』　印刷工の悲惨さ

宮本百合子（みやもとゆりこ）……プロレタリア文学の紅一点。
『伸子（のぶこ）』『播州平野（ばんしゅうへいや）』

**四季派―主に昭和期―詩**……堀辰雄編集の雑誌『四季』に集まったメンバー。

堀辰雄……『風立ちぬ』

中原中也……三十歳で夭逝。「汚れちまった悲しみに……」『山羊の歌』『在りし日の歌』（小林秀雄により死後出版）

三好達治・立原道造・丸山 薫

**歴程派―主に昭和期―詩**……高村光太郎編集の雑誌『歴程』に集まったメンバー。

高村光太郎……『智恵子抄』『猛獣篇』『道程』

草野心平……『蛙』『第百階級』

すでに故人となっていた宮沢賢治の詩も収録。

# 近代文学史の復習問題

その１　『あこがれ』『一握の砂』『悲しき玩具』などの詩集や歌集を残した近代の歌人は誰か。

ア　夏目漱石　　イ　森鷗外　　ウ　石川啄木　　エ　武者小路実篤

その２　夏目漱石の門下生で、『羅生門』『鼻』『芋粥』など日本の古典を下じきにした作品を書いた小説家は誰か。

ア　斎藤茂吉　　イ　樋口一葉　　ウ　柳田国男　　エ　芥川龍之介

その３　近代の文学理論書で言文一致を説いたものはどれか。

ア　『歌詠みに与ふる書』　　イ　『小説神髄』　　ウ　『小説の方法』　　エ　『「いき」の構造』

その４　日本人初のノーベル文学賞受賞者は誰か。

ア　川端康成　　イ　湯川秀樹　　ウ　大江健三郎　　エ　村上春樹

その５「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」などの短歌を収録した石川啄木の歌集はどれか。

ア　『智恵子抄』　　イ　『道程』　　ウ　『春と修羅』　　エ　『一握の砂』

その６「のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳ねの母は死に給ふなり」などの短歌を収録した斎藤茂吉の歌集はどれか。

ア　『赤光』　　イ　『みだれ髪』　　ウ　『別離』　　エ　『鍼の如く』

その7　「鶏頭(けいとう)の十四五本もありぬべし」などの写生句で知られる正岡子規(まさおかしき)が創刊に関わった雑誌はどれか。

ア『文学界』　イ『新思潮(しんしちょう)』　ウ『ホトトギス』　エ『歴程(れきてい)』

その8　明治時代、夏目漱石(なつめそうせき)の初期の作品で、「親譲りの無鉄砲で小供(こども)の頃から損ばかりしている」ではじまる小説はどれか。

ア『細雪(ささめゆき)』　イ『それから』　ウ『こころ』　エ『坊(ぼっ)ちゃん』

その9　明治時代、森鷗外(もりおうがい)の作品で、ドイツ留学の経験をふまえた小説はどれか。

ア『渋江抽斎(しぶえちゅうさい)』　イ『高瀬舟(たかせぶね)』　ウ『舞姫(まいひめ)』　エ『風土(ふうど)』

その10　大正時代、白樺派(しらかばは)の志賀直哉(しがなおや)によって書かれた自伝的な小説はどれか。

ア『城(き)の崎(さき)にて』　イ『蒲団(ふとん)』　ウ『蟹工船(かにこうせん)』　エ『李陵(りりょう)』

その11　昭和初期、四季(しき)派に属する中原中也(なかはらちゅうや)によって発表された詩集はどれか（二つ）。

ア『山羊(やぎ)の歌(うた)』　イ『在(あ)りし日(ひ)の歌(うた)』　ウ『一握(いちあく)の砂(すな)』　エ『若菜集(わかなしゅう)』

その12　日本人としては二人目のノーベル文学賞受賞者である大江健三郎(おおえけんざぶろう)の小説はどれか。

ア『沈黙(ちんもく)』　イ『飼育(しいく)』　ウ『伊豆(いず)の踊子(おどりこ)』　エ『雪国(ゆきぐに)』

その13　明治時代、雑誌「ホトトギス」に掲載された夏目漱石のデビュー作はどれか。

ア『吾輩(わがはい)は猫(ねこ)である』　イ『三四郎(さんしろう)』　ウ『明暗(めいあん)』　エ『枯野抄(かれのしょう)』

その14　大正時代、『今昔（こんじゃく）物語集』などの古典をもとにして、人間心理を表現した芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ）の作品はどれか。

ア　『檸檬（れもん）』　イ　『山椒魚（さんしょううお）』　ウ　『鼻（はな）』　エ　『風立（かぜた）ちぬ』

その15　川端康成（かわばたやすなり）の代表作で、「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠（あまぎとうげ）に近づいたと思う頃」ではじまる作品はどれか。

ア　『雪国（ゆきぐに）』　イ　『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』　ウ　『伊豆（いず）の踊子（おどりこ）』　エ　『或（あ）る女（おんな）』

その16　東北地方の農学校に勤めつつ多くの詩を残した宮沢賢治（みやざわけんじ）の童話はどれか。

ア　『銀河鉄道（ぎんがてつどう）の夜（よる）』　イ　『暗夜行路（あんやこうろ）』　ウ　『田舎教師（いなかきょうし）』　エ　『蒲団（ふとん）』

# 2 口語文法（現代文法）の基礎教養

**文節の相互関係**……文節とは発音上の区切り。「**ネ**」を入れて区切れる。

例文 日本には美しい季節のめぐりがあります。

↓日本には**ネ** 美しい**ネ** 季節の**ネ** めぐりが**ネ** あります。

また、文節は相互に関係した役割をもっています。

例文1 今の 日本は 高度な 情報化社会だ。↓主語・述語の関係

例文2 今の 日本は 高度な 情報化社会だ。↓修飾・被修飾の関係

例文3 昨日は 雨だったから レインコートを 着た。↓接続の関係

例文4 教授と 学生が 討論に 参加した。↓並立の関係

例文5 今度は 自力で 取り組んで みよう。↓補助の関係

なお、一つの文節は《自立語単独》あるいは《自立語＋付属語》でできています。

**自立語と付属語**……

**自立語**＝文をつくる主要パーツ

**付属語**＝主要パーツをくっつけたり、意味を補佐するネジのような役割

例文 今**の** 日本**は** 高度な 情報化社会**だ**。↓ 自立語 **付属語**

## 品詞の分類……

自立語グループ

動詞……**活用する**／述語になれる（用言）／終止形末尾の音は「u」　例（生きる・走る・焼く・着る）
形容詞……**活用する**／述語になれる（用言）／終止形末尾は「い」　例（美しい・かわいい・うまい）
形容動詞…**活用する**／述語になれる（用言）／終止形末尾は「だ」　例（静かだ・壮麗だ・真剣だ）

名詞………活用しない／主語になれる（体言）　例（人間・電車・トースト・セーター・家）
副詞………活用しない／用言を修飾する　例（とっても・かなり・かつて・もっと・たぶん）
連体詞……活用しない／体言を修飾する　例（大きな・小さな・あらゆる・この・あの・その）
接続詞……活用しない／接続語になる　例（しかし・だが・したがって・そして）
感動詞……活用しない／独立語（単独で文になる）　例（おや・まあ・ああ・おはよう・はい・いいえ）

付属語グループ

助動詞……**活用する**／　意味の補助をする役　例（せる・させる・れる・られる）
助詞………活用しない／　意味の補助をする役　例（て・に・を・は）

**名詞の種類**……名詞の分類については英語と同じです。

**普通名詞**＝広く一般的なものごとの名称を表現。一般名詞とも言います。

例　海・川・山

**固有名詞**＝ただ一つしかないものの名称を表現。

例　インド洋・日本海・ナイル川・利根川（とね）・マッターホルン・駒ケ岳（こまがたけ）・ジョージ＝ワシントン

**数詞**＝ものの数や分量、順番などを表現。

例　第一・第二・三件・四件・五本・六本・七台・八台

**代名詞**＝直接の名称ではなく代わりに指し示す表現。

1　人称代名詞…わたし・彼・彼女・だれ

2　指示代名詞…これ・あれ・それ・どれ

**形式名詞**＝もともとの意味が薄れて、補助的、形式的に使われる名詞。

例　「人間というものは～」の「もの」・「学ぶとはどういうことか」の「こと」

**副詞と連体詞**……活用しない修飾語

**副詞**＝活用せず、形容詞や形容動詞、動詞を修飾する。

例文1　とてもおいしいタルタルソースですね。（「おいしい」という形容詞を修飾）

例文2　この有名な高原の別荘地はとても静かだ。（「静かだ」という形容動詞を修飾）

例文3　隣家のチワワがしきりに遠吠えする。（「遠吠えする」という動詞を修飾）

**連体詞**＝活用せず、名詞（体言）を修飾する。

例文　小さな皿にあふれるほどビーンズサラダが盛られている。（「皿」という名詞を修飾）

cf　形容詞や形容動詞は活用し、名詞を修飾するだけでなく、形容動詞や動詞を修飾することができる。

例文1　小さい皿にあふれるほどビーンズサラダが盛られている。（「皿」という名詞を修飾する**形容詞**の連体形）

例文2　小さくたたむことのできる素敵なランチボックスです。（「たたむ」という動詞を修飾する**形容詞**の連用形）

例文3　静かな湖畔に貸しボートが浮かんでいる。（「湖畔」という名詞を修飾する**形容動詞**の連体形）

例文4　静かに暮らすにはここは最適な山村です。（「暮らす」という動詞を修飾する**形容動詞**の連用形）

※英語では、形容詞や動詞を修飾するものを副詞と呼び、名詞を修飾するものを形容詞と呼びます。英語の文法上の分類では、連体詞や形容動詞はありません。

## 「ない」の識別

……「打ち消し」という点では同じ。文法上、形容詞の「ない」と助動詞の「ない」に分かれる。

**識別法1** 「ない」の前で文節が切れる（**「ネ」と入れられる→形容詞**／入れられない→助動詞）

★文節で切れるということは、その「ない」は自立語だから。

例文1　おいしくはないが値段は安い。

おいしくは**ネ**　ないが**ネ**　値段は**ネ**　安い。　○→　形容詞

例文2　今日、図書館には行かない。

今日**ネ**、図書館には**ネ**　行か**ネ**　ない。　×→　助動詞

**識別法2 「ぬ」と言い換えられる→助動詞**／「ぬ」と言い換えられない→形容詞

★「ぬ」は、古語の打ち消しの助動詞「ず」の連体形

例文1　おいしくはないが値段は安い。　→おいしくは**ぬ**～　×→形容詞

例文2　今日、図書館には行かない。　→行か**ぬ**　○→助動詞

ただし「洗濯しない」「食事しない」「閲覧しない」など「サ変動詞＋ない」は注意。

「洗濯せぬ」「食事せぬ」「閲覧せぬ」など変形をともなう。

ともかく「～しない」は「サ変動詞＋助動詞」なのだ、と覚えておくのも一つの手です。

**「さえ」の識別**……助詞の一種の「さえ」には大きく二つの意味があります。

●限定や条件＝「〜ば」という仮定や条件を表すことばとセット

例文 この万年筆さえあれば、他には何もいらない。

●極端な例示＝強調された極端な例によって他のことを類推させる。「さえ」のあとに強調の「も」を入れられる。

例文 すでに満腹で、前菜のスープでさえ食べられそうにありません。（メイン料理はますます食べられそうにない）

**「に」の識別**……

**形容動詞**の連用形の末尾＝用言を修飾していて、さらに「〜な」「〜だ」と言い換えられる。
**副詞**の末尾＝用言を修飾していて、さらに「〜な」「〜だ」と言い換えられない。
例文1　まじめに本を読む。→「まじめな」「まじめだ」○→形容動詞
例文2　元気にあいさつする。→「元気な」「元気だ」○→形容動詞
例文3　ただちに現場に向かう。→「ただちな」「ただちだ」→副詞

**助詞**＝名詞＋「に」のカタチ
例文　テーマパークにでかける。　リゾートホテルに宿泊する。

**※他にも文法上はいくつかあるのですが、基礎教養としてはここまでにします。**

## 「だ」の識別……

**形容動詞**の末尾＝「～な」と言い換えられる→形容動詞

例文　うちの子はすこやかだ。…「すこやかな」→形容動詞の末尾

**過去の助動詞**＝動詞＋「だ」のカタチ→過去の助動詞

例文　だるまさんがころんだ。…転ぶ＋「だ」→過去の助動詞

**断定の助動詞**＝名詞＋「だ」のカタチ→断定の助動詞

例文　駅前のあの姿は警察官だ。…警察官＋「だ」→断定の助動詞

**伝聞や様態の助動詞**の末尾＝「そうだ」でまとまるカタチ→伝聞や様態の助動詞「そうだ」

例文1　報道では犯人は逮捕されたそうだ。…「そうだ」→伝聞の助動詞

例文2　あのランナーは今にも倒れそうだ。…「そうだ」→様態の助動詞

**不確かな断定の助動詞**の末尾＝「ようだ」でまとまる→不確かな断定の助動詞

例文　彼はどうも医学部の学生のようだ。…「ようだ」→不確かな断定の助動詞

# 口語文法（現代文法）の復習問題

## 文節の相互関係

次の――部の文節について、相互の関係は何か、選択肢ア～オから選んで記号で答えなさい。

選択肢【ア　並立の関係　イ　修飾・被修飾の関係　ウ　接続の関係　エ　主語・述語の関係　オ　補助の関係】

① 真っ白な　雪が　屋根に　積もった。（　　）
② お腹が　すいたから、昼食に　しよう。（　　）
③ アメリカと　韓国の　大統領が　訪日する。（　　）
④ 来年度の　学習計画を　発表して　みよう。（　　）
⑤ ここは　見事な　桜並木ですね。（　　）

# 品詞の分類

次の1～4は口語文法の用語だが、ア～エの中からそれぞれの説明として適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

1　**形容動詞**

ア　活用し、終止形の末尾が「い」になる。
イ　活用し、終止形の末尾が「だ」になる。
ウ　活用せず、修飾語になる。
エ　活用せず、主語になる。

2　**副詞**

ア　活用し、名詞を修飾する。
イ　活用せず、形容詞や動詞などを修飾する。
ウ　活用し、独立語になる。
エ　活用せず、述語になる。

3　**助動詞**

ア　自立語で、述語になる。
イ　自立語で、主に体言を修飾する。
ウ　付属語で、活用する。
エ　付属語で、活用しない。

4　**名詞**

ア　体言とも言い、主語になれる。
イ　用言とも言い、述語になる。
ウ　体言とも言い、修飾語になる。
エ　用言とも言い、終止形は「ウ」の音になる。

## 名詞の分類

次の――部はすべて名詞であるが、その分類として最も適切なものを選択肢ア～オから選び、記号で答えなさい。

選択肢【ア 数詞 イ 普通名詞 ウ 形式名詞 エ 代名詞 オ 固有名詞】

① 明日は、ところによっては雷雨となるでしょう。（　）
② 飛行機は太平洋上空にさしかかったようだ。（　）
③ 地図を見ると大きな河川が平野を流れている。（　）
④ 休みも終わり、まもなく二学期の始まりです。（　）
⑤ 彼とは小学校で出会い、それ以来の友人だ。（　）

## 副詞と連体詞

次の各文の――線部について、品詞が副詞であるものにはA、連体詞にはB、それ以外の品詞にはCの記号を書きなさい。

① 学校の正門わきに、大きな桜の木があります。（　）
② 遅刻しそうで、今朝は、少しあわてて家を出ました。（　）
③ 駅前に、おいしいパンを売るお店ができたそうです。（　）
④ 昨夜以来、雨がしとしと降り続いています。（　）
⑤ あらゆる国のリーダーが参加する会議が開かれます。（　）

## 「ない」の識別

次の傍線部と文法上の用法が同じものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

美しくないけれども品がある。

ア　小説はめったに読まない人。

イ　土曜日は出社しない予定です。

ウ　新聞に目を通す暇もない。

エ　雨にはならない様子。

## 「さえ」の識別

次の各文の――線部について、限定や条件を示すものにはA、極端な例示にはBの記号を書きなさい。

①　本さえあれば日曜をすごせる。（　　）

②　目の前にあってさえ信じない。（　　）

③　あいさつする時間さえないらしい。（　　）

④　子供でさえ理解できる内容だ。（　　）

⑤　彼さえ参加してくれれば大丈夫だ。（　　）

## 「に」の識別

次の各文の――線部について、形容動詞の末尾を示すものにはA、副詞の末尾にはB、助詞にはCの記号を書きなさい。

① 課題に真剣に取り組んでいる。（　　）
② すでに遠くへいってしまった。（　　）
③ 週末は駅前に集合する。（　　）
④ 彼はしきりに左腕をさすった。（　　）
⑤ 春から大学に進学します。（　　）

## 「だ」の識別

次の――部の分類として最も適切なものを選択肢ア～カから選び、記号で答えなさい。

選択肢
ア　形容動詞の末尾　　イ　過去の助動詞　　ウ　断定の助動詞
エ　伝聞の助動詞の末尾　　オ　様態の助動詞の末尾　　カ　不確かな断定の助動詞の末尾

① 今年は例年になく暖冬になるそうだ。（　　）
② 彼はこの時間から出勤するようだ。（　　）
③ 彼女こそがクラスのリーダーだ。（　　）
④ この土地の魚料理は味わい豊かだ。（　　）
⑤ 暖炉があって室内はあたたかそうだ。（　　）
⑥ あのミステリー小説は昨年読んだ。（　　）

# 第三講 接続語

順接……文と文の関係が「**原因や理由→結果**」の流れになっている。
【それゆえ・そのため・ゆえに・したがって・だから・こういうわけで・その結果・かくて・かくして・こうして・すると】

例文1 このタワーには高速エレベーターがある。**それゆえ**、瞬時に展望台に到着できる。
例文2 ビーンズスープはひどく熱かった。**そのため**、私は舌をやけどしそうになった。
例文3 日本は情報化社会である。**したがって**、情報を吟味する教養が問われるようになったと言える。

理由説明……文と文の関係が「**結果→原因や理由**」の流れになっている。
【なぜなら・というのも・なぜならば】

例文1 展望台には瞬時に到着できる。**なぜなら**、このタワーには高速エレベーターがあるからだ。
例文2 私は舌をやけどしそうになった。**というのも**、ビーンズスープがひどく熱かったからだ。
例文3 情報を吟味する教養が問われるようになっている。**なぜならば**、日本は情報化社会だからだ。

言い換え説明……文と文、あるいは単語と単語の関係が言い換えになっている。
【つまり・すなわち・言い換えれば・換言すれば・いわば・言ってみれば】

例文1　私は徒歩で、**つまり**、自分の脚力を使って丘の上の学校に通学している。
例文2　赤く完熟した夏野菜の代表が皿に盛られていた。**すなわち**、トマトのスライスである。
例文3　日本は少子高齢社会である。**言い換えれば**、少産で少死の長寿社会である。

選択……文と文、あるいは単語と単語の関係が選択の候補になっている。
【あるいは・または・もしくは・それとも・はたまた】

例文1　お好きな映画ジャンルはスパイアクションですか。**あるいは**、コメディですか。
例文2　朝の食卓に上るのは、決まってトマトジュースか、**もしくは**、クランベリージュースであった。
例文3　日本社会は高度な消費社会とも呼べるし、**または**、成熟した資本主義社会とも言える。

並列・並立……文と文、あるいは単語と単語の関係が横並びになっている。
【また・ならびに・および・そして・同時に】

例文1　美しいムラサキツユクサが咲いていた。**また**、レンゲソウも開花するところだった。
例文2　食卓には、揚げたてのエビフライが供され、**そして**、カキフライも並んでいた。
例文3　日本の住宅建築は、台風**ならびに**、地震などの自然災害に対する備えが必要である。

添加・追加……文と文、あるいは単語と単語の関係が上乗せの追加になっている。
【さらに・しかも・加えて・それから・その上・それに・なお・だけでなく・のみならず】

例文1　まず、バスで駅まで行きます。そこから都心まで電車に乗り、**さらに**、地下鉄に乗り換えます。
例文2　彼は熱いコーヒーとフレンチトーストを注文した。**加えて**、デザートにガトーショコラをオーダーした。
例文3　日本社会は国際化しつつあり、**しかも**、価値観の多様化も進んでいる。

時間の経過……文と文、あるいは単語と単語の関係が時間経過の前後になっている。
【やがて・その後・かくて】

例文1 幼少期の夢は、建築家だった。**やがて**、高校の頃には私の興味はインテリアに移っていた。
例文2 図書館でパスタのレシピ本を借りた。**その後**、食材をマーケットで買い求めた。
例文3 明治時代に義務教育制度がスタートした。**かくて**、百年のうちに識字率は百パーセントになったのである。

逆接……文と文、あるいは単語と単語の関係が対比的・対照的・対立的になっている。
【だが・しかし・けれども・ところが・それなのに・それにもかかわらず】

例文1 朝からどしゃぶりの雨だ。**だが**、彼は傘も持たずに出かけたのである。
例文2 昼食は軽めに済まそうと考えていた。**それにもかかわらず**、天井特盛を注文してしまった。
例文3 冷戦時代は終わった。**しかし**、世界の平和が実現されたわけではない。

※補足【〜ではなく、むしろ〜・〜というより、むしろ〜】というタイプの逆接もある。
例文 日本は格差社会というより、**むしろ**、格差感社会と言える。

譲歩……メインメッセージの前フリを導く。一歩ゆずって、比較メッセージを語る。
【なるほど・たしかに・もちろん・むろん】

例文1　**むろん**、山の紅葉は悪くない。けれども、私のおススメは港町の夜景の方だ。
例文2　**なるほど**、スイーツは別腹だという。しかし、特盛牛丼を食べた私はもう満腹だ。
例文3　**たしかに**、一億総中流と言われた時代があった。だが、今では深刻な格差がある。

話題転換・問題提起……話題がかわる。新たな問題や話題を出す。
【さて・そこで・ところで・閑話休題・では・それでは】

例文1　学生時代、私の趣味は自転車の改造でした。**ところで**、あなたのご趣味はなんですか。
例文2　和菓子職人の話は以上です。**さて**、ここから洋菓子のパティシエの話をしましょう。
例文3　「知は力なり」とフランシス＝ベーコンは言った。**では**、ルネ＝デカルトはなんと言ったか。

具体例……文と文、あるいは単語と単語の関係が「**まとめ→具体例**」になっている。
【例えば・例を挙げれば・具体的にいえば】

例文1 市内では自家用車ではなく公共交通機関が移動には便利ですよ。**例えば**、地下鉄だね。
例文2 中華まんには豊富な具材がつまっている。**例を挙げれば**、タケノコやシイタケや豚ひき肉である。
例文3 環境問題にも様々ある。**具体的にいえば**、地球温暖化、オゾン層の破壊、生物多様性の危機などだ。

まとめ……文と文、あるいは単語と単語の関係が「**具体例→まとめ**」になっている。
【このように・このような・こうして・こうした・まとめれば・以上のように・つまり・したがって】

例文1 市内の移動には鉄道やバスや路面電車がおススメです。**こうした**公共交通機関が便利です。
例文2 タケノコやシイタケや豚ひき肉など、**このように**中華まんには豊富な具材がつまっている。
例文3 地球温暖化、オゾン層の破壊、生物多様性の危機などが挙げられる。**以上のように**環境問題にも様々ある。

強調……とくに強調したい単語や文を導く。
【なかでも・とくに・なかんずく・とりわけ・わけても・とりわけても】

例文1　明日の関東地方の天候は荒れ模様です。**なかでも**、沿岸部は強風と高波に注意してください。
例文2　イタリアンジェラートが好きですね。**とくに**、シンプルなバニラ・フレーバーが最高だね。
例文3　日本の先端的な企業には競争力がある。**とりわけ**、ナノテク分野は有望と言える。

比喩……たとえによる言い換え説明を導く。
【まるで・あたかも・さも・さながら・ちょうど・いわば】

例文1　三日降り続いた雨で、運動場はひどくぬかるんでいた。**さながら**泥の海だ。
例文2　手からこぼれ落ちたピーナッツは、**あたかも**生きているかのように飛び跳ねて視界から消えた。
例文3　バブル期の経済では、不動産価格の上昇が**まるで**永遠に続くかのように信じられていた。

# 練習問題1

次の文に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【 そのため　つまり　例えば　また　とりわけ 】

① 日本には、ボランティア団体であるＮＰＯ法人が四万以上ある。［　　］、数が多いのは、保健医療福祉分野の団体である。

② 日本での寄付の総額は一兆円である。そのうち、個人の寄付が約五十二％、［　　］法人が約四十八％となっている。

③ アメリカでは州によってはボランティアが中高生の必須科目になっている。［　　］、カリフォルニア州では十二時間の活動が卒業までに必要である。

④ 衆議院選挙の投票率は若い世代ほど低い傾向にある。［　　］、若者の政治的無関心が広がっていると言われる。

⑤ 産業用ロボットの稼働台数は世界一と言われる。［　　］、製造業の自動化が日本では進んでいるのだ。

# 練習問題2

次の文に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　ならびに　なかでも　その後　しかし　たしかに　】

① なるほど、男女雇用機会均等法はこれまで改正を重ねてきた。［　　］、男女格差が十分に是正されているとは言えない。

② 日本の新聞発行部数は、九〇年代末をピークに、［　　］、ゆるやかに減少傾向を続けている。

③ 国際競争力では、日本の技術開発力［　　］、消費者の洗練度は最高水準である。

④ ［　　］、企業は自社の利益を真っ先に考えるものだ。しかし、社会的責任も考えに入れなければならない。

⑤ 地方自治体は、様々な課題に直面している。［　　］、空き家やゴミ屋敷は深刻な問題だ。

# 練習問題3

次の文に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　では　むしろ　なぜなら　その上　あるいは　】

①　世界では難民問題が深刻化している。戦争難民が二千万人を超え、［　　］、環境難民も二千万人を超えている。

②　淡水は実は希少資源である。［　　］、地球上の水資源のうち海水がおよそ九七％を占めるからだ。

③　廃プラスチックの相当な量が、再利用されているか、［　　］、熱回収という方法で役立っている。

④　野生動物の保護を目的とするワシントン条約については以上です。［　　］、湿地保護のラムサール条約の話に移りましょう。

⑤　世間のイメージに反して、少年の凶悪犯罪の総数は増えてはいない。［　　］、数は減少傾向である。

# 接続語の復習問題1

次の文に含まれる□に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　それゆえ　このように　というのも　けれども　あたかも　】

①　□教育立国であるかのように思われがちだが、日本では教育費の私費負担率が高いのが実態である。

②　例えば、内科、外科、婦人科、小児科、眼科などがある。□、病院の診療科は多岐にわたる。

③　ジェネリック医薬品の普及率が上昇しつつある。□、政府の促進予算が付くようになったからだ。

④　公共交通機関のバリアフリー化はまだ十分とは言えない。□、移動に制約や困難を伴う人が多くいる。

⑤　なるほど医師の総数は増えている。□、産科婦人科医は減っているのが日本の現状である。

# 復習問題2

次の文章に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　また　例えば　まるで　したがって　】

知識とは眼鏡である。
もちろん、これは、すべての知識人は眼鏡をかけているなどという意味ではない。正確に言えば、知識とは、それがあるときとないときとでは、ものの見え方、世界のあらわれ方が違ってくるものであり、その点で眼鏡になぞらえることができる、と言いたいのである。ゆえに正確には、知識とはまるで眼鏡のように機能するものである。
実際に眼鏡をかけている人にはわかりやすいだろうが、それまで茫漠（ぼうばく）とかすんでいた視界が、眼鏡をかけたとたん、はっきりと見えてくる。さっきまでぼやけていたあの物は、実はこういう物だったのか、という具合に。
同様に、知識があれば今までわからなかったことに説明がつく。例えば、子供の頃に説明がついていた世界と大人になった今、説明理解できる世界とを比べれば、このことはわかりやすいだろう。
ところで、知識には様々な種類がある。［　　］、「眼鏡」をかけることで、それぞれに見えてくる世界がちがうということになる。［　　］経済学の知識＝「眼鏡」があれば、人間の社会活動やお金の流れなどは、他の人とは違って見える。［　　］、法律学者が見ているこの世界と他の人が見ているこの世界とでは違いがある。さらに、知識がより体系化されたものである「理論」は一層、眼鏡らしい性質をもつ。端的な例を挙げれば、マルクス主義の理論から見れば、世界は階級対立の世界と映る。この意味で、知識とは色眼鏡であると表現することもできる。また特殊な領域を知り、理解するためには特殊な知識や理論が必要になる。こうした専門知識での眼鏡は［　　］、顕微鏡や天体望遠鏡のように機能すると言うことができる。
（小柴（こしば）　大輔（だいすけ）『知識とはどういうものか』）

# 復習問題3

次の文章に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　あるいは　　例えば　　では　　すなわち　　このように　】

私たち人間の認識、知識の状態には三つの段階があるように思われる。［　　］、知識が頭の中にある状態、口で話された状態、そして文字で「かかれた」状態の三つである。

［　　］、私たちは次のようなことを日常的に経験しているのではないだろうか。ある事柄について、頭ではわかっているつもり、自分ではわかっているはずのことを、いざ人に話して説明しようとするとうまくいかないという経験だ。［　　］、会話の中ではすらすら言えたことが、文字・文章として書き記そうとすると、つっかえてしまうという経験である。［　　］、認識、知識の三つの状態の間には明らかに断絶が存在する。

さて、これら三つの間の違い、差異について考えていく前に重要なことは、この三つの状態いずれにも言葉、言語が関わっているということである。話したり書いたりするときに言葉が使われるということは言うまでもないが、頭の中で考えるときにも私たちは言葉を使って考えている。疑わしいと思う人は、自分で早速試してみるがいい、言葉を使わずに考えることができるかどうか。ここに書かれていることに対する同意にしろ反論にしろ、あなたはすでに言葉を使ってそうしているはずだ。いや、思考というより、もっと感覚的な次元においてすら、「痛い」「おいしい」「悲しい」「うれしい」等々、私たちは言葉を通じて感じているのである。

［　　］、知識＝認識が頭の中にある状態、話された状態、書かれた状態の三つの差異は、どのようなものとしてあらわれてくるのか。すなわち、それらの間に横たわっているのは言葉の明確さ・明断性の度合いの違いであり、普遍性の程度の違いである。言い換えれば、知識＝認識が頭の中にある状態では、それは自分だけの了解であったわけだが、話すときには自分

以外の他者にもわかるように、みんなが共有している言葉の規則（言語学や記号論では、こうした共通規則のことをコード＝Codeと読んだりする）や文法に従って話さなければならない。だから、頭の中にとどまっていた状態に比べ、話されるときには、知識＝認識は明瞭になっているわけだし、またあまりに曖昧なままの知識＝認識は言葉で語ることができない（自分ではわかっているつもりだったのに、うまく他人に説明できない）ということになる。

（小柴　大輔『「かく」ということについて』）

# 復習問題4

次の文章（復習問題3の続きの文章です）に含まれる［　　］に適切な語を、選択肢から選んで書き込みなさい。ただし、一度選んだ選択肢は二度使えません。

選択肢【　いわば　ゆえに　また　つまり　というのも　】

発話の場合には、表情やしぐさといった非言語的な仕方で意味をくみとってもらえる可能性があり、不明瞭で曖昧でひどく簡略化された言葉遣いでも、案外会話は成り立ってしまう。相手の性格や人柄を知っているときにはなおさらだ。例えば、ごく親しい友人同士の会話や親子の間の言葉のやりとりを想起したらわかるだろう。

かくて、書くという段階にいたって知識＝認識を表現し、他者に理解してもらうのに頼れるのは言葉の共通規則だけということになる。いや、むしろ言葉の共通規則だけに頼るからこそ、明確性（自分だけでなくみんなにもわかる）が増す。個人的知識、主観的知識が普遍的、客観的知識へと変貌する。［　　］、文章を書くときに感じるわずらわしさや苦しみは、頭の中にあった独りよがりの思考を、言葉の共通規則に乗せることの苦しみ、困難さということになる。こうした困難さを伴うとはいえ、頭の中で眠っていた知識＝認識、すなわち可能性としてだけ存在していた知識＝認識が、言葉の共通規則を通じて現実に表現され、明確化される。古代哲学の巨人、アリストテレスのことばをかりれば、「デュナミス（可能態）からエネルゲイア（現実態）へ」ということになろうか。

けれども、この短い論考で述べようとしている「かく」ということの特異性は、明確性ということに尽きない。［　　］、「かく」ということのなお一層の特異性とは、「かかれた」ものが自律性をもつということであるからだ。［　　］、文字なり活字なりによって紙の上に記されることで、それを生み出した人間の身体（思考過程や脳を含んだ身体）から独立した実体を獲得する。先に書かれた知識が個人的なものではなく他者にもわかるという意味で客観的だと述べたが、実は主観・意識・

思考過程から離れて「物」となったという意味でも「かかれた」ものは客観的である。

　こうして「かく」という行為を通じて自律化・客観化されたものは広く他者によって見られたり、鑑賞されたり、批評、批判されたりすることになる。その際に重要なことは、書き手＝筆者の意図とは別に評価されたり、批判されたりすることがあるということである。この意味でも「かかれた」ものは自律性と独立性をもつ。この点、小説や論文だけでなく、絵画や彫刻などの美術作品についても全く同様のことが言える。

　かくして、私たちは広く「かく」という行為を通じて自らの知識＝認識を明確化し、［　　　］思考を自律化、客観化することができる。そうしてはじめて気づく自分というものもあろう。つまり、「かく」ということは、［　　　］客観化された自分との対面の場とも言えそうだ。

（小柴　大輔『「かく」ということについて』）

# 付録・慣用句集

## 慣用句の全世界一周

| チェック | 慣用句 | 読み方 | 意味 |
|---|---|---|---|
| □□□ | 1 相容れない | アイイレナイ | 互いに受け入れられない<br>二つの立場がかみあわない |
| □□□ | 2 愛くるしい | アイクルシイ | たいへんかわいらしい<br>あどけなくてかわいい |
| □□□ | 3 相俟って・あいまって | アイマッテ | 互いに作用し合って・相乗的に<br>ハイブリッド、シナジー |
| □□□ | 4 あえなく | アエナク | いかにももろく・あっけなく |
| □□□ | 5 暁・あかつき | アカツキ | 望みがかなったとき／夜明け |
| □□□ | 6 あくせく・齷齪 | アクセク | 小さなことや目先のことに追われる<br>こせこせ、せかせかする |
| □□□ | 7 あぐらをかく | アグラヲカク | のうのうとする、のんきにかまえる<br>ずうずうしい態度 |
| □□□ | 8 あげく・挙句・揚げ句 | アゲク | おわり・結果・結局のところ<br>連歌（五七五＋七七＋五七五＋七七＋……と複数名で唱和する詩歌の形態）の最後の「七七」を最後の最後ということで挙句という |
| □□□ | 9 あげつらう・論う | アゲツラウ | あれこれ論じる・可否、理非を論じる<br>小さなことを取り立てて批判する |
| □□□ | 10 あこぎ | アコギ | 強欲で無慈悲・あくどい |
| □□□ | 11 あごで使う | アゴデツカウ | 上から目線の威張った態度で人を使う |
| □□□ | 12 あごを出す | アゴヲダス | 疲れてへたばる |
| □□□ | 13 朝まだき | アサマダキ | 夜が明け切らないころ・早朝 |
| □□□ | 14 足が付く | アシガツク | 犯行が明らかになる<br>犯人やその逃走経路がわかる |
| □□□ | 15 足が出る | アシガデル | 予算オーバー・隠しごとが現れる |
| □□□ | 16 足が早い | アシガハヤイ | 食べ物がくさりやすい／売れ行きがよい |
| □□□ | 17 足元を見る | アシモトヲミル | 相手の弱みにつけこむ |
| □□□ | 18 あせらかす | アセラカス | おだてる・ほめそやす |
| □□□ | 19 あだになる | アダニナル | 裏目に出る・逆効果 |
| □□□ | 20 徒花・空花・あだばな | アダバナ | 実をつけず散る花・無駄・季節外れに咲く花 |
| □□□ | 21 頭が下がる | アタマガサガル | 敬服する、感心する |
| □□□ | 22 頭ごなし | アタマゴナシ | 相手の言い分を聞かず、がみがみ言う・決めつける |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 23 頭をもたげる | アタマヲモタゲル | 台頭する・勢力を伸ばす |
| □□□ | 24 あて | アテ | 見込み・目的・手がかり |
| □□□ | 25 油を売る | アブラヲウル | 無駄話をして時間をつぶす |
| □□□ | 26 あまた | アマタ | たくさん、非常に<br>引く手あまた＝人気で引っ張りだこ |
| □□□ | 27 あまつさえ | アマツサエ | そればかりか・その上に・おまけに |
| □□□ | 28 あまねく・遍く | アマネク | 広くすみずみまで・普遍的に |
| □□□ | 29 あまのじゃく | アマノジャク | 人と反対のことをするひねくれもの |
| □□□ | 30 あらいざらい | アライザライ | すっかりなにもかも |
| □□□ | 31 ありきたり | アリキタリ | ありふれている・普通で面白くない<br>月並み・陳腐 |
| □□□ | 32 暗礁に乗り上げる | アンショウニノリアゲル | 動きが取れなくなる<br>うまく進行しなくなる |
| □□□ | 33 案の定 | アンノジョウ | 思ったとおりに |
| □□□ | 34 案配・塩梅 | アンバイ | 物事や体のぐあい |
| □□□ | 35 いかんともしがたい | イカントモシガタイ | どうすることもできない |
| □□□ | 36 息がかかる | イキガカカル | 有力者の影響や支援を受ける |
| □□□ | 37 いきさつ | イキサツ | 物事がそうなった事情や背景・原因・経緯 |
| □□□ | 38 いきりたつ | イキリタツ | すさまじく怒る・興奮する・猛り立つ |
| □□□ | 39 いささか | イササカ | ちょっと、どことなく |
| □□□ | 40 いずれ菖蒲か杜若 | イズレアヤメカカキツバタ | どちらも優れていて、選択に迷う |
| □□□ | 41 居丈高 | イタケダカ | 威圧的・いきりたつ |
| □□□ | 42 いたずらに | イタズラニ | 無駄に |
| □□□ | 43 板につく | イタニツク | ふさわしくピッタリする・調和する<br>似つかわしくなる |
| □□□ | 44 一笑にふす | イッショウニフス | まともに相手しない |
| □□□ | 45 一矢を報いる | イッシヲムクイル | 反撃する<br>大勢や局面を変えるほどではないが<br>反攻を試みる |
| □□□ | 46 一席ぶつ | イッセキブツ | 演説する |
| □□□ | 47 一席設ける | イッセキモウケル | 宴会などの場を設ける |
| □□□ | 48 犬と猿 | イヌトサル | 仲が悪い |
| □□□ | 49 意表 | イヒョウ | 思ってもみないこと・想定してないこと |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 50 慰撫 | イブ | なだめる・なぐさめて心をおだやかにする |
| □□□ | 51 訝る | イブカル | 怪しむ・不審におもう |
| □□□ | 52 戒め | イマシメ | 注意してさとす・こらしめる・懲戒厳しく禁じる |
| □□□ | 53 いやしくも | イヤシクモ | かりそめにも・かりにも |
| □□□ | 54 甍 | イラカ | 屋根がわら |
| □□□ | 55 色を失う | イロヲウシナウ | 驚いて混乱する・青ざめる・顔色をなくす |
| □□□ | 56 色を付ける | イロヲツケル | おまけをつける・値引きして売る |
| □□□ | 57 色をなす | イロヲナス | 怒り出す・怒って顔色が変わる |
| □□□ | 58 曰くいいがたい | イワクイイガタイ | 説明しにくい・えもいわれぬ |
| □□□ | 59 いわくつき | イワクツキ | 議論や話題を呼んだ・込み入った事情がある |
| □□□ | 60 いわば | イワバ | たとえてみれば |
| □□□ | 61 憂き身をやつす | ウキミヲヤツス | やせるほど熱中する・なりふり構わず夢中になる |
| □□□ | 62 浮世 | ウキヨ | この世・世俗・世間・つらく生きにくい現世 |
| □□□ | 63 嘯く・うそぶく | ウソブク | とぼける・大きなことを言う・虚勢をはる |
| □□□ | 64 現をぬかす | ウツツヲヌカス | 心を奪われ夢中になる |
| □□□ | 65 うつろ・虚ろ・空ろ | ウツロ | 中身や心がからっぽでぼんやりしている・心ここにあらず |
| □□□ | 66 腕に覚えがある | ウデニオボエガアル | 腕力や技量に自信がある |
| □□□ | 67 腕を買う | ウデヲカウ | 技能・実力を認める |
| □□□ | 68 疎ましい・うとましい | ウトマシイ | いやだ・好ましくない・厭わしい（いとわしい） |
| □□□ | 69 馬が合う | ウマガアウ | 気持ちがしっくり合う・意気投合する |
| □□□ | 70 倦むことがない | ウムコトガナイ | 退屈しない・集中する |
| □□□ | 71 恭しい・うやうやしい | ウヤウヤシイ | 敬って礼儀正しく振る舞うさま |
| □□□ | 72 うろたえる | ウロタエル | あわてふためく・狼狽する<br>どうしてよいかわからない |
| □□□ | 73 うろんな | ウロンナ | うさんくさい・怪しく確かでない |
| □□□ | 74 襟を正す | エリヲタダス | 気持ちを引き締める |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 75 | 遠慮会釈もない | エンリョエシャクモナイ | てかげんなく |
| □□□ | 76 | 往々にして | オウオウニシテ | しばしば・よくあることだが |
| □□□ | 77 | 往時 | オウジ | むかし・当時・過ぎ去った時 |
| □□□ | 78 | 往生する | オウジョウスル | 死ぬ・死後生まれ変わること<br>じたばたせずあきらめる・困り果てて、まいる |
| □□□ | 79 | 往年 | オウネン | むかし・昔日(せきじつ) |
| □□□ | 80 | 概ね | オオムネ | 大概・だいたい・概略・あらまし |
| □□□ | 81 | お先棒を担ぐ | オサキボウヲカツグ | 人の手先になる |
| □□□ | 82 | 御座なり | オザナリ | その場しのぎにいいかげんに物事を行う |
| □□□ | 83 | 小田原評定 | オダワラヒョウジョウ | 長引いて決着がつかない会議 |
| □□□ | 84 | お茶を濁す | オチャヲニゴス | ごまかす |
| □□□ | 85 | おのがじし | オノガジシ | めいめい・それぞれ・各自 |
| □□□ | 86 | お鉢が回る | オハチガマワル | 順番が来る |
| □□□ | 87 | 夥しい・おびただしい | オビタダシイ | とても多い・程度がはなはだしい |
| □□□ | 88 | 御百度を踏む | オヒャクドヲフム | 頼みごとで何度も訪ねる |
| □□□ | 89 | 尾鰭をつける | オヒレヲツケル | 大げさに言う・事実以外のことが追加される |
| □□□ | 90 | おぼつかない | オボツカナイ | 確かでない・頼りない・はっきりしない |
| □□□ | 91 | 思いなしか | オモイナシカ | 気のせいか |
| □□□ | 92 | おもむろに・徐に | オモムロニ | 静かにゆっくり・落ち着いて<br>(「不意に突然に」の意味で使うのは誤り) |
| □□□ | 93 | おもんぱかる | オモンパカル | 配慮する・考慮する・忖度（そんたく）する |
| □□□ | 94 | 折り合いをつける | オリアイヲツケル | 妥協する・関係、仲をとりもつ |
| □□□ | 95 | 折り紙付き | オリガミツキ | 鑑定書付き・立派で信用できる・成功を保証する |
| □□□ | 96 | 折りにふれて | オリニフレテ | 機会ある度に |
| □□□ | 97 | 諧謔 | カイギャク | おもしろみ・滑稽・しゃれ・ユーモア |
| □□□ | 98 | 改竄 | カイザン | ごまかす・意図的に文面や数値を書き換える |
| □□□ | 99 | 懐柔 | カイジュウ | てなずけてだきこむ・従わせる |
| □□□ | 100 | 会心 | カイシン | 満足する・心にかなう |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 101 掻い撫で・かいなで | カイナデ | 表面だけ・通り一遍・平凡で深さがない |
| □□□ | 102 垣間見る | カイマミル | うかがう、のぞく |
| □□□ | 103 隗より始めよ | カイヨリハジメヨ | 遠大な仕事は身近なところからスタートせよ・まず言い出した人から始めよということ<br>cf 隗は中国春秋戦国時代の人 |
| □□□ | 104 界隈 | カイワイ | 辺り近所 |
| □□□ | 105 顔色をうかがう | カオイロヲウカガウ | 相手の態度や機嫌を気にする |
| □□□ | 106 顔が売れる | カオガウレル | 広く知られる・有名になる |
| □□□ | 107 顔が利く | カオガキク | 有名で便宜を図ってもらえる |
| □□□ | 108 顔を立てる | カオヲタテル | 相手の名誉や面目を守る |
| □□□ | 109 顔をつぶす | カオヲツブス | 相手の名誉を傷付ける |
| □□□ | 110 画一 | カクイツ | おなじようにそろえる・規格化 |
| □□□ | 111 笠に着る | カサニキル | 背後の力を頼んで威張る・虎の威を借る狐 |
| □□□ | 112 仮借 | カシャク | ゆるす・見逃す・慈悲 |
| □□□ | 113 呵責 | カシャク | きびしくせめる・せめさいなむ<br>(例)良心の呵責に耐えられない |
| □□□ | 114 固唾を呑む | カタズヲノム | 緊張や心配で息をこらす・息をのむ |
| □□□ | 115 肩肘を張る | カタヒジヲハル | 堅苦しい態度を取る |
| □□□ | 116 片棒を担ぐ | カタボウヲカツグ | 仕事に協力する・二人で担ぐ籠（かご）の一端を担う |
| □□□ | 117 肩を入れる | カタヲイレル | 加勢する・ひいきにして支援する |
| □□□ | 118 肩を持つ | カタヲモツ | 味方になって助ける<br>争っているうちの一方をひいきする |
| □□□ | 119 喝破する | カッパスル | 大声で他の説を打ち破る・真実を見抜く |
| □□□ | 120 活を入れる | カツヲイレル | 強い調子で元気付ける（「喝を入れる」は誤り 「喝」は禅宗で、しかりや励ましの声） |
| □□□ | 121 合点 | ガテン・ガッテン | 納得する・了解する・承知する |
| □□□ | 122 予て・かねて | カネテ | 前々から |
| □□□ | 123 兜を脱ぐ | カブトヲヌグ | 降参する |
| □□□ | 124 かまける | カマケル | 一つのことに心をかける<br>一つのことに気を取られる |
| □□□ | 125 喧しい・かまびすしい | カマビスシイ | さわがしい・喧騒(けんそう) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 126 | 鎌をかける | カマヲカケル | 相手に本当のことを言わせようと、うまく誘い込む |
| □□□ | 127 | 搦め手 | カラメテ | 相手の弱点をつく<br>城の裏や陣地の裏から攻める軍勢 |
| □□□ | 128 | かろうじて | カロウジテ | ようやく・辛くも・なんとか |
| □□□ | 129 | 閑却する | カンキャクスル | 打ち捨てておく・なおざりにする・放っておく |
| □□□ | 130 | 閑古鳥が鳴く | カンコドリガナク | 人の出入りが少ない |
| □□□ | 131 | 間然する所がない | カンゼンスルトコロガナイ | とやかく批判するところがない<br>「間然」は欠点を見つけて非難すること |
| □□□ | 132 | 噛んで含める | カンデフクメル | ていねいに言い聞かす |
| □□□ | 133 | 看破する | カンパスル | 見抜く |
| □□□ | 134 | 還暦 | カンレキ | 六十歳のこと |
| □□□ | 135 | 気が置けない | キガオケナイ | 気楽で肩肘はらない・うちとけた関係<br>遠慮がいらない関係 |
| □□□ | 136 | 気がさす | キガサス | なんとなく後ろめたい・気がとがめる |
| □□□ | 137 | 気がせく | キガセク | 焦る |
| □□□ | 138 | 気がめいる | キガメイル | ゆううつ |
| □□□ | 139 | 兆し・きざし | キザシ | 前兆・まえぶれ・予兆 |
| □□□ | 140 | 期して | キシテ | 決意して |
| □□□ | 141 | 期せずして | キセズシテ | 思いがけなく・偶然 |
| □□□ | 142 | きつねとたぬき | キツネトタヌキ | くせもの同士 |
| □□□ | 143 | 踵を返す | キビスヲカエス | 引き返す |
| □□□ | 144 | 踵を接する | キビスヲセッスル | つぎつぎ続く |
| □□□ | 145 | 気脈を通じる | キミャクヲツウジル | 密かに連絡を取る |
| □□□ | 146 | 肝に銘ずる | キモニメイズル | 心に留めて忘れない |
| □□□ | 147 | 杞憂 | キユウ | 取り越し苦労・する必要のない心配 |
| □□□ | 148 | 虚をつく | キョヲツク | 相手の油断をつく |
| □□□ | 149 | 気を持たす | キヲモタス | 期待させる |
| □□□ | 150 | 気をもむ | キヲモム | 心配してやきもきする |
| □□□ | 151 | 琴線に触れる | キンセンニフレル | 心にひびく、感動する |
| □□□ | 152 | 寓話 | グウワ | 教訓話・たとえ話・動物を擬人化したストーリー<br>(例)イソップ物語 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 153 釘をさす | クギヲサス | はっきりと念を押す |
| □□□ | 154 くだを巻く | クダヲマク | くどくどうるさく言う |
| □□□ | 155 口が重い | クチガオモイ | あまり話をしない |
| □□□ | 156 口が滑る | クチガスベル | うっかり言う |
| □□□ | 157 口が干上がる | クチガヒアガル | 暮らしが成り立たない |
| □□□ | 158 口車に乗る | クチグルマニノル | 巧みな言葉にだまされる |
| □□□ | 159 口の端に上る | クチノハニノボル | うわさになる |
| □□□ | 160 口を利く | クチヲキク | 間に入って関係をとりもつ |
| □□□ | 161 口を切る | クチヲキル | 初めに発言する |
| □□□ | 162 轡を並べる | クツワヲナラベル | 一緒に進む |
| □□□ | 163 首が飛ぶ | クビガトブ | 職を辞めさせられる |
| □□□ | 164 首が回らない | クビガマワラナイ | 金銭のやりくりに困る・借金が多い |
| □□□ | 165 首をひねる | クビヲヒネル | 疑問に思う |
| □□□ | 166 くめどもつきない | クメドモツキナイ | 無尽蔵にある・はてしなくたくさんある |
| □□□ | 167 警句 | ケイク | 巧みに人生や社会の真理をついた短い表現<br>教訓・箴言(しんげん)・アフォリズム |
| □□□ | 168 蛍雪の功 | ケイセツノコウ | 苦労して学問した成果 |
| □□□ | 169 けがの功名 | ケガノコウミョウ | 失敗したことが逆に手柄になる |
| □□□ | 170 逆鱗に触れる | ゲキリンニフレル | 激しく怒らせる |
| □□□ | 171 怪訝・けげん | ケゲン | 疑わしそうに<br>事情や理由がわからず不思議そうに |
| □□□ | 172 蓋し・けだし | ケダシ | 私が思うに・おそらく |
| □□□ | 173 下駄を預ける | ゲタヲアズケル | 相手に任せる・なにもせず傍観する |
| □□□ | 174 健気・けなげ | ケナゲ | しっかりしてすこやか・殊勝<br>年少者や弱者が努力するさま |
| □□□ | 175 下馬評 | ゲバヒョウ | 世間のうわさ・第三者がする批評 |
| □□□ | 176 故意 | コイ | わざと・意図的に |
| □□□ | 177 高じる | コウジル | はなはだしくなる・程度が上昇する |
| □□□ | 178 後塵を拝する | コウジンヲハイスル | 人に先んじられる・権勢ある人に付き従う |
| □□□ | 179 業を煮やす | ゴウヲニヤス | はかどらず、腹を立てる |
| □□□ | 180 黒白を争う | コクビャクヲアラソウ | ことの是非、善悪をはっきりさせる |
| □□□ | 181 黒白を付ける | コクビャクヲツケル | よい悪いをはっきりさせる |
| □□□ | 182 沽券 | コケン | 人間の価値・品位・体面 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 183 糊口をしのぐ | ココウヲシノグ | ほそぼそと暮らしをたてる・やっとのことで生活する<br>口を糊(のり)する＝かゆをすする |
| □□□ | 184 虎口を脱す | ココウヲダッス | 危険を逃れる |
| □□□ | 185 心付け | ココロヅケ | 祝儀・お礼・チップ |
| □□□ | 186 腰を折る | コシヲオル | 途中で妨げる<br>(例)話の腰を折る |
| □□□ | 187 挙って・こぞって | コゾッテ | 全部集まって・大挙して・大勢で・一人残らず |
| □□□ | 188 ご多分にもれず | ゴタブンニモレズ | 世間と同じに・多くの意見と同じに |
| □□□ | 189 骨髄に徹す | コツズイニテッス | 深く心の底にしみこむ |
| □□□ | 190 糊塗する | コトスル | ごまかす・一時しのぎにうわべだけつくろう |
| □□□ | 191 寿ぐ・言祝ぐ・ことほぐ | コトホグ | ことばで祝福する |
| □□□ | 192 胡麻をする | ゴマヲスル | 自分の利益実現のために、相手をもちあげる・ひとにおもねり、こびへつらう |
| □□□ | 193 殺し文句 | コロシモンク | 相手の心を捉えてしまう言葉 |
| □□□ | 194 采配を振る | サイハイヲフル | 指揮する・指図する |
| □□□ | 195 さかしら | サカシラ | 利口ぶった・こざかしい |
| □□□ | 196 さじを投げる | サジヲナゲル | あきらめる・見放す |
| □□□ | 197 さすらう | サスラウ | さまよい歩く・漂泊する・流浪する |
| □□□ | 198 左遷 | サセン | 官位や地位を下げられる |
| □□□ | 199 さぞ | サゾ | どんなにかまあ・さぞかし・さぞや・さだめし |
| □□□ | 200 鯖を読む | サバヲヨム | 数や年齢をごまかす |
| □□□ | 201 恣意 | シイ | 思い込み・思うまま・任意・気まま・ほしいまま |
| □□□ | 202 潮時 | シオドキ | ちょうどよい時 |
| □□□ | 203 獅子身中の虫 | シシシンチュウノムシ | 味方でありながら害を加えるもの |
| □□□ | 204 孜々として | シシトシテ | たゆまず努力して・熱心に努力するさま |
| □□□ | 205 辞世の句 | ジセイノク | 死にのぞんで詠む詩歌 |
| □□□ | 206 舌が回る | シタガマワル | よどみなくしゃべる・流暢に話す |
| □□□ | 207 下にも置かぬ | シタニモオカヌ | 人を丁寧に扱う |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 208 舌を巻く | シタヲマク | ひどく感心して驚く |
| □□□ | 209 地団駄を踏む | ジダンダヲフム | 足をばたばたしてくやしがる |
| □□□ | 210 執拗な | シツヨウナ | しつこい、徹底した |
| □□□ | 211 実力伯仲 | ジツリョクハクチュウ | 優劣の差がないこと |
| □□□ | 212 地でいく | ジデイク | ありのままふるまう・実践する |
| □□□ | 213 しどけない | シドケナイ | しまりがない・髪や服装が乱れてだらしない |
| □□□ | 214 しどろ | シドロ | 乱れる・はっきりしない<br>しどろもどろ＝話の内容が乱れてはっきりしない |
| □□□ | 215 鎬を削る | シノギヲケズル | 激しく争う |
| □□□ | 216 しびれを切らす | シビレヲキラス | 待ち遠しい |
| □□□ | 217 奢侈 | シャシ | ぜいたく・度を越してぜいたく<br>身分不相応な暮らし |
| □□□ | 218 弱冠 | ジャッカン | 年が若い・男子二十歳 |
| □□□ | 219 若干 | ジャッカン | わずかに・いくらか少し |
| □□□ | 220 終日 | シュウジツ | 一日中・ひねもす・朝から晩まで |
| □□□ | 221 終生 | シュウセイ | 死ぬときまで・一生 |
| □□□ | 222 終夜 | シュウヤ | 一晩中・よもすがら・夜通し |
| □□□ | 223 雌雄を決する | シユウヲケッスル | 勝負をつける |
| □□□ | 224 殊勝 | シュショウ | 特別すぐれている・感心だ・健気 |
| □□□ | 225 出藍の誉れ | シュツランノホマレ | 弟子が先生に勝るようになる |
| □□□ | 226 首尾よく | シュビヨク | うまいぐあいに・都合よく |
| □□□ | 227 逡巡 | シュンジュン | しりごみする・ためらう・躊躇する・二の足を踏む |
| □□□ | 228 常軌を逸する | ジョウキヲイッスル | 普通でないことをする |
| □□□ | 229 小康状態 | ショウコウジョウタイ | 危険な状態が少しおさまっている |
| □□□ | 230 精進 | ショウジン | 一生懸命に努力する・一つのことにはげむ・仏道の修業をする |
| □□□ | 231 常套 | ジョウトウ | ありふれた・きまりきった<br>昔から変わらないありきたりの<br>（例）常套句・常套手段 |
| □□□ | 232 焦眉の急 | ショウビノキュウ | 事態が切迫している・危険が身にせまっている |
| □□□ | 233 触手を伸ばす | ショクシュヲノバス | 徐々に進出しようとする・相手に近づこうとする |
| □□□ | 234 所詮 | ショセン | つまるところ、結局 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 235 尻に火がつく | シリニヒガツク | 事態が差し迫ってあわてる |
| □□□ | 236 尻をたたく | シリヲタタク | やる気にさせる・叱咤激励する |
| □□□ | 237 箴言 | シンゲン | 教訓・格言・警句・アフォリズム |
| □□□ | 238 森厳 | シンゲン | おごそかでいかめしい・居ずまいや襟を正す感じ |
| □□□ | 239 人口に膾炙す | ジンコウニカイシャス | 広く世間の話題になる・知れ渡る |
| □□□ | 240 人後に落ちない | ジンゴニオチナイ | ひけをとらない |
| □□□ | 241 辛酸をなめる | シンサンヲナメル | ひどくつらいめにあう |
| □□□ | 242 尋常ではない | ジンジョウデハナイ | 普通ではない |
| □□□ | 243 身上 | シンジョウ | 本来のとりえ、本領、値打ち<br>自分のこと、身の上 |
| □□□ | 244 水魚の交わり | スイギョノマジワリ | 親密な交際 |
| □□□ | 245 杜撰 | ズサン | 文章や仕事に誤りが多い・手抜き |
| □□□ | 246 鈴なり | スズナリ | 大勢群がっている |
| □□□ | 247 雀の涙 | スズメノナミダ | ごくわずかなたとえ |
| □□□ | 248 砂を噛むような | スナヲカムヨウナ | 味気ない・無味乾燥 |
| □□□ | 249 図に乗る | ズニノル | いい気になる・思い通りになると考えてつけあがる |
| □□□ | 250 隅に置けない | スミニオケナイ | 案外世間を知っていて、あるいは技能や知識があり、油断できない |
| □□□ | 251 すれっからし | スレッカラシ | 世慣れてずるがしこい・世間ずれしていて悪賢い |
| □□□ | 252 寸鉄人を殺す | スンテツヒトヲコロス | 警句や短い言葉で相手の急所を突く |
| □□□ | 253 正鵠を射る | セイコクヲイル | 核心を突く・的を射ると同義 |
| □□□ | 254 精髄 | セイズイ | 本質・最重要部分・エッセンス・エスプリ |
| □□□ | 255 精通 | セイツウ | 詳しく知っている・通暁（つうぎょう） |
| □□□ | 256 赤裸々 | セキララ | ありのまま・率直に・むきだし |
| □□□ | 257 切に | セツニ | ひたすら・心から |
| □□□ | 258 先鞭をつける | センベンヲツケル | 他に先駆けて着手する |
| □□□ | 259 相好をくずす | ソウゴウヲクズス | 大喜びでニコニコする |
| □□□ | 260 双璧 | ソウヘキ | 二人の優れた人物・ともに優れた二つのもの（「双壁」は誤り） |
| □□□ | 261 即座に | ソクザニ | その場ですぐに・ただちに |
| □□□ | 262 そしり・誹り・謗り | ソシリ | 非難・批判 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 263 そつがない | ソツガナイ | 手落ちがない・手抜かりや無駄がない |
| □□□ | 264 ぞんざい | ゾンザイ | 扱いがあらっぽくていいかげん<br>丁寧でない・がさつ |
| □□□ | 265 忖度 | ソンタク | 相手の気持ちをおしはかる |
| □□□ | 266 対岸の火事 | タイガンノカジ | 自分とは関わりのない出来事 |
| □□□ | 267 高見の見物 | タカミノケンブツ | 安全な場所から傍観 |
| □□□ | 268 高をくくる | タカヲククル | たいしたことはないとみくびる、あなどる |
| □□□ | 269 他山の石 | タザンノイシ | 自分のために役立つもの<br>つまらないものでも自分の反省になること |
| □□□ | 270 たしなめる | タシナメル | 軽くしかる・悪いところを直すように注意する |
| □□□ | 271 だしにする | ダシニスル | 目的のために利用する |
| □□□ | 272 たじろぐ | タジログ | 相手に圧倒されてひるむ |
| □□□ | 273 蛇足 | ダソク | よけいなもの・なくてよいもの |
| □□□ | 274 たたずむ | タタズム | しばらく立つ・しばし立ち止まる |
| □□□ | 275 立つ瀬がない | タツセガナイ | 自分の立場や面目がない |
| □□□ | 276 達筆 | タッピツ | 字や文章が上手なこと |
| □□□ | 277 脱帽 | ダツボウ | 敬服する・感服する・おそれいる |
| □□□ | 278 立て板に水 | タテイタニミズ | よどみなくすらすらとしゃべる・流暢 |
| □□□ | 279 棚に上げる | タナニアゲル | 自分のことはさておいて、言及しない |
| □□□ | 280 袂をわかつ | タモトヲワカツ | 別れる・人との縁を切る |
| □□□ | 281 たわいない | タワイナイ | 取るに足らない・子供のよう<br>酔っぱらって正体がない |
| □□□ | 282 啖呵をきる | タンカヲキル | 威勢よくまくしたてる |
| □□□ | 283 断腸の思い | ダンチョウノオモイ | 非常に強い悲しみや苦しみ |
| □□□ | 284 竹馬の友 | チクバノトモ | おさななじみ |
| □□□ | 285 地歩を固める | チホヲカタメル | 地位や自分の活動場所を確かなものにする |
| □□□ | 286 躊躇 | チュウチョ | 二の足を踏む・ためらう・逡巡する |
| □□□ | 287 提灯に釣り鐘 | チョウチンニツリガネ | つりあわないもののたとえ |
| □□□ | 288 徴表 | チョウヒョウ | しるし・めやす・他と区別し特徴づけるもの・メルクマール |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 289 | 通暁 | ツウギョウ | ある事柄をすみずみまでよく知っている・夜通し |
| □□□ | 290 | つかぬこと | ツカヌコト | 突飛なこと・だしぬけ<br>それまでの話とはかかわりのないこと |
| □□□ | 291 | 月並み | ツキナミ | ありきたり・毎月定期的で変わらぬこと |
| □□□ | 292 | つっけんどん | ツッケンドン | 冷淡でとげとげしい |
| □□□ | 293 | 慎ましい | ツツマシイ | ひかえめで物静か<br>暮らしぶりがぜいたくではなく質素 |
| □□□ | 294 | つとに | ツトニ | 早くから・幼少から・早朝から・殊(こと)に |
| □□□ | 295 | 募る | ツノル | 広く呼びかけて集める・激しくなる<br>(例) 風雨がつのる |
| □□□ | 296 | つぶさに・具に | ツブサニ | 細かいところまで詳しく・具体的に |
| □□□ | 297 | 詳らか | ツマビラカ | 詳しい・ことこまかに細部まで明らか |
| □□□ | 298 | 爪を研ぐ | ツメヲトグ | 野心を抱き、チャンスをねらう |
| □□□ | 299 | 面魂 | ツラダマシイ | 強い精神力が顔に現れている |
| □□□ | 300 | 諦念 | テイネン | あきらめ・物事の本質を悟る |
| □□□ | 301 | 手がこむ | テガコム | 細工や技巧が細かい |
| □□□ | 302 | 手がない | テガナイ | 方法がない |
| □□□ | 303 | 手ぐすね引く | テグスネヒク | 十分に用意して待ち構える |
| □□□ | 304 | 手塩にかける | テシオニカケル | 大切に育てる |
| □□□ | 305 | 出たとこ勝負 | デタトコショウブ | いきあたりばったり |
| □□□ | 306 | 手玉に取る | テダマニトル | もてあそぶ・相手を思うように操る |
| □□□ | 307 | 手につかない | テニツカナイ | 気持ちが他のものに奪われて集中できない |
| □□□ | 308 | 手に乗る | テニノル | だまされて思うままになる |
| □□□ | 309 | 手のひらを返す | テノヒラヲカエス | 急に態度を変える |
| □□□ | 310 | 手持ち無沙汰 | テモチブサタ | 退屈・暇をもてあます・することがない・所在ない |
| □□□ | 311 | 手も無く | テモナク | 簡単に・そのまま |
| □□□ | 312 | 手を切る | テヲキル | 関係を絶つ |
| □□□ | 313 | 手を染める | テヲソメル | 何かをしはじめる |
| □□□ | 314 | 手を焼く | テヲヤク | もてあます・てこずる・対処に苦労する |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 315 等閑にふす | トウカンニフス | いい加減に放っておく・「なおざり」とも読む |
| □□□ | 316 桃源郷 | トウゲンキョウ | 平和な別天地・世俗を離れた別世界（陶淵明の詩から） |
| □□□ | 317 湯治 | トウジ | 温泉につかって病気や怪我の療養をする |
| □□□ | 318 堂々巡り | ドウドウメグリ | 同じ議論を繰り返して果てしがない |
| □□□ | 319 堂に入る | ドウニイル | 技術や学問がよく身についている 物事に習熟している |
| □□□ | 320 登竜門 | トウリュウモン | 出世の糸口・鯉がここから竜になる |
| □□□ | 321 通り一遍 | トオリイッペン | うわべだけ |
| □□□ | 322 とかく | トカク | ともすれば・よくあることだが あれやこれや・ともかくも |
| □□□ | 323 咎める・とがめる | トガメル | 誤りや罪を非難する |
| □□□ | 324 度肝を抜く | ドギモヲヌク | びっくりさせる |
| □□□ | 325 毒気にあてられる | ドクケニアテラレル | 相手に圧倒されて呆然となる |
| □□□ | 326 毒気を抜かれる | ドクケヲヌカレル | 勢いをなくしておとなしくなる |
| □□□ | 327 とこしえ | トコシエ | 永遠・どこまでもずっと続く |
| □□□ | 328 とどのつまり | トドノツマリ | 結局のところ |
| □□□ | 329 ともあれ | トモアレ | それはさておき・ところで |
| □□□ | 330 ともすれば | トモスレバ | 時には、折りにふれて、ややもすれば |
| □□□ | 331 虎の子 | トラノコ | 大切にして手放さないもの |
| □□□ | 332 度を失う | ドヲウシナウ | 取り乱す |
| □□□ | 333 とんきょうな | トンキョウナ | 調子外れな・その場にそぐわない |
| □□□ | 334 蔑ろ・ないがしろ | ナイガシロ | 軽く扱う・あるのにないかのような軽い扱い |
| □□□ | 335 ない袖はふれない | ナイソデハフレナイ | ないものはどうしようもない |
| □□□ | 336 ないまぜにする | ナイマゼニスル | 混ぜ合わせる・より合わせる |
| □□□ | 337 なおざり | ナオザリ | 注意を払わない・いい加減・「等閑」とも書く |
| □□□ | 338 鳴かず飛ばず | ナカズトバズ | 人目に付く活躍がない |
| □□□ | 339 流れをくむ | ナガレヲクム | ある系統に属する |
| □□□ | 340 なかんずく | ナカンズク | とりわけて・なかでも |
| □□□ | 341 梨のつぶて | ナシノツブテ | 行ったきりなんの音沙汰もない |
| □□□ | 342 鉈を振るう | ナタヲフルウ | 思い切った整理をする |
| □□□ | 343 なまくら・鈍 | ナマクラ | 刃物の刃先がにぶる・なまける |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 344 ならわし | ナラワシ | 習慣、慣習、儀礼 |
| □□□ | 345 煮え切らない | ニエキラナイ | 態度がはっきりしない |
| □□□ | 346 似て非なる | ニテヒナル | 外見は似ているが内実は違う |
| □□□ | 347 二の足を踏む | ニノアシヲフム | ためらう・躊躇する |
| □□□ | 348 二番煎じ | ニバンセンジ | 焼き直し・新しみのないものまね |
| □□□ | 349 二枚舌を使う | ニマイジタヲツカウ | 矛盾したことを言う・嘘を言う |
| □□□ | 350 俄か・にわか | ニワカ | 急に、突然に・すぐに |
| □□□ | 351 ぬかずく | ヌカズク | ひざまずく・拝礼する |
| □□□ | 352 糠に釘 | ヌカニクギ | 手ごたえや効き目がない |
| □□□ | 353 濡れ衣を着せる | ヌレギヌヲキセル | 無実の罪をおわせる |
| □□□ | 354 猫の額 | ネコノヒタイ | 土地が狭い |
| □□□ | 355 猫の目のよう | ネコノメノヨウ | めまぐるしく変わる |
| □□□ | 356 猫も杓子も | ネコモシャクシモ | みんな |
| □□□ | 357 猫をかぶる | ネコヲカブル | 本性を隠し、おとなしく見せる |
| □□□ | 358 音をあげる | ネヲアゲル | 辛さに耐えられない・弱音を吐く |
| □□□ | 359 喉から手が出る | ノドカラテガデル | とてもほしい・垂涎（すいぜん） |
| □□□ | 360 輩出 | ハイシュツ | 優れた人物が続々と世に出ること |
| □□□ | 361 歯が浮く | ハガウク | 軽薄なお世辞などを聞いて不快になる・きざっぽくていやだ |
| □□□ | 362 拍車をかける | ハクシャヲカケル | 一段と進行を早める |
| □□□ | 363 暴露 | バクロ | 明るみに出す |
| □□□ | 364 畑違い | ハタケチガイ | 専門領域が異なる |
| □□□ | 365 はたして・はたせるかな | ハタシテ・ハタセルカナ | 思っていたとおりに・案の定 |
| □□□ | 366 ばつが悪い | バツガワルイ | 恥ずかしい思いをする・きまりがわるい |
| □□□ | 367 破天荒 | ハテンコウ | 型破り、未曾有、前代未聞 |
| □□□ | 368 鼻白む | ハナジロム | 気後れして、おじける・興ざめした顔をする |
| □□□ | 369 鼻であしらう | ハナデアシラウ | 相手を軽く見ていいかげんに扱う |
| □□□ | 370 鼻にかける | ハナニカケル | 自慢する・得意になる |
| □□□ | 371 鼻につく | ハナニツク | 飽きて不快になる・嫌みに感じられる |
| □□□ | 372 鼻の下が長い | ハナノシタガナガイ | 女に甘くすぐ誘惑に乗る |
| □□□ | 373 鼻持ちならない | ハナモチナラナイ | 気に食わない、耐えられない・がまんならない |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 374 花も実もある | ハナモミモアル | 名実ともにそなわる |
| □□□ | 375 鼻をあかす | ハナヲアカス | 出し抜いてびっくりさせる |
| □□□ | 376 歯に衣着せぬ | ハニキヌキセヌ | ずけずけ物を言う・遠慮のないものいい |
| □□□ | 377 羽を伸ばす | ハネヲノバス | のびのびする |
| □□□ | 378 幅を利かす | ハバヲキカス | 勢力を張る |
| □□□ | 379 羽振りがいい | ハブリガイイ | 金回りが良い |
| □□□ | 380 羽目を外す | ハメヲハズス | 興に乗りすぎる・調子に乗りすぎて度を越す |
| □□□ | 381 早手回しに | ハヤテマワシニ | 先回りする・早々に手配する |
| □□□ | 382 腹が据わる | ハラガスワル | びくびくしないで落ち着いている |
| □□□ | 383 腹に据えかねる | ハラニスエカネル | 我慢できない |
| □□□ | 384 腫れ物にさわる | ハレモノニサワル | おそるおそる扱う |
| □□□ | 385 判で押したよう | ハンデオシタヨウ | 同じ事の繰り返し・紋切り型・ステレオタイプ |
| □□□ | 386 彼岸 | ヒガン | 対岸・向こう岸・悟りの境地・あの世 |
| □□□ | 387 引き合いに出して | ヒキアイニダシテ | 例証に上げて |
| □□□ | 388 引きも切らず | ヒキモキラズ | 絶え間なく |
| □□□ | 389 卑下する | ヒゲスル | へりくだる・いやしむ |
| □□□ | 390 膝を打つ | ヒザヲウツ | 何かに気付く、感心する |
| □□□ | 391 膝を交える | ヒザヲマジエル | うちとけて話し合う |
| □□□ | 392 ひそみにならう | ヒソミニナラウ | 他人をまねる・模倣する |
| □□□ | 393 額に汗する | ヒタイニアセスル | 一生懸命働く |
| □□□ | 394 ひたむき | ヒタムキ | それだけに打ち込む・一つの事に心を向ける |
| □□□ | 395 左うちわ | ヒダリウチワ | 楽して暮らす |
| □□□ | 396 筆頭 | ヒットウ | 代表・先頭を行くもの |
| □□□ | 397 一泡吹かせる | ヒトアワフカセル | 驚き慌てさせる |
| □□□ | 398 ひとえに | ヒトエニ | もっぱら(専ら)・ただそれだけ |
| □□□ | 399 一際 | ヒトキワ | よりいっそう |
| □□□ | 400 一筋縄ではいかない | ヒトスジナワデハイカナイ | 普通の手段ではうまくいかない |
| □□□ | 401 一肌脱ぐ | ヒトハダヌグ | 発奮して助力する |
| □□□ | 402 人目をはばかる | ヒトメヲハバカル | 人に見られるのを避ける |
| □□□ | 403 人を食う | ヒトヲクウ | 馬鹿にする・みくびる |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 404 ひねもす・終日 | ヒネモス | 怪獣の名前ではない。「一日中」の意 |
| □□□ | 405 日の出の勢い | ヒノデノイキオイ | 勢いが盛ん |
| □□□ | 406 病臥 | ビョウガ | 病気で床にふせる、療養する |
| □□□ | 407 ひるむ | ヒルム | 気力がくじける |
| □□□ | 408 火を付ける | ヒヲツケル | きっかけをつくる |
| □□□ | 409 風貌 | フウボウ | 容姿・見た目・外見・とくに雰囲気をもった外見 |
| □□□ | 410 不覚を取る | フカクヲトル | 油断してしくじる |
| □□□ | 411 分がない | ブガナイ | 勝ち目がない |
| □□□ | 412 物色 | ブッショク | 適当なものをさがす |
| □□□ | 413 降ってわいた | フッテワイタ | 思いがけず、突然 |
| □□□ | 414 懐が寒い | フトコロガサムイ | 所持金が少ない |
| □□□ | 415 ふとどき | フトドキ | けしからぬこと・心や配慮がいきとどいていない |
| □□□ | 416 腑に落ちない | フニオチナイ | 納得いかない |
| □□□ | 417 船を漕ぐ | フネヲコグ | こっくりこっくり居眠りをする |
| □□□ | 418 篩にかける | フルイニカケル | 精選する・吟味して選ぶ |
| □□□ | 419 ふんだんに | フンダンニ | ありあまるほどたくさん |
| □□□ | 420 閉口 | ヘイコウ | 困り果てる・手におえない |
| □□□ | 421 辟易 | ヘキエキ | しりごみする・閉口する・うんざり |
| □□□ | 422 僻地 | ヘキチ | はずれ・遠方・辺境 |
| □□□ | 423 へそで茶を沸かす | ヘソデチャヲワカス | ひどくおかしくてたまらない／ばかばかしいこと |
| □□□ | 424 へそを曲げる | ヘソヲマゲル | 機嫌をそこねて、すねる |
| □□□ | 425 棒に振る | ボウニフル | 無駄にする |
| □□□ | 426 矛を収める | ホコヲオサメル | 争いを止める |
| □□□ | 427 蓬莱 | ホウライ | 仙人が住む神聖な山・霊峰 |
| □□□ | 428 臍をかむ | ホゾヲカム | 悔しい思いをする・後悔する |
| □□□ | 429 発心する | ホッシンスル | 出家する・仏教へ心を動かす |
| □□□ | 430 骨を埋める | ホネヲウメル | その土地で死ぬ・一つのことに生涯をささげる |
| □□□ | 431 翻案 | ホンアン | 古典や前作をアレンジする・換骨奪胎（かんこつだったい） |
| □□□ | 432 本意 | ホンイ | 本来の意図 |
| □□□ | 433 枚挙にいとまがない | マイキョニイトマガナイ | 数えられないほどたくさんある |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 434 まぎれもない | マギレモナイ | はっきりして間違いない |
| □□□ | 435 まことしやかに | マコトシヤカニ | いかにももっともらしく |
| □□□ | 436 まざまざと | マザマザト | ありありと・はっきりと |
| □□□ | 437 間尺に合わぬ | マシャクニアワヌ | 損になる・わりにあわない |
| □□□ | 438 まつわる | マツワル | 関連する |
| □□□ | 439 間々 | ママ | ときどき |
| □□□ | 440 眉に唾をつける | マユニツバヲツケル | だまされないように用心する |
| □□□ | 441 見限る | ミカギル | あきらめる |
| □□□ | 442 見かねる | ミカネル | 見ていられない |
| □□□ | 443 身が持たない | ミガモタナイ | 健康を保持できない |
| □□□ | 444 身から出た錆 | ミカラデタサビ | 自分から招いた災難 |
| □□□ | 445 見切りをつける | ミキリヲツケル | 見込みがないと判断する |
| □□□ | 446 みくびる | ミクビル | あなどる・見くだす |
| □□□ | 447 御輿を上げる | ミコシヲアゲル | 物事に取り掛かる |
| □□□ | 448 水に流す | ミズニナガス | 何事もなかったことにする |
| □□□ | 449 水物 | ミズモノ | 成功するかどうかあてにならないもの・予想の難しいもの |
| □□□ | 450 水を差す | ミズヲサス | 邪魔をする・水をかけるともいう |
| □□□ | 451 水を向ける | ミズヲムケル | 誘いをかける・話題をふる |
| □□□ | 452 味噌をつける | ミソヲツケル | 失敗する |
| □□□ | 453 みだりに | ミダリニ | 好き勝手に・無闇に・故なく |
| □□□ | 454 三日にあげず | ミッカニアゲズ | 間をおかず |
| □□□ | 455 身に余る | ミニアマル | 自分に十分すぎる、不相応である |
| □□□ | 456 身にしみる | ミニシミル | しみじみ感じる |
| □□□ | 457 身につまされる | ミニツマサレル | 人事でなく感じられる |
| □□□ | 458 身二つになる | ミフタツニナル | 出産する |
| □□□ | 459 耳をそろえる | ミミヲソロエル | 金額や数をきっかり整える |
| □□□ | 460 身も蓋もない | ミモフタモナイ | 露骨過ぎて風情がない |
| □□□ | 461 身も世もない | ミモヨモナイ | 余裕がない・取り乱したさま |
| □□□ | 462 脈がある | ミャクガアル | 見込みがある |
| □□□ | 463 見る影もない | ミルカゲモナイ | みすぼらしく惨めなさま |
| □□□ | 464 身を固める | ミヲカタメル | 定職に就く・結婚する |
| □□□ | 465 身を焦がす | ミヲコガス | 恋に身もだえる |
| □□□ | 466 身を粉にする | ミヲコニスル | 苦労を惜しまないで努力する |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 467 身をやつす | ミヲヤツス | みすぼらしい格好をする<br>やつれ、やせるほどなにかに熱中する |
| □□□ | 468 向こうに回す | ムコウニマワス | 対抗する |
| □□□ | 469 虫がいい | ムシガイイ | あつかましい・勝手 |
| □□□ | 470 虫が知らせる | ムシガシラセル | なんとなく予感がする |
| □□□ | 471 虫が好かない | ムシガスカナイ | なんとなく気にくわない |
| □□□ | 472 虫の知らせ | ムシノシラセ | なんとなく予感がする |
| □□□ | 473 虫も殺さぬ | ムシモコロサヌ | やさしくて温和 |
| □□□ | 474 無尽蔵 | ムジンゾウ | きりなくたくさんある |
| □□□ | 475 胸が騒ぐ | ムネガサワグ | 気持ちが落ち着かない |
| □□□ | 476 胸を焦がす | ムネヲコガス | 夢中になる・恋慕う |
| □□□ | 477 胸をなで下ろす | ムネヲナデオロス | 安心する |
| □□□ | 478 無用の長物 | ムヨウノチョウブツ | 役に立たない |
| □□□ | 479 名状しがたい | メイジョウシガタイ | なんとも表現しようのない |
| □□□ | 480 目が利く | メガキク | 物事を見分ける力がある |
| □□□ | 481 目頭が熱くなる | メガシラガアツクナル | 感動して涙をもよおす |
| □□□ | 482 目がない | メガナイ | 好きである |
| □□□ | 483 目から鼻に抜ける | メカラハナニヌケル | 非常に賢い |
| □□□ | 484 目くじらを立てる | メクジラヲタテル | ささいな欠点にとやかく言う |
| □□□ | 485 めどがたつ | メドガタツ | 見通しがはっきりする |
| □□□ | 486 目に余る | メニアマル | 見過ごせないほどひどい |
| □□□ | 487 目の上のたんこぶ | メノウエノタンコブ | 邪魔な存在 |
| □□□ | 488 目の黒いうち | メノクロイウチ | 生きている間 |
| □□□ | 489 目鼻がつく | メハナガツク | だいたいできあがる |
| □□□ | 490 目星がつく | メボシガツク | 見当がつく |
| □□□ | 491 目をかける | メヲカケル | 特別に面倒を見る |
| □□□ | 492 目を皿にする | メヲサラニスル | 探し物をするときの比喩 |
| □□□ | 493 目をつぶる | メヲツブル | 見逃してやる |
| □□□ | 494 目を細める | メヲホソメル | 大変嬉しそうな顔つき |
| □□□ | 495 毛頭ない | モウトウナイ | 少しもない |
| □□□ | 496 餅屋は餅屋 | モチヤハモチヤ | 何事も専門家にまかすのがよい |
| □□□ | 497 持って回る | モッテマワル | 遠回しに言う・婉曲にいう |
| □□□ | 498 もとより | モトヨリ | そもそも・はじめから |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 499 ものいり | モノイリ | 費用がかかる |
| □□□ | 500 ものおじ | モノオジ | びくびくする |
| □□□ | 501 もののふ | モノノフ | 武士 |
| □□□ | 502 物々しい | モノモノシイ | 大袈裟(おおげさ)な・いかめしい |
| □□□ | 503 ものわかれ | モノワカレ | 意見が合わない |
| □□□ | 504 焼きが回る | ヤキガマワル | おとろえ、にぶくなる |
| □□□ | 505 柳に風 | ヤナギニカゼ | うまく受け流す・あしらう |
| □□□ | 506 やにわに | ヤニワニ | 突然・急に・いきなり |
| □□□ | 507 薮から棒 | ヤブカラボウ | 唐突で思いがけない、寝耳に水 |
| □□□ | 508 山が見える | ヤマガミエル | 先の見通しがつく |
| □□□ | 509 やましい | ヤマシイ | うしろめたい |
| □□□ | 510 山を張る | ヤマヲハル | 幸運をあてにしてことを行う |
| □□□ | 511 槍玉にあげる | ヤリダマニアゲル | 選び出して攻撃、非難する |
| □□□ | 512 所以・ゆえん | ユエン | 理由・いわれ |
| □□□ | 513 ゆかり | ユカリ | えにし・関係 |
| □□□ | 514 ゆくりなく | ユクリナク | 突然に、不用意に、思いがけず |
| □□□ | 515 余韻 | ヨイン | 余情・あとまでのこる感覚 |
| □□□ | 516 要領を得ない | ヨウリョウヲエナイ | とらえどころがない |
| □□□ | 517 横車を押す | ヨコグルマヲオス | 無理を通す |
| □□□ | 518 横やりを入れる | ヨコヤリヲイレル | 第三者が干渉する |
| □□□ | 519 よすが | ヨスガ | ゆかり・たより・機縁・手がかり |
| □□□ | 520 よどみなく | ヨドミナク | つかえることなく |
| □□□ | 521 余念がない | ヨネンガナイ | ひとつのことにはげんでいる |
| □□□ | 522 よもすがら・終夜 | ヨモスガラ | 一晩中 |
| □□□ | 523 よもやま | ヨモヤマ | いろいろ・世間 |
| □□□ | 524 夜を日に継ぐ | ヨヲヒニツグ | 昼も夜も休まず続ける |
| □□□ | 525 烙印を押される | ラクインヲオサレル | 消せない汚名を着せられる |
| □□□ | 526 埒があかない | ラチガアカナイ | はかどらない・きまりがつかない |
| □□□ | 527 爛漫・らんまん | ランマン | 満ち溢れて盛ん |
| □□□ | 528 俚諺 | リゲン | 民間でいいならわされてきたことわざ |
| □□□ | 529 律義 | リチギ | まじめでいいかげんでない |
| □□□ | 530 理不尽 | リフジン | 道理や理屈にあわない |
| □□□ | 531 霊験あらたかな | レイケンアラタカナ | 神仏の力や利益がはっきり現れる |
| □□□ | 532 路頭に迷う | ロトウニマヨウ | 生活に困る |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ | 533 呂律が回らない | ロレツガマワラナイ | 言葉がはっきりしない |
| □□□ | 534 我が世の春 | ワガヨノハル | 最盛期・絶頂時期・旺盛な時期 |
| □□□ | 535 わずらわしい | ワズラワシイ | めんどうくさい |
| □□□ | 536 渡りに船 | ワタリニフネ | 都合のよいことが起こり、ことが進む |
| □□□ | 537 渡りをつける | ワタリヲツケル | 関係をつける・交渉をする |
| □□□ | 538 割を食う | ワリヲクウ | 損をこうむる |

# 付録・四字熟語集

## 四字熟語の銀河系

| チェック | | 四字熟語 | 読み方 | 意味 |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 1 | 愛別離苦 | アイベツリク | 愛する者と別れる苦しみ |
| □□□ | 2 | 曖昧模糊 | アイマイモコ | ぼんやりしてはっきりしない |
| □□□ | 3 | 青息吐息 | アオイキトイキ | 悩み苦しみ、ため息をつく |
| □□□ | 4 | 悪事千里 | アクジセンリ | 悪い行いや評判はたちまち遠くまで広がる |
| □□□ | 5 | 悪戦苦闘 | アクセンクトウ | 不利な状況下で必死に努力する |
| □□□ | 6 | 悪口雑言 | アッコウゾウゴン | 悪口を言う |
| □□□ | 7 | 阿鼻叫喚 | アビキョウカン | 地獄のような状況でわめきさけぶ |
| □□□ | 8 | 安心立命 | アンシンリツメイ<br>アンジンリュウミョウ | こころ安らかで何事にも動揺しない |
| □□□ | 9 | 暗中模索 | アンチュウモサク | 手探りして、探し求める |
| □□□ | 10 | 安寧秩序 | アンネイチツジョ | 公共の安全と秩序がしっかり守られている |
| □□□ | 11 | 唯々諾々 | イイダクダク | 相手の言いなりになって従う |
| □□□ | 12 | 意気軒昂 | イキケンコウ | 元気で意気込み盛ん・意気揚々(イキヨウヨウ)とほぼ同義 |
| □□□ | 13 | 意気消沈 | イキショウチン | 元気がなくなる・意気阻喪(イキソソウ)とほぼ同義 |
| □□□ | 14 | 意気投合 | イキトウゴウ | 気持ちや考え方が合う・肝胆相照(カンタンソウショウ)とほぼ同義 |
| □□□ | 15 | 異口同音 | イクドウオン | 多くの人が口をそろえて同じことを言う |
| □□□ | 16 | 異国情緒 | イコクジョウチョ<br>イコクジョウショ | 外国風なおもむき・エキゾチック |
| □□□ | 17 | 意志薄弱 | イシハクジャク | 忍耐がなく、何かをやりとげる気持ちが弱い人 |
| □□□ | 18 | 石部金吉 | イシベキンキチ | まじめでかたぶつ、融通が利かない人 |
| □□□ | 19 | 以心伝心 | イシンデンシン | ことばを使わずに心が通じ合う |
| □□□ | 20 | 一意専心 | イチイセンシン | 一つのことに打ち込み、集中する・一心不乱(イッシンフラン)とほぼ同義 |
| □□□ | 21 | 一衣帯水 | イチイタイスイ | 川や海で隔てられているが、非常に近い関係 |
| □□□ | 22 | 一言居士 | イチゲンコジ | 何かひとこと意見を言わないと気が済まない人 |
| □□□ | 23 | 一期一会 | イチゴイチエ | 一生に一度限りの出会い、機会 |
| □□□ | 24 | 一言半句 | イチゴンハンク | ほんのわずかなことば |
| □□□ | 25 | 一日千秋 | イチジツセンシュウ | ひどく待ち遠しい |
| □□□ | 26 | 一汁一菜 | イチジュウイッサイ | つましい食事 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 27 | 一念発起 | イチネンホッキ | やる気になる・決心する |
| □□□ | 28 | 一罰百戒 | イチバツヒャッカイ | 一人を重く罰することで大勢への警告、戒めとする |
| □□□ | 29 | 一望千里 | イチボウセンリ | 広々としている |
| □□□ | 30 | 一木一草 | イチボクイッソウ | とてもわずかなもののたとえ・転じて、すべてのもの |
| □□□ | 31 | 一網打尽 | イチモウダジン | 一度にことごとく捕らえる |
| □□□ | 32 | 一目瞭然 | イチモクリョウゼン | 一目見てはっきりとわかる |
| □□□ | 33 | 一蓮托生 | イチレンタクショウ | 運命を共にする・死なばもろともと同義 |
| □□□ | 34 | 一攫千金 | イッカクセンキン | 賭けなどでいっきに大きな利益を得る |
| □□□ | 35 | 一喜一憂 | イッキイチユウ | 状況が変わるたび、喜んだり悲しんだりする |
| □□□ | 36 | 一気呵成 | イッキカセイ | 一息に仕事をかたづける |
| □□□ | 37 | 一騎当千 | イッキトウセン | 一人で多くの敵を相手できるほど力がある |
| □□□ | 38 | 一挙一動 | イッキョイチドウ | ちょっとした動作の一つ一つ |
| □□□ | 39 | 一挙両得 | イッキョリョウトク | 一度に二つの利益を得る・一石二鳥（イッセキニチョウ）と同義 |
| □□□ | 40 | 一刻千金 | イッコクセンキン | わずかな時間が貴重だということ |
| □□□ | 41 | 一切合切 | イッサイガッサイ | すべて残らず・何もかも |
| □□□ | 42 | 一子相伝 | イッシソウデン | 学芸、技芸の極意や秘伝を、我が子一人だけに伝える |
| □□□ | 43 | 一視同仁 | イッシドウジン | すべての人を平等に愛する |
| □□□ | 44 | 一瀉千里 | イッシャセンリ | すみやかにはかどる・ことばがすらすら出る |
| □□□ | 45 | 一触即発 | イッショクソクハツ | ちょっと触れればたちまち爆発する |
| □□□ | 46 | 一進一退 | イッシンイッタイ | 進んだり後戻りしたりする |
| □□□ | 47 | 一心同体 | イッシンドウタイ | 心を一つにする |
| □□□ | 48 | 一心不乱 | イッシンフラン | 一つのことに集中・一意専心（イチイセンシン）とほぼ同義 |
| □□□ | 49 | 一世一代 | イッセイチダイ | 一生に一度の晴れがましいこと |
| □□□ | 50 | 一世風靡 | イッセイフウビ | ある一時代の人々をしたがわせ、 ひきつける・転じて、名前が知れわたること |
| □□□ | 51 | 一石二鳥 | イッセキニチョウ | 一挙両得（イッキョリョウトク）と同義 |
| □□□ | 52 | 一知半解 | イッチハンカイ | なまはんかの理解 |
| □□□ | 53 | 一朝一夕 | イッチョウイッセキ | わずかな時間、日数 |
| □□□ | 54 | 一長一短 | イッチョウイッタン | よい面も悪い面もある |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 55 | 一刀両断 | イットウリョウダン | 物事をすぱっと決断、処理する |
| □□□ | 56 | 衣鉢相伝 | イハツソウデン | 師匠から弟子に奥義を伝える |
| □□□ | 57 | 威風堂々 | イフウドウドウ | 威厳あふれる |
| □□□ | 58 | 意味深長 | イミシンチョウ | 表面的以外に、もっと深い意味がある |
| □□□ | 59 | 因果応報 | インガオウホウ | 過去の行いに応じて報いがある |
| □□□ | 60 | 慇懃無礼 | インギンブレイ | 丁寧すぎてかえって無礼を感じる |
| □□□ | 61 | 有為転変 | ウイテンペン | 浮き沈み、変化し転々とする |
| □□□ | 62 | 右往左往 | ウオウサオウ | あわてふためく |
| □□□ | 63 | 烏合之衆 | ウゴウノシュウ | 規律や統制のない集団 |
| □□□ | 64 | 右顧左眄 | ウコサベン | 周りを気にして決断に迷う |
| □□□ | 65 | 有象無象 | ウゾウムゾウ | 有形無形のもの、あるいは役立たずの大勢の人 |
| □□□ | 66 | 海千山千 | ウミセンヤマセン | 経験を積み、世の中の裏まで知っている |
| □□□ | 67 | 紆余曲折 | ウヨキョクセツ | 物事がまっすぐ進まず、曲がりくねる |
| □□□ | 68 | 雲散霧消 | ウンサンムショウ | ちりぢりに消えてしまう |
| □□□ | 69 | 栄枯盛衰 | エイコセイスイ | 栄えることと衰えること |
| □□□ | 70 | 栄耀栄華 | エイヨウエイガ | 欲しいままに権力や財力を得る・繁栄の極み |
| □□□ | 71 | 得手勝手 | エテカッテ | 自分勝手・手前勝手 |
| □□□ | 72 | 遠交近攻 | エンコウキンコウ | 遠国と同盟し近隣国を攻撃する |
| □□□ | 73 | 横行闊歩 | オウコウカッポ | 大いばりで歩く・勝手気ままに振る舞う |
| □□□ | 74 | 傍目八目 | オカメハチモク | 第三者の方が状況を正しく判断できる・岡目八目とも書く |
| □□□ | 75 | 温厚篤実 | オンコウトクジツ | おだやかで人情厚く誠実 |
| □□□ | 76 | 温故知新 | オンコチシン | 伝統から新しい価値を見出す |
| □□□ | 77 | 外交辞令 | ガイコウジレイ | 外交上、社交上の儀礼的な対応やことば |
| □□□ | 78 | 鎧袖一触 | ガイシュウイッショク | 簡単に敵を打ち破る |
| □□□ | 79 | 外柔内剛 | ガイジュウナイゴウ | 外面は柔和だが、内面は意志が強い |
| □□□ | 80 | 快刀乱麻 | カイトウランマ | もつれた物事をあざやかに処理する<br>例 快刀乱麻を断つ |
| □□□ | 81 | 偕老同穴 | カイロウドウケツ | 共に老い、死んで同じ墓に葬られる・夫婦仲のいいこと |
| □□□ | 82 | 呵呵大笑 | カカタイショウ | ハッハと大笑いする |
| □□□ | 83 | 格物致知 | カクブツチチ | 学問、知識を最高度に修得する |
| □□□ | 84 | 臥薪嘗胆 | ガシンショウタン | 将来の成功のために苦労し努力する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 85 | 佳人薄命 | カジンハクメイ | 美人はとかく病弱で早死にする・美人薄命（ビジンハクメイ）と同義 |
| □□□ | 86 | 花鳥風月 | カチョウフウゲツ | 自然の美しい風物 |
| □□□ | 87 | 隔靴掻痒 | カッカソウヨウ | もどかしい・じれったい |
| □□□ | 88 | 合従連衡 | ガッショウレンコウ | あちこちと連携し手を結ぶ |
| □□□ | 89 | 我田引水 | ガデンインスイ | 自分に都合のよい理屈を付け、有利になるように行動する |
| □□□ | 90 | 画竜点睛 | ガリョウテンセイ | 物事の最後の仕上げ |
| □□□ | 91 | 苛斂誅求 | カレンチュウキュウ | 租税のむごい徴収 |
| □□□ | 92 | 夏炉冬扇 | カロトウセン | 季節外れ・無用のもの・松尾芭蕉（まつおばしょう）の理想 |
| □□□ | 93 | 感慨無量 | カンガイムリョウ | ことばにできないほどの感動・感無量とも言う |
| □□□ | 94 | 侃侃諤諤 | カンカンガクガク | 自分の意見を遠慮なく主張する |
| □□□ | 95 | 頑固一徹 | ガンコイッテツ | 自分の意見や態度を決して曲げない |
| □□□ | 96 | 眼光紙背 | ガンコウシハイ | 読解力が鋭くて深く見抜くこと<br>例 眼光紙背に徹す |
| □□□ | 97 | 換骨奪胎 | カンコツダッタイ | 古いものに新しい工夫をして独自につくる |
| □□□ | 98 | 勧善懲悪 | カンゼンチョウアク | よいことをすすめ、悪をこらしめる |
| □□□ | 99 | 完全無欠 | カンゼンムケツ | 欠点がなく完璧である |
| □□□ | 100 | 肝胆相照 | カンタンソウショウ<br>カンタンアイテラス | 心の奥底で通じ合う・意気投合（イキトウゴウ）と同義 |
| □□□ | 101 | 玩物喪志 | ガンブツソウシ | 非実用的な珍奇なものに夢中でいると、大事な志を失う |
| □□□ | 102 | 頑迷固陋 | ガンメイコロウ | 頑固で道理がわからず、古臭い |
| □□□ | 103 | 閑話休題 | カンワキュウダイ | 話題を変えるときに使う・ところで |
| □□□ | 104 | 気宇壮大 | キウソウダイ | 発想のスケールが並外れて大きい |
| □□□ | 105 | 機会均等 | キカイキントウ | 平等にチャンスを与える |
| □□□ | 106 | 危機一髪 | キキイッパツ | わずかの差で助かる・間一髪（カンイッパツ）と同義 |
| □□□ | 107 | 奇々怪々 | キキカイカイ | 非常に怪しい |
| □□□ | 108 | 危急存亡 | キキュウソンボウ | 生死の瀬戸際 |
| □□□ | 109 | 起死回生 | キシカイセイ | 危機や滅亡から立ち直る・よみがえる |
| □□□ | 110 | 喜色満面 | キショクマンメン | 顔中よろこびであふれる |
| □□□ | 111 | 疑心暗鬼 | ギシンアンキ | 疑いの心があると何でも疑わしく心配になる |
| □□□ | 112 | 奇想天外 | キソウテンガイ | 思いもよらない |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 113 | 機知機略 | キチキリャク | その場に応じて知恵を働かせ適切な手段をうつ |
| □□□ | 114 | 吉凶禍福 | キッキョウカフク | 幸福と災難 |
| □□□ | 115 | 牛飲馬食 | ギュウインバショク | 非常に多く飲んだり食ったりする・鯨飲馬食（ゲイインバショク）と同義 |
| □□□ | 116 | 九牛一毛 | キュウギュウノイチモウ | 多数の中のごく少ない部分・取るに足らない小さなこと |
| □□□ | 117 | 九死一生 | キュウシイッショウ | かろうじて生き残る・九死に一生を得るの略 |
| □□□ | 118 | 旧態依然 | キュウタイイゼン | 古くからの状態そのまま |
| □□□ | 119 | 急転直下 | キュウテンチョッカ | 事態が急激に変わる |
| □□□ | 120 | 狂喜乱舞 | キョウキランブ | 非常に喜んで踊りまわる |
| □□□ | 121 | 行住坐臥 | ギョウジュウザガ | 歩き、止まり、座り、寝ること、つまり日常の振る舞い |
| □□□ | 122 | 驚天動地 | キョウテンドウチ | 世間を揺さぶる、驚かす |
| □□□ | 123 | 器用貧乏 | キヨウビンボウ | あれこれできる人は結局大成しない |
| □□□ | 124 | 興味津々 | キョウミシンシン | 興味が尽きない |
| □□□ | 125 | 虚々実々 | キョキョジツジツ | 策略をめぐらして戦い合う |
| □□□ | 126 | 曲学阿世 | キョクガクアセイ | 真理を曲げて世間や権力者に気に入られる学説を唱える |
| □□□ | 127 | 玉石混交 | ギョクセキコンコウ | 良いものと悪いものが混じっている |
| □□□ | 128 | 虚心坦懐 | キョシンタンカイ | 素直で平静な心 |
| □□□ | 129 | 漁夫之利 | ギョフノリ | 第三者が利益を横取りする |
| □□□ | 130 | 毀誉褒貶 | キヨホウヘン | ほめたりけなしたりする |
| □□□ | 131 | 金科玉条 | キンカギョクジョウ | 何よりも優先尊重すべききまりや信条 |
| □□□ | 132 | 欣喜雀躍 | キンキジャクヤク | よろこび、躍り上がる |
| □□□ | 133 | 謹厳実直 | キンゲンジッチョク | まじめで慎み深く、正直である |
| □□□ | 134 | 空々漠々 | クウクウバクバク | 何もなく、ただ広々と果てしない |
| □□□ | 135 | 空前絶後 | クウゼンゼツゴ | 過去にも未来にも比べるものがない・珍しい |
| □□□ | 136 | 空中楼閣 | クウチュウロウカク | 現実性や根拠のない物事・砂上楼閣（サジョウノロウカク）もほぼ同義 |
| □□□ | 137 | 空理空論 | クウリクウロン | 現実には役に立たない理屈や理論 |
| □□□ | 138 | 君子豹変 | クンシヒョウヘン | 態度や意見がガラリと変わること。本来はよい変化だが、悪い変化の意味でも使われる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 139 | 群雄割拠 | グンユウカッキョ | 各地に英雄が現れ、勢力を競う |
| □□□ | 140 | 軽挙妄動 | ケイキョモウドウ | 無分別で軽はずみな行動 |
| □□□ | 141 | 鶏口牛後 | ケイコウギュウゴ | 大組織の一員であるよりも小組織の長であるほうがいい |
| □□□ | 142 | 経世済民 | ケイセイサイミン | 世を治め民を救う・経済のもとになったことば |
| □□□ | 143 | 蛍雪之功 | ケイセツノコウ | 苦労して勉学した成果 |
| □□□ | 144 | 軽佻浮薄 | ケイチョウフハク | 軽々しくあさはか |
| □□□ | 145 | 軽薄短小 | ケイハクタンショウ | 小さくて軽い・重厚長大（ジュウコウチョウダイ）の反対 |
| □□□ | 146 | 月下氷人 | ゲッカヒョウジン | 媒酌人・仲人（なこうど） |
| □□□ | 147 | 牽強付会 | ケンキョウフカイ | 強引なこじつけ |
| □□□ | 148 | 喧々囂々 | ケンケンゴウゴウ | 多くの人が口やかましく騒ぐ |
| □□□ | 149 | 言行一致 | ゲンコウイッチ | 言うことと行動とが一致している |
| □□□ | 150 | 乾坤一擲 | ケンコンイッテキ | 運命をかけた一発勝負に挑む |
| □□□ | 151 | 捲土重来 | ケンドチョウライ<br>ケンドジュウライ | 負けた者が再び勢いを盛り返す |
| □□□ | 152 | 権謀術数 | ケンボウジュッスウ | 人をあざむき、だます・策略・策謀 |
| □□□ | 153 | 行雲流水 | コウウンリュウスイ | 物事に執着せず、自然にまかせるという悠然とした心境や行動 |
| □□□ | 154 | 豪華絢爛 | ゴウカケンラン | ぜいたくで派手、きらびやかで美しい |
| □□□ | 155 | 厚顔無恥 | コウガンムチ | あつかましくて恥知らず |
| □□□ | 156 | 綱紀粛正 | コウキシュクセイ | 組織の規律を引き締める |
| □□□ | 157 | 巧言令色 | コウゲンレイショク | ことば巧みで愛想がいい |
| □□□ | 158 | 公序良俗 | コウジョリョウゾク | 世間が守るべき公共秩序、善良風俗 |
| □□□ | 159 | 広大無辺 | コウダイムヘン | 果てしなく広い |
| □□□ | 160 | 口頭試問 | コウトウシモン | 面接試験 |
| □□□ | 161 | 荒唐無稽 | コウトウムケイ | とりとめなく、でたらめ |
| □□□ | 162 | 公平無私 | コウヘイムシ | えこひいきなし |
| □□□ | 163 | 公明正大 | コウメイセイダイ | 正しく、後ろめたいことがない |
| □□□ | 164 | 呉越同舟 | ゴエツドウシュウ | 仲の悪い者同士が一緒にいる・転じて、難しい問題に対して協力し合うこと |
| □□□ | 165 | 狐疑逡巡 | コギシュンジュン | 疑いためらってぐずぐずする |
| □□□ | 166 | 国士無双 | コクシムソウ | 一国に二人といない優れた人物 |
| □□□ | 167 | 孤軍奮闘 | コグンフントウ | 応援なしに一人で頑張る |
| □□□ | 168 | 古今東西 | ココントウザイ | いつでもどこでも |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 169 | 古今無双 | ココンムソウ | 昔から今まで並ぶものがいない |
| □□□ | 170 | 虎視眈々 | コシタンタン | するどい眼差しで何かを狙う |
| □□□ | 171 | 五十歩百歩 | ゴジッポヒャッポ | 似たり寄ったりで大差がない |
| □□□ | 172 | 後生大事 | ゴショウダイジ | 物事を大事に保持し続ける |
| □□□ | 173 | 古色蒼然 | コショクソウゼン | いかにも古びているさま |
| □□□ | 174 | 故事来歴 | コジライレキ | 物事のいわれや由来 |
| □□□ | 175 | 誇大妄想 | コダイモウソウ | おおげさに考えてそれを信じ込む |
| □□□ | 176 | 刻苦勉励 | コックベンレイ | 苦労しながらひたすら勉学や仕事に打ち込む |
| □□□ | 177 | 滑稽洒脱 | コッケイシャダツ | 機知に富み、あか抜けしてさっぱりしている |
| □□□ | 178 | 鼓腹撃壌 | コフクゲキジョウ | 満ち足りて地面を打ち、腹をたたく・転じて、政治が行き届き、人民が平和に暮らすさま |
| □□□ | 179 | 孤立無援 | コリツムエン | ひとりぼっちで助けがない・四面楚歌（シメンソカ）とほぼ同義 |
| □□□ | 180 | 五里霧中 | ゴリムチュウ | どうしてよいか見当がつかず、困惑する |
| □□□ | 181 | 言語道断 | ゴンゴドウダン | もってのほか・とんでもない |
| □□□ | 182 | 渾然一体 | コンゼンイッタイ | 異質なものが溶け合って区別がつかない |
| □□□ | 183 | 才気煥発 | サイキカンパツ | 目から鼻に抜ける・かしこさを発揮する |
| □□□ | 184 | 最後通牒 | サイゴツウチョウ | 話し合いを打ち切り、最後の要求を突き付ける |
| □□□ | 185 | 再三再四 | サイサンサイシ | たびたび・何度も |
| □□□ | 186 | 才色兼備 | サイショクケンビ | 優れた才能と美しい容貌を兼ね備える |
| □□□ | 187 | 三寒四温 | サンカンシオン | 三日間寒さが続いたあと、四日間は暖かい日が続き、これが繰り返されるという東アジアの気候 |
| □□□ | 188 | 三々五々 | サンサンゴゴ | あちこちにそれぞれ散らばる |
| □□□ | 189 | 山紫水明 | サンシスイメイ | 自然の美しい様子 |
| □□□ | 190 | 山川草木 | サンセンソウモク | 草木など、自然 |
| □□□ | 191 | 三位一体 | サンミイッタイ | 三つのものが結びつき、まるで一つのもののようになっている |
| □□□ | 192 | 四海兄弟 | シカイケイテイ | 世の中の人間はみなすべて兄弟のように仲良くするべきだ |
| □□□ | 193 | 自画自賛 | ジガジサン | 自分で自分をほめる・手前味噌（テマエミソ）と同義 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 194 | 自家撞着 | ジカドウチャク | つじつまが合わない・自己矛盾（ジコムジュン）と同義 |
| □□□ | 195 | 時期尚早 | ジキショウソウ | まだ機が熟していない |
| □□□ | 196 | 自給自足 | ジキュウジソク | 必要なものは自分で作り出す |
| □□□ | 197 | 四苦八苦 | シクハック | 思うようにいかず苦しむ |
| □□□ | 198 | 試行錯誤 | シコウサクゴ | さまざまな方法を試み、失敗しながら目標に近づく |
| □□□ | 199 | 自業自得 | ジゴウジトク | 自分の悪行が自分に降りかかる |
| □□□ | 200 | 事実無根 | ジジツムコン | 根も葉もない・根拠がない |
| □□□ | 201 | 獅子奮迅 | シシフンジン | すさまじい勢いで奮闘する |
| □□□ | 202 | 自縄自縛 | ジジョウジバク | 自分の言動で自分の身動きがとれなくなる |
| □□□ | 203 | 自然淘汰 | シゼントウタ | 自然の環境に適したものが生存し、不適なものが滅びる |
| □□□ | 204 | 時代錯誤 | ジダイサクゴ | 時代感覚がずれている・時代遅れ |
| □□□ | 205 | 七転八倒 | シチテンバットウ | 苦しみ、もだえる |
| □□□ | 206 | 質疑応答 | シツギオウトウ | 質問とそれに対する回答 |
| □□□ | 207 | 質実剛健 | シツジツゴウケン | 飾らずまじめで、心身丈夫 |
| □□□ | 208 | 叱咤激励 | シッタゲキレイ | 大声で叱り飛ばし、気持ちを奮い立たせる |
| □□□ | 209 | 疾風怒濤 | シップウドトウ | 強い風と荒れ狂う大波 |
| □□□ | 210 | 四分五裂 | シブンゴレツ<br>シブゴレツ | 統一が失われ、バラバラに散開する |
| □□□ | 211 | 自暴自棄 | ジボウジキ | 捨て鉢・やけっぱち |
| □□□ | 212 | 四面楚歌 | シメンソカ | 周りはすべて敵・孤立無援（コリツムエン）と同義 |
| □□□ | 213 | 杓子定規 | シャクシジョウギ | 決まりきった基準を無理にあてはめる |
| □□□ | 214 | 弱肉強食 | ジャクニクキョウショク | 弱いものが強いものに食われてしまう・優勝劣敗（ユウショウレッパイ）と同義 |
| □□□ | 215 | 縦横無尽 | ジュウオウムジン | 思う存分に行う・自由自在（ジユウジザイ）と同義 |
| □□□ | 216 | 自由闊達 | ジユウカッタツ | 縛られず、思いのままにのびのびする・自由奔放（ジユウホンポウ）とほぼ同義 |
| □□□ | 217 | 終始一貫 | シュウシイッカン | 始めから終わりまで変わらない・首尾一貫（シュビイッカン）と同義 |
| □□□ | 218 | 周章狼狽 | シュウショウロウバイ | あわてふためく |
| □□□ | 219 | 衆人環視 | シュウジンカンシ | 大勢の人が取り囲んで見る |
| □□□ | 220 | 秋霜烈日 | シュウソウレツジツ | 厳しい刑罰や権威 |
| □□□ | 221 | 十人十色 | ジュウニントイロ | 人それぞれ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 222 | 主客転倒 | シュキャクテントウ<br>シュカクテントウ | 大事なこととそうでないことを取り違える・本末転倒（ホンマツテントウ）と同義 |
| □□□ | 223 | 熟慮断行 | ジュクリョダンコウ | よく考えてから思い切って行動する |
| □□□ | 224 | 取捨選択 | シュシャセンタク | 選び取る |
| □□□ | 225 | 種々雑多 | シュジュザッタ | いろいろなものが雑然と入り交じっている |
| □□□ | 226 | 酒池肉林 | シュチニクリン | ぜいたくを極めた宴会 |
| □□□ | 227 | 純真無垢 | ジュンシンムク | 心にけがれがなく、清らか |
| □□□ | 228 | 順風満帆 | ジュンプウマンパン | 物事がスムーズにはかどる |
| □□□ | 229 | 上意下達 | ジョウイカタツ | 上位者の命令が下位の者に届く |
| □□□ | 230 | 笑止千万 | ショウシセンバン | おろかしくて笑うべきこと |
| □□□ | 231 | 盛者必衰 | ジョウシャヒッスイ<br>ショウジャヒッスイ | 勢い盛んな者もいつかは衰える |
| □□□ | 232 | 小人閑居 | ショウジンカンキョ | 小人物は暇でいると、ついよくないことをする・小人間居とも書く |
| □□□ | 233 | 正真正銘 | ショウシンショウメイ | うそ偽りなく本物 |
| □□□ | 234 | 小心翼翼 | ショウシンヨクヨク | 気が小さくびくびくしている |
| □□□ | 235 | 焦眉之急 | ショウビノキュウ | 事態が切迫している |
| □□□ | 236 | 枝葉末節 | シヨウマッセツ | 重要でないことがら |
| □□□ | 237 | 諸行無常 | ショギョウムジョウ | この世のあらゆるものは絶えず変化しとどまらない |
| □□□ | 238 | 初志貫徹 | ショシカンテツ | 最初の信念をつらぬく |
| □□□ | 239 | 諸説紛々 | ショセツフンプン | さまざまな見解や学説が飛び交い、入り乱れている |
| □□□ | 240 | 自力更生 | ジリキコウセイ | 自分の力で誤りを認め、立ち直ること |
| □□□ | 241 | 支離滅裂 | シリメツレツ | まとまりなく、めちゃくちゃ |
| □□□ | 242 | 思慮分別 | シリョフンベツ | 注意深く考えをめぐらす |
| □□□ | 243 | 心機一転 | シンキイッテン | 何かをきっかけに気持ちを切り替える |
| □□□ | 244 | 人口膾炙 | ジンコウカイシャ | 広く世間の話題にのぼる |
| □□□ | 245 | 深山幽谷 | シンザンユウコク | 奥深い山や谷 |
| □□□ | 246 | 真実一路 | シンジツイチロ | うそ偽りのない道をまっしぐら |
| □□□ | 247 | 神社仏閣 | ジンジャブッカク | 神社とお寺 |
| □□□ | 248 | 神出鬼没 | シンシュツキボツ | 突然現れたり消えたりする |
| □□□ | 249 | 信賞必罰 | シンショウヒツバツ | ほめる、罰するを厳格にする |
| □□□ | 250 | 針小棒大 | シンショウボウダイ | おおげさに言う |
| □□□ | 251 | 新進気鋭 | シンシンキエイ | 新分野に進み、意気込みが盛ん |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 252 | 人生行路 | ジンセイコウロ | 人生という道・人の一生 |
| □□□ | 253 | 人跡未踏 | ジンセキミトウ | 今まで誰も踏み込んだことがない |
| □□□ | 254 | 新陳代謝 | シンチンタイシャ | 新しい必要物が摂取され、不要物が排泄される・新旧交替（シンキュウコウタイ）と同義 |
| □□□ | 255 | 深謀遠慮 | シンボウエンリョ | よくよく考えて計画する |
| □□□ | 256 | 人面獣心 | ジンメンジュウシン | 冷酷非情で恩義をわきまえぬ人間 |
| □□□ | 257 | 森羅万象 | シンラバンショウ | この世のありとあらゆること・宇宙・自然 |
| □□□ | 258 | 酔生夢死 | スイセイムシ<br>スイセイボウシ | 何のなすところもなく一生を過ごす・無為（ムイ）徒食（トショク）とほぼ同義 |
| □□□ | 259 | 晴耕雨読 | セイコウウドク | 晴れたら仕事し、雨なら読書するというのんびりした生活 |
| □□□ | 260 | 生殺与奪 | セイサツヨダツ | 生かすも殺すも思うまま |
| □□□ | 261 | 生々流転 | セイセイルテン<br>ショウジョウルテン | 万物が次々生じ、移り変わる |
| □□□ | 262 | 贅沢三昧 | ゼイタクザンマイ | 心のおもむくままに贅沢し放題 |
| □□□ | 263 | 青天白日 | セイテンハクジツ | うしろめたいことがない・潔白 |
| □□□ | 264 | 正当防衛 | セイトウボウエイ | 不正な暴力に対し自衛のため攻撃 |
| □□□ | 265 | 清廉潔白 | セイレンケッパク | 清く正しく私欲がなく、不正を働くことがない |
| □□□ | 266 | 是々非々 | ゼゼヒヒ | よいことはよい、悪いことは悪いと公正に判断する |
| □□□ | 267 | 切磋琢磨 | セッサタクマ | 互いに励まし合い、高め合う |
| □□□ | 268 | 切歯扼腕 | セッシヤクワン | ひどく口惜しがる |
| □□□ | 269 | 絶体絶命 | ゼッタイゼツメイ | どうにも逃れられない困難な立場 |
| □□□ | 270 | 専横跋扈 | センオウバッコ | 他を無視して欲しいままに振る舞うこと |
| □□□ | 271 | 浅学非才 | センガクヒサイ | 学識才能が浅く未熟・浅学菲才とも書く |
| □□□ | 272 | 善後処置 | ゼンゴショチ | 後始末をよくする・善後策（ゼンゴサク）と同義 |
| □□□ | 273 | 前後不覚 | ゼンゴフカク | あとさきもわからないほど正体をなくす |
| □□□ | 274 | 千載一遇 | センザイイチグウ | めったにない好機 |
| □□□ | 275 | 千差万別 | センサバンベツ | 種々さまざまな違いがある |
| □□□ | 276 | 全身全霊 | ゼンシンゼンレイ | 身も心も全部 |
| □□□ | 277 | 前人未踏 | ゼンジンミトウ | 今まで誰も成し遂げたことがない・前人未到とも書く |
| □□□ | 278 | 戦々兢々 | センセンキョウキョウ | 恐れおののく・戦々恐々とも書く |
| □□□ | 279 | 前代未聞 | ゼンダイミモン | 今まで聞いたことがないほど珍しい |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 280 | 前途洋々 | ゼントヨウヨウ | 未来が明るく希望に満ちている |
| □□□ | 281 | 千篇一律 | センペンイチリツ | すべて似たようなもので変化がない |
| □□□ | 282 | 千変万化 | センペンバンカ | さまざまに変化する |
| □□□ | 283 | 善隣友好 | ゼンリンユウコウ | 隣国や隣家と仲良くしていく |
| □□□ | 284 | 粗衣粗食 | ソイソショク | 粗末な食事、粗末な服・簡素でつつましい生活 |
| □□□ | 285 | 創意工夫 | ソウイクフウ | 新しく考え出し工夫する |
| □□□ | 286 | 相互扶助 | ソウゴフジョ | 互いに助け合う |
| □□□ | 287 | 漱石枕流 | ソウセキチンリュウ | 失敗を認めぬ強情さ |
| □□□ | 288 | 則天去私 | ソクテンキョシ | 自然の摂理に従い私心を捨て去る・夏目漱(なつめそう)石(せき)の理想 |
| □□□ | 289 | 尊王攘夷 | ソンノウジョウイ | 王室を尊んで、異民族を打ち払うこと |
| □□□ | 290 | 大願成就 | タイガンジョウジュ<br>ダイガンジョウジュ | 大きな願い事がかなう |
| □□□ | 291 | 大器晩成 | タイキバンセイ | 大人物ほど頭角を現すのが遅い |
| □□□ | 292 | 大義名分 | タイギメイブン | 行動の根拠や理由 |
| □□□ | 293 | 大言壮語 | タイゲンソウゴ | 大口をたたく・力量以上のことを言う |
| □□□ | 294 | 大山鳴動 | タイザンメイドウ | 大騒ぎだが結果はたいしたことがない・大山鳴動してねずみ一匹の略 |
| □□□ | 295 | 大所高所 | タイショコウショ | 細かいことにとらわれず、広く高い視野から物事をみる |
| □□□ | 296 | 泰然自若 | タイゼンジジャク | 落ち着いて周りに惑わされない |
| □□□ | 297 | 大胆不敵 | ダイタンフテキ | 度胸があっておじけない |
| □□□ | 298 | 大同小異 | ダイドウショウイ | ほとんど同じ |
| □□□ | 299 | 大同団結 | ダイドウダンケツ | 共通の目的のために、小異を捨てて団結すること |
| □□□ | 300 | 多岐亡羊 | タキボウヨウ | 方針が多すぎてどれを選んだらよいか迷う |
| □□□ | 301 | 多士済々 | タシセイセイ | 立派な人物が大勢いる |
| □□□ | 302 | 多情多恨 | タジョウタコン | 感じやすく、それだけに恨みに思ったり悔やんだりしやすい |
| □□□ | 303 | 多情仏心 | タジョウブッシン | 感じやすく移り気だが、薄情なことはできない |
| □□□ | 304 | 単刀直入 | タントウチョクニュウ | 前置きなしに直接本題にふれる |
| □□□ | 305 | 談論風発 | ダンロンフウハツ | 盛んに話し合い、論じ合う |
| □□□ | 306 | 遅疑逡巡 | チギシュンジュン | どうしようかとぐずぐずためらう |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 307 | 知行合一 | チコウゴウイツ | 真の知識は実践が伴う・言行一致（ゲンコウイッチ）とほぼ同義 |
| □□□ | 308 | 魑魅魍魎 | チミモウリョウ | 妖怪変化・化け物 |
| □□□ | 309 | 忠君愛国 | チュウクンアイコク | 主君に忠義を尽くし、国を愛する |
| □□□ | 310 | 躊躇逡巡 | チュウチョシュンジュン | ためらい、尻込みする |
| □□□ | 311 | 朝三暮四 | チョウサンボシ | 全体的には同じなのに目先の損得にとらわれる・言葉たくみに人をだます |
| □□□ | 312 | 丁々発止 | チョウチョウハッシ | 刀で打ち合う・激しい言い争い・打々発止とも書く |
| □□□ | 313 | 跳梁跋扈 | チョウリョウバッコ | 好ましくないものが思うままにのさばる |
| □□□ | 314 | 朝令暮改 | チョウレイボカイ | 一貫性がない・ころころ変わる |
| □□□ | 315 | 直情径行 | チョクジョウケイコウ | 思ったことをそのまま実行 |
| □□□ | 316 | 猪突猛進 | チョトツモウシン | 向こう見ずにまっしぐらに突き進む |
| □□□ | 317 | 沈魚落雁 | チンギョラクガン | 魚が沈み、鳥が落ちるほどの絶世の美女 |
| □□□ | 318 | 沈思黙考 | チンシモッコウ | じっと深く考え込む |
| □□□ | 319 | 枕石漱流 | チンセキソウリュウ | 社会を捨て、自然の中で暮らすこと |
| □□□ | 320 | 津々浦々 | ツツウラウラ | 国中のいたるところ |
| □□□ | 321 | 適材適所 | テキザイテキショ | 能力に応じた地位や部署におく |
| □□□ | 322 | 適者生存 | テキシャセイゾン | 環境や状況に適応できるものだけが生き残る |
| □□□ | 323 | 徹頭徹尾 | テットウテツビ | 終始貫き通す・終始一貫（シュウシイッカン）と同義 |
| □□□ | 324 | 手練手管 | テレンテクダ | 人を意のままに操ろうとする技巧 |
| □□□ | 325 | 天衣無縫 | テンイムホウ | わざとらしくない、自然のままの性格・完全無欠の意もある |
| □□□ | 326 | 天涯孤独 | テンガイコドク | 身寄りもなくひとりぼっち |
| □□□ | 327 | 天下一品 | テンカイッピン | 並ぶものがないほど立派 |
| □□□ | 328 | 電光石火 | デンコウセッカ | 非常にすばやい・短い間 |
| □□□ | 329 | 天真爛漫 | テンシンランマン | 純粋無垢・飾らず無邪気 |
| □□□ | 330 | 天地開闢 | テンチカイビャク | 世界の始まり・この世の初め |
| □□□ | 331 | 天変地異 | テンペンチイ | 自然災害 |
| □□□ | 332 | 天網恢々 | テンモウカイカイ | 天は厳正であるから、悪事を見逃さない |
| □□□ | 333 | 当意即妙 | トウイソクミョウ | その場や状況に適応して気を利かせる |
| □□□ | 334 | 同工異曲 | ドウコウイキョク | 技巧は同じだが調子が少し違う・大同小異（ダイドウショウイ）と同義の、中身はほぼ同じという意味もある |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 335 | 同床異夢 | ドウショウイム | 同じ仲間でありながら異なった考えをもつ |
| □□□ | 336 | 東奔西走 | トウホンセイソウ | あちこち忙しく走り回る |
| □□□ | 337 | 得意満面 | トクイマンメン | 誇らしげな気持ちが顔中に表れている・喜色満面（キショクマンメン）とほぼ同義 |
| □□□ | 338 | 読書百遍 | ドクショヒャッペン | 難解な本も何度も読めば意味が自然とわかってくる |
| □□□ | 339 | 独断専行 | ドクダンセンコウ | 他の意見を考慮せず、自分だけで思うまま行う |
| □□□ | 340 | 独立自尊 | ドクリツジソン | 自立して、自己の尊厳を保つ |
| □□□ | 341 | 内政干渉 | ナイセイカンショウ | 他国の政治や他人の内情に立ち入ったり、口出ししたりする |
| □□□ | 342 | 内憂外患 | ナイユウガイカン | 内外に心配や問題を抱えている |
| □□□ | 343 | 難攻不落 | ナンコウフラク | 攻めるのが難しく、なかなか陥落しない |
| □□□ | 344 | 南船北馬 | ナンセンホクバ | 各地にせわしく旅をする |
| □□□ | 345 | 二束三文 | ニソクサンモン | 値段が極めて安い |
| □□□ | 346 | 日常茶飯 | ニチジョウサハン | 当たり前・ありふれたこと |
| □□□ | 347 | 日進月歩 | ニッシンゲッポ | 絶え間なく進歩する |
| □□□ | 348 | 二律背反 | ニリツハイハン | 互いに対立矛盾して、両立し得ない |
| □□□ | 349 | 年功序列 | ネンコウジョレツ | 年齢や勤続年数によって地位や給料に上下をつける |
| □□□ | 350 | 徘徊往来 | ハイカイオウライ | さまよい歩く |
| □□□ | 351 | 背水之陣 | ハイスイノジン | 必死の覚悟で事態に対処する |
| □□□ | 352 | 破顔一笑 | ハガンイッショウ | 顔をほころばせてにっこりする |
| □□□ | 353 | 博引旁証 | ハクインボウショウ | 多くの文献から用例を引用し、証拠を示して説明する |
| □□□ | 354 | 博学多才 | ハクガクタサイ | 学識が広く、才能も多方面に豊か |
| □□□ | 355 | 白砂青松 | ハクシャセイショウ<br>ハクサセイショウ | 海岸沿いの美しい風景 |
| □□□ | 356 | 拍手喝采 | ハクシュカッサイ | 賞賛し、ほめたたえる |
| □□□ | 357 | 博覧強記 | ハクランキョウキ | 多くの本を読み、豊富な知識をたくわえている |
| □□□ | 358 | 薄利多売 | ハクリタバイ | 個々の利益を少なくし、大量に売る |
| □□□ | 359 | 馬耳東風 | バジトウフウ | 人の話にまるで耳を貸さぬ・馬の耳に念仏と同義 |
| □□□ | 360 | 八面六臂 | ハチメンロッピ | 多方面で活躍する・多芸多才（タゲイタサイ）と同義 |
| □□□ | 361 | 八方美人 | ハッポウビジン | 誰からもよく思われようとする |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 362 | 波瀾万丈 | ハランバンジョウ | 人生が激しく変化に富む、浮沈が激しい |
| □□□ | 363 | 罵詈讒謗 | バリザンボウ | 罵詈雑言（バリゾウゴン）とほぼ同義 |
| □□□ | 364 | 罵詈雑言 | バリゾウゴン<br>バリゾウゲン | 悪口を言ってののしる・悪口雑言（アッコウゾウゴン）と同義 |
| □□□ | 365 | 万古不易 | バンコフエキ | いつまでも変わらない・万世不易（バンセイフエキ）、千古不易（センコフエキ）とほぼ同義 |
| □□□ | 366 | 半信半疑 | ハンシンハンギ | 本当かうそかわからず迷う |
| □□□ | 367 | 万世不易 | バンセイフエキ | 未来永劫変わらない・万古不易（バンコフエキ）とほぼ同義 |
| □□□ | 368 | 反面教師 | ハンメンキョウシ | 悪い見本 |
| □□□ | 369 | 美辞麗句 | ビジレイク | 美しく飾り立てたことば |
| □□□ | 370 | 眉目秀麗 | ビモクシュウレイ | 顔立ちが整って非常に美しい |
| □□□ | 371 | 百家争鳴 | ヒャッカソウメイ | 多くの学者が盛んに論じ合う |
| □□□ | 372 | 百花繚乱 | ヒャッカリョウラン | 優れた人材や業績が一時期にたくさん現れる |
| □□□ | 373 | 百鬼夜行 | ヒャッキヤコウ<br>ヒャッキヤギョウ | 妖怪の行列・たくさんの人があやしく醜い行いをすること |
| □□□ | 374 | 比翼連理 | ヒヨクレンリ | 夫婦の情愛が極めて深い |
| □□□ | 375 | 品行方正 | ヒンコウホウセイ | 心や行いがきちんとして正しい |
| □□□ | 376 | 風光明媚 | フウコウメイビ | 自然の景色が美しい |
| □□□ | 377 | 武運長久 | ブウンチョウキュウ | 戦いに勝つ・幸運がいつまでも続く |
| □□□ | 378 | 不易流行 | フエキリュウコウ | 永遠性と変化・松尾芭蕉の俳句理念 |
| □□□ | 379 | 不可抗力 | フカコウリョク | 人の力ではどうにもならない |
| □□□ | 380 | 不可思議 | フカシギ | 常識では考えられない怪しく異様なこと |
| □□□ | 381 | 複雑怪奇 | フクザツカイキ | 事態が非常に込み入って奇妙なこと |
| □□□ | 382 | 不倶戴天 | フグタイテン | 生かしてはおけない敵<br>例 不倶戴天の敵 |
| □□□ | 383 | 不言実行 | フゲンジッコウ | あれこれことばで言わず、行動する |
| □□□ | 384 | 不即不離 | フソクフリ | 近すぎず遠すぎない関係 |
| □□□ | 385 | 不撓不屈 | フトウフクツ | 困難にあたってもくじけない |
| □□□ | 386 | 不得要領 | フトクヨウリョウ | 要領を得ない・趣旨がはっきりしない |
| □□□ | 387 | 不偏不党 | フヘンフトウ | かたよらず、公正中立の立場をとる |
| □□□ | 388 | 不眠不休 | フミンフキュウ | 休まず一つのことに打ち込み続ける |
| □□□ | 389 | 不立文字 | フリュウモンジ | 文字ことばではなく、心と心で伝える |
| □□□ | 390 | 付和雷同 | フワライドウ | 自分の意見を持たず、他人の説にわけもなく賛成する・雷同付和とも言う |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 391 | 刎頸之交 | フンケイノマジワリ | 生死を共にする親しい交際 |
| □□□ | 392 | 粉骨砕身 | フンコツサイシン | 骨身を惜しまず、力を尽くす |
| □□□ | 393 | 焚書坑儒 | フンショコウジュ | 言論弾圧・思想統制 |
| □□□ | 394 | 平身低頭 | ヘイシンテイトウ | ぺこぺこする |
| □□□ | 395 | 変幻自在 | ヘンゲンジザイ | 姿を変えたり消したり自由自在 |
| □□□ | 396 | 片言隻語 | ヘンゲンセキゴ | ちょっとしたことば・片言隻句（ヘンゲンセキク）と同義 |
| □□□ | 397 | 傍若無人 | ボウジャクブジン | 勝手気ままに振る舞う |
| □□□ | 398 | 茫然自失 | ボウゼンジシツ | 驚きのあまり我を忘れる |
| □□□ | 399 | 抱腹絶倒 | ホウフクゼットウ | 腹を抱えて大笑いする |
| □□□ | 400 | 本末転倒 | ホンマツテントウ | 重要なこととつまらないことを取り違える・主客転倒（シュキャクテントウ）と同義 |
| □□□ | 401 | 摩訶不思議 | マカフシギ | 非常に不思議なこと |
| □□□ | 402 | 真平御免 | マッピラゴメン | まったく受け入れられない |
| □□□ | 403 | 満場一致 | マンジョウイッチ | 全員の意見が同じ・全会一致（ゼンカイイッチ）とほぼ同義 |
| □□□ | 404 | 満身創痍 | マンシンソウイ | 全身傷だらけ |
| □□□ | 405 | 三日天下 | ミッカテンカ | 非常に短い期間しか地位や権力を維持できない |
| □□□ | 406 | 未来永劫 | ミライエイゴウ | この先ずっと |
| □□□ | 407 | 無為自然 | ムイシゼン | 人間の手を加えないありのままの自然・老子荘子（ろうしそうし）の思想 |
| □□□ | 408 | 無為徒食 | ムイトショク | 何もせずただいたずらに日々を過ごす・酔生夢死（スイセイムシ）と同義 |
| □□□ | 409 | 無学文盲 | ムガクモンモウ | 学識がなく、文字が読めない |
| □□□ | 410 | 無我夢中 | ムガムチュウ | 我を忘れるほど何かに熱中する |
| □□□ | 411 | 無芸大食 | ムゲイタイショク | 何もできないのに食べるのだけは人一倍 |
| □□□ | 412 | 無間地獄 | ムゲンジゴク<br>ムケンジゴク | 絶え間のない苦しみ |
| □□□ | 413 | 無知蒙昧 | ムチモウマイ | 知識や知恵がない |
| □□□ | 414 | 無念無想 | ムネンムソウ | いっさいの雑念をはらい無心になる |
| □□□ | 415 | 無病息災 | ムビョウソクサイ | 病気にもならず健康である |
| □□□ | 416 | 無味乾燥 | ムミカンソウ | 味気ない・おもしろみがない |
| □□□ | 417 | 無理難題 | ムリナンダイ | とても解決できそうにない問題 |
| □□□ | 418 | 明鏡止水 | メイキョウシスイ | 雑念のない澄み切った心境 |
| □□□ | 419 | 名所旧跡 | メイショキュウセキ | 事件や有名な建築物があった場所やその跡 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| □□□ | 420 | 名誉挽回 | メイヨバンカイ | 一度失った評価を取り戻す・汚名返上（オメイヘンジョウ）とほぼ同義 |
| □□□ | 421 | 明朗闊達 | メイロウカッタツ | 明るく朗らかで、細かいことにこだわらない・闊達明朗とも言う |
| □□□ | 422 | 滅私奉公 | メッシホウコウ | 私利私欲を捨て、社会のために力を尽くす |
| □□□ | 423 | 面従腹背 | メンジュウフクハイ | 表面では従うと見せかけて、内心では反発する |
| □□□ | 424 | 孟母三遷 | モウボサンセン | 子供の教育には環境が大切だ |
| □□□ | 425 | 孟母断機 | モウボダンキ | 物事を中途で投げ出しては何にもならない |
| □□□ | 426 | 物見遊山 | モノミユサン | 見物し遊びに行く |
| □□□ | 427 | 門外不出 | モンガイフシュツ | 貴重品を秘蔵にして外部に貸し出したりしない |
| □□□ | 428 | 門戸開放 | モンコカイホウ | 規制をやめて出入りを自由にする |
| □□□ | 429 | 唯一無二 | ユイイツムニ | 並ぶものがまったくない |
| □□□ | 430 | 唯我独尊 | ユイガドクソン | 自分だけがえらいと思っている・一人よがり |
| □□□ | 431 | 由緒来歴 | ユイショライレキ | 物事の起源や由来 |
| □□□ | 432 | 有形無形 | ユウケイムケイ | 形のあるものと形のないもの |
| □□□ | 433 | 有終之美 | ユウシュウノビ | 最後までやりとおして立派に成果をあげる |
| □□□ | 434 | 優柔不断 | ユウジュウフダン | ぐずぐずして思い切りが悪い |
| □□□ | 435 | 優勝劣敗 | ユウショウレッパイ | 優れたものが勝ち、劣ったものが負ける |
| □□□ | 436 | 雄大豪壮 | ユウダイゴウソウ | はでやかで勢いがある |
| □□□ | 437 | 融通無碍 | ユウズウムゲ | 邪魔するものがなく自由である |
| □□□ | 438 | 有名無実 | ユウメイムジツ | 名前だけで実質がない |
| □□□ | 439 | 勇猛果敢 | ユウモウカカン | 勇気があって思い切って行動の決断ができる |
| □□□ | 440 | 悠々自適 | ユウユウジテキ | 自分の欲っするままにゆったりと暮らす |
| □□□ | 441 | 用意周到 | ヨウイシュウトウ | 準備がすっかり整う・準備万端 |
| □□□ | 442 | 容姿端麗 | ヨウシタンレイ | 顔立ちや姿が整って美しい |
| □□□ | 443 | 羊頭狗肉 | ヨウトウクニク | 見かけは立派だが、内実がともなわない |
| □□□ | 444 | 余裕綽々 | ヨユウシャクシャク | ゆったりと落ち着きはらっている |
| □□□ | 445 | 利害得失 | リガイトクシツ | 得ることと失うこと |
| □□□ | 446 | 離合集散 | リゴウシュウサン | 集まったり離れたりする |
| □□□ | 447 | 立身出世 | リッシンシュッセ | 高い地位につき有名になる |
| □□□ | 448 | 理非曲直 | リヒキョクチョク | 道理にかなっていることと外れていること |

| | | | |
|---|---|---|---|
| □□□ 449 | 流言飛語 | リュウゲンヒゴ | でたらめなうわさ話・流言蜚語とも書く |
| □□□ 450 | 竜頭蛇尾 | リュウトウダビ | 最初は勢いがいいが、終わりは振るわない |
| □□□ 451 | 理路整然 | リロセイゼン | 考え方や話の筋道がよく通っている |
| □□□ 452 | 臨機応変 | リンキオウヘン | 状況に適切に対処する |
| □□□ 453 | 輪廻転生 | リンネテンショウ | 生きとし生けるものがさまざまな形態の生を繰り返す |
| □□□ 454 | 礼儀作法 | レイギサホウ | 敬意を表すしきたり |
| □□□ 455 | 冷酷無残 | レイコクムザン | 冷たく無慈悲・冷酷無情や冷酷非情とほぼ同義 |
| □□□ 456 | 冷徹非情 | レイテツヒジョウ | 冷静で一切の感情を差し挟まない |
| □□□ 457 | 論功行賞 | ロンコウコウショウ | 功績を評価して、それに応じた賞を与えること |
| □□□ 458 | 和魂漢才 | ワコンカンサイ | 日本的精神と中国の学問を兼ね備える |
| □□□ 459 | 和魂洋才 | ワコンヨウサイ | 日本的精神を維持しつつ西洋の学問技術を取り入れる |
| □□□ 460 | 和洋折衷 | ワヨウセッチュウ | 日本風と西洋風の様式を取り合わせる |

# 解答

# 第一講　語彙と敬語　解答

## 敬語の復習問題　解答

次の各文の――線部の敬語表現について、尊敬語にはA、謙譲語にはB、丁寧語にはCの記号を解答欄に書きなさい。

① 前の首相について私はよく存じあげています。（B）
② 私から大臣に申しあげたいことがあります。（B）
③ お客様のご要望をこちらでうけたまわりました。（B）
④ ご機嫌いかがでございますか。（C）
⑤ 先生がおっしゃることはよくわかりました。（A）
⑥ お茶碗は私が念入りに洗っておきました。（C）
⑦ お客様は先ほどお帰りになりました。（A）

# 第二講　文学史と口語文法　解答

## 近代文学史の復習問題　解答

その１　『あこがれ』『一握の砂』『悲しき玩具』などの詩集や歌集を残した近代の歌人は誰か。

ア　夏目漱石　イ　森鷗外　**ウ　石川啄木**　エ　武者小路実篤

その２　夏目漱石の門下生で、『羅生門』『鼻』『芋粥』など日本の古典を下じきにした作品を書いた小説家は誰か。

ア　斎藤茂吉　イ　樋口一葉　ウ　柳田国男　**エ　芥川龍之介**

その３　近代の文学理論書で言文一致を説いたものはどれか。

ア　『歌詠みに与ふる書』　**イ　『小説神髄』**　ウ　『小説の方法』　エ　『「いき」の構造』

その４　日本人初のノーベル文学賞受賞者は誰か。

**ア　川端康成**　イ　湯川秀樹　ウ　大江健三郎　エ　村上春樹

その５「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」などの短歌を収録した石川啄木の歌集はどれか。

ア　『智恵子抄』　イ　『道程』　ウ　『春と修羅』　**エ　『一握の砂』**

その６「のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳ねの母は死に給ふなり」などの短歌を収録した斎藤茂吉の歌集はどれか。

**ア　『赤光』**　イ　『みだれ髪』　ウ　『別離』　エ　『鍼の如く』

その7 「鶏頭の十四五本もありぬべし」などの写生句で知られる正岡子規が創刊に関わった雑誌はどれか。

ア『文学界』 イ『新思潮』 **ウ『ホトトギス』** エ『歴程』

その8 明治時代、夏目漱石の初期の作品で、「親譲りの無鉄砲で小供の頃から損ばかりしている」ではじまる小説はどれか。

ア『細雪』 イ『それから』 ウ『こころ』 **エ『坊ちゃん』**

その9 明治時代、森鷗外の作品で、ドイツ留学の経験をふまえた小説はどれか。

ア『渋江抽斎』 イ『高瀬舟』 **ウ『舞姫』** エ『風土』

その10 大正時代、白樺派の志賀直哉によって書かれた自伝的な小説はどれか。

**ア『城の崎にて』** イ『蒲団』 ウ『蟹工船』 エ『李陵』

その11 昭和初期、四季派に属する中原中也によって発表された詩集はどれか（二つ）。

**ア『山羊の歌』** **イ『在りし日の歌』** ウ『一握の砂』 エ『若菜集』

その12 日本人としては二人目のノーベル文学賞受賞者である大江健三郎の小説はどれか。

ア『沈黙』 **イ『飼育』** ウ『伊豆の踊子』 エ『雪国』

その13 明治時代、雑誌「ホトトギス」に掲載された夏目漱石のデビュー作はどれか。

**ア『吾輩は猫である』** イ『三四郎』 ウ『明暗』 エ『枯野抄』

その14　大正時代、『今昔物語集（こんじゃくものがたりしゅう）』などの古典をもとにして、人間心理を表現した芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ）の作品はどれか。

ア『檸檬（れもん）』　イ『山椒魚（さんしょううお）』　**ウ『鼻（はな）』**　エ『風立（かぜた）ちぬ』

その15　川端康成（かわばたやすなり）の代表作で、「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠（あまぎとうげ）に近づいたと思う頃」ではじまる作品はどれか。

ア『雪国（ゆきぐに）』　イ『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』　**ウ『伊豆（いず）の踊子（おどりこ）』**　エ『或（あ）る女（おんな）』

その16　東北地方の農学校に勤めつつ多くの詩を残した宮沢賢治（みやざわけんじ）の童話はどれか。

**ア『銀河鉄道（ぎんがてつどう）の夜（よる）』**　イ『暗夜行路（あんやこうろ）』　ウ『田舎教師（いなかきょうし）』　エ『蒲団（ふとん）』

# 口語文法（現代文法）の復習問題　解答

## 文節の相互関係

次の――部の文節について、相互の関係は何か、選択肢ア～オから選んで記号で答えなさい。

選択肢【ア　並立の関係　イ　修飾・被修飾の関係　ウ　接続の関係　エ　主語・述語の関係　オ　補助の関係】

①　真っ白な　雪が　屋根に　積もった。（エ）
②　お腹が　すいたから、昼食に　しよう。（ウ）
③　アメリカと　韓国の　大統領が　訪日する。（ア）
④　来年度の　学習計画を　発表して　みよう。（オ）
⑤　ここは　見事な　桜並木ですね。（イ）

# 品詞の分類 解答

次の1～4は口語文法の用語だが、ア～エの中からそれぞれの説明として適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

1 **形容動詞**

ア 活用し、終止形の末尾が「い」になる。 形容詞

**イ 活用し、終止形の末尾が「だ」になる。**

ウ 活用せず、修飾語になる。 副詞・連体詞

エ 活用せず、主語になる。 名詞

2 **副詞**

ア 活用し、名詞を修飾する。 動詞・形容詞・形容動詞

**イ 活用せず、形容詞や動詞などを修飾する。**

ウ 活用し、独立語になる。

エ 活用せず、述語になる。

3 **助動詞**

ア 自立語で、述語になる。 動詞・形容詞・形容動詞

イ 自立語で、主に体言を修飾する。 連体詞

**ウ 付属語で、活用する。**

エ 付属語で、活用しない。 助詞

4 **名詞**

**ア 体言とも言い、主語になれる。**

イ 用言とも言い、述語になる。 動詞・形容詞・形容動詞

ウ 体言とも言い、修飾語になる。

エ 用言とも言い、終止形は「ウ」の音になる。 動詞

# 名詞の分類　解答

次の――部はすべて名詞であるが、その分類として最も適切なものを選択肢ア～オから選び、記号で答えなさい。

選択肢【ア　数詞　イ　普通名詞　ウ　形式名詞　エ　代名詞　オ　固有名詞】

① 明日は、ところによっては雷雨となるでしょう。（ウ）
② 飛行機は太平洋上空にさしかかったようだ。（オ）
③ 地図を見ると大きな河川が平野を流れている。（イ）
④ 休みも終わり、まもなく二学期の始まりです。（ア）
⑤ 彼とは小学校で出会い、それ以来の友人だ。（エ）

# 副詞と連体詞　解答

次の各文の――線部について、品詞が副詞であるものにはA、連体詞にはB、それ以外の品詞にはCの記号を書きなさい。

① 学校の正門わきに、大きな桜の木があります。（B）
② 遅刻しそうで、今朝は、少しあわてて家を出ました。（A）
③ 駅前に、おいしいパンを売るお店ができたそうです。（C）
④ 昨夜以来、雨がしとしと降り続いています。（A）
⑤ あらゆる国のリーダーが参加する会議が開かれます。（B）

## 「ない」の識別　解答

次の傍線部と文法上の用法が同じものをア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

美しくないけれども品がある。

⬇形容詞

ア　小説はめったに読まない人。　助動詞

イ　土曜日は出社しない予定です。　助動詞

**ウ　新聞に目を通す暇もない。**

エ　雨にはならない様子。　助動詞

## 「さえ」の識別　解答

次の各文の――線部について、限定や条件を示すものにはA、極端な例示にはBの記号を書きなさい。

①　本さえあれば日曜をすごせる。　（　A　）

②　目の前にあってさえ信じない。　（　B　）

③　あいさつする時間さえないらしい。　（　B　）

④　子供でさえ理解できる内容だ。　（　B　）

⑤　彼さえ参加してくれれば大丈夫だ。　（　A　）

## 「に」の識別　解答

次の各文の――線部について、形容動詞の末尾を示すものにはA、副詞の末尾にはB、助詞にはCの記号を書きなさい。

① 課題に真剣に取り組んでいる。（A）
② すでに遠くへいってしまった。（B）
③ 週末は駅前に集合する。（C）
④ 彼はしきりに左腕をさすった。（B）
⑤ 春から大学に進学します。（C）

## 「だ」の識別　解答

次の――部の分類として最も適切なものを選択肢ア～カから選び、記号で答えなさい。

選択肢
【ア　形容動詞の末尾　イ　過去の助動詞　ウ　断定の助動詞
エ　伝聞の助動詞の末尾　オ　様態の助動詞の末尾　カ　不確かな断定の助動詞の末尾】

① 今年は例年になく暖冬になるそうだ。（エ）
② 彼はこの時間から出勤するようだ。（カ）
③ 彼女こそがクラスのリーダーだ。（ウ）
④ この土地の魚料理は味わい豊かだ。（ア）
⑤ 暖炉があって室内はあたたかそうだ。（オ）
⑥ あのミステリー小説は昨年読んだ。（イ）

# 第三講　接続語　解答

## 練習問題１　解答

① 日本には、ボランティア団体であるＮＰＯ法人が四万以上ある。［とりわけ］、数が多いのは、保健医療福祉分野の団体である。
② 日本での寄付の総額は一兆円である。そのうち、個人の寄付が約五十二％、［また］法人が約四十八％となっている。
③ アメリカでは州によってはボランティアが中高生の必須科目になっている。［例えば］、カリフォルニア州では十二時間の活動が卒業までに必要である。
④ 衆議院選挙の投票率は若い世代ほど低い傾向にある。［そのため］、若者の政治的無関心が広がっていると言われる。
⑤ 産業用ロボットの稼働台数は世界一と言われる。［つまり］、製造業の自動化が日本では進んでいるのだ。

## 練習問題２　解答

① なるほど、男女雇用機会均等法はこれまで改正を重ねてきた。［しかし］、男女格差が十分に是正されているとは言えない。
② 日本の新聞発行部数は、九〇年代末をピークに、［その後］、ゆるやかに減少傾向を続けている。
③ 国際競争力では、日本の技術開発力［ならびに］、消費者の洗練度は最高水準である。
④ ［たしかに］、企業は自社の利益を真っ先に考えるものだ。しかし、社会的責任も考えに入れなければならない。
⑤ 地方自治体は、様々な課題に直面している。［なかでも］、空き家やゴミ屋敷は深刻な問題だ。

## 練習問題3　解答

① 世界では難民問題が深刻化している。戦争難民が二千万人を超え、［その上］、環境難民も二千万人を超えている。
② 淡水は実は希少資源である。［なぜなら］、地球上の水資源のうち海水がおよそ九七％を占めるからだ。
③ 廃プラスチックの相当な量が、再利用されているか、［あるいは］、熱回収という方法で役立っている。
④ 野生動物の保護を目的とするワシントン条約については以上です。［では］、湿地保護のラムサール条約の話に移りましょう。
⑤ 世間のイメージに反して、少年の凶悪犯罪の総数は増えてはいない。［むしろ］、数は減少傾向である。

## 接続語の復習問題1　解答

① ［あたかも］教育立国であるかのように思われがちだが、日本では教育費の私費負担率が高いのが実態である。
② 例えば、内科、外科、婦人科、小児科、眼科などがある。［このように］、病院の診療科は多岐にわたる。
③ ジェネリック医薬品の普及率が上昇しつつある。［というのも］、政府の促進予算が付くようになったからだ。
④ 公共交通機関のバリアフリー化はまだ十分とは言えない。［それゆえ］、移動に制約や困難を伴う人が多くいる。
⑤ なるほど医師の総数は増えている。［けれども］、産科婦人科医は減っているのが日本の現状である。

# 復習問題2　解答

知識とは眼鏡である。

もちろん、これは、すべての知識人は眼鏡をかけているなどという意味ではない。正確に言えば、知識とは、それがあるときとないときとでは、ものの見え方、世界のあらわれ方が違ってくるものであり、その点で眼鏡になぞらえることができる、と言いたいのである。ゆえに正確には、知識とはまるで眼鏡のように機能するものである。

実際に眼鏡をかけている人にはわかりやすいだろうが、それまで茫漠（ぼうばく）とかすんでいた視界が、眼鏡をかけたとたん、はっきりと見えてくる。さっきまでぼやけていたあの物は、実はこういう物だったのか、という具合に。

同様に、知識があれば今までわからなかったことに説明がつく。例えば、子供の頃に説明がついていた世界と大人になった今、説明理解できる世界とを比べれば、このことはわかりやすいだろう。

ところで、知識には様々な種類がある。**したがって**、「眼鏡」をかけることで、それぞれに見えてくる世界がちがうということになる。**例えば**経済学の知識＝「眼鏡」があれば、人間の社会活動やお金の流れなどは、他の人とは違って見える。**また**、法律学者が見ているこの世界と他の人が見ているこの世界とでは違いがある。さらに、知識がより体系化されたものである「理論」は一層、眼鏡らしい性質をもつ。端的な例を挙げれば、マルクス主義の理論から見れば、世界は階級対立の世界と映る。この意味で、知識とは色眼鏡であると表現することもできる。また特殊な領域を知り、理解するためには特殊な知識や理論が必要になる。こうした専門知識での眼鏡は**まるで**、顕微鏡や天体望遠鏡のように機能すると言うことができる。

（小柴（こしば）　大輔（だいすけ）『知識とはどういうものか』）

# 復習問題3　解答

私たち人間の認識、知識の状態には三つの段階があるように思われる。［すなわち］、知識が頭の中にある状態、口で話された状態、そして文字で「かかれた」状態の三つである。

［例えば］、私たちは次のようなことを日常的に経験しているのではないだろうか。ある事柄について、頭ではわかっているつもり、自分ではわかっているはずのことを、いざ人に話して説明しようとするとうまくいかないという経験だ。［あるいは］、会話の中ではすらすら言えたことが、文字・文章として書き記そうとすると、つっかえてしまうという経験である。［このように］、認識、知識の三つの状態の間には明らかに断絶が存在する。

さて、これら三つの間の違い、差異について考えていく前に重要なことは、この三つの状態いずれにも言葉、言語が関わっているということである。話したり書いたりするときに言葉が使われるということは言うまでもないが、頭の中で考えるときにも私たちは言葉を使って考えている。疑わしいと思う人は、自分で早速試してみるがいい、言葉を使わずに考えることができるかどうか。ここに書かれていることに対する同意にしろ反論にしろ、あなたはすでに言葉を使ってそうしているはずだ。いや、思考というより、もっと感覚的な次元においてすら、「痛い」「おいしい」「悲しい」「うれしい」等々、私たちは言葉を通じて感じているのである。

［では］、知識＝認識が頭の中にある状態、話された状態、書かれた状態の三つの差異は、どのようなものとしてあらわれてくるのか。すなわち、それらの間に横たわっているのは言葉の明確さ・明断性の度合いの違いであり、普遍性の程度の違いである。言い換えれば、知識＝認識が頭の中にある状態では、それは自分だけの了解であったわけだが、話すときには自分以外の他者にもわかるように、みんなが共有している言葉の規則（言語学や記号論では、こうした共通規則のことをコード＝Codeと読んだりする）や文法に従って話さなければならない。だから、頭の中にとどまっていた状態に比べ、話されるときには、知識＝認識は明瞭になっているわけだし、またあまりに曖昧なままの知識＝認識は言葉で語ることができない（自分ではわかっているつもりだったのに、うまく他人に説明できない）ということになる。

（小柴　大輔『「かく」ということについて』）

# 復習問題4　解答

発話の場合には、表情やしぐさといった非言語的な仕方で意味をくみとってもらえる可能性があり、不明瞭で曖昧でひどく簡略化された言葉遣いでも、案外会話は成り立ってしまう。相手の性格や人柄を知っているときにはなおさらだ。例えば、ごく親しい友人同士の会話や親子の間の言葉のやりとりを想起したらわかるだろう。

かくて、書くという段階にいたって知識＝認識を表現し、他者に理解してもらうのに頼れるのは言葉の共通規則だけということになる。いや、むしろ言葉の共通規則だけに頼るからこそ、明確性（自分だけでなくみんなにもわかる）が増す。個人的知識、主観的知識が普遍的、客観的知識へと変貌する。ゆえに、文章を書くときに感じるわずらわしさや苦しみは、頭の中にあった独りよがりの思考を、言葉の共通規則に乗せることの苦しみ、困難さということになる。こうした困難さを伴うとはいえ、頭の中で眠っていた知識＝認識、すなわち可能性としてだけ存在していた知識＝認識が、言葉の共通規則を通じて現実に表現され、明確化される。古代哲学の巨人、アリストテレスのことばをかりれば、「デュナミス（可能態）からエネルゲイア（現実態）へ」ということになろうか。

けれども、この短い論考で述べようとしている「かく」ということの特異性は、明確性ということに尽きない。というのも、「かく」ということのなお一層の特異性とは、「かかれた」ものが自律性をもつということであるからだ。つまり、文字なり活字なりによって紙の上に記されることで、それを生み出した人間の身体（思考過程や脳を含んだ身体）から独立した実体を獲得する。先に書かれた知識が個人的なものではなく他者にもわかるという意味で客観的だと述べたが、実は主観・意識・思考過程から離れて「物」となったという意味でも「かかれた」ものは客観的である。

こうして「かく」という行為を通じて自律化・客観化されたものは広く他者によって見られたり、鑑賞されたり、批評、批判されたりすることになる。その際に重要なことは、書き手＝筆者の意図とは別に評価されたり、批判されたりすることがあるということである。この意味でも「かかれた」ものは自律性と独立性をもつ。この点、小説や論文だけでなく、絵画や彫刻などの美術作品についても全く同様のことが言える。

かくして、私たちは広く「かく」という行為を通じて自らの知識＝認識を明確化し、［また］思考を自律化、客観化することができる。そうしてはじめて気づく自分というものもあろう。つまり、「かく」ということは、［いわば］客観化された自分との対面の場とも言えそうだ。

（小柴 大輔『「かく」ということについて』）

〈 Memo 〉

〈 Memo 〉

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。